

事業報告書

令和元年度“歩き遍路”を目的とした
欧米豪からの訪日外国人旅行者の受入環境整備対策事業

令和2年3月

国土交通省 四国運輸局

目 次

事業の趣旨	0 2
【1】 四国遍路の現状と課題	0 3
1. 四国遍路の捉え方	
2. 四国遍路の現状	
3. 外国人遍路の現状と課題	
【2】 本事業の目的と取組概要	0 6
1. 本事業の目的	
2. データの収集	
【3】 調査結果と態勢整備等のあり方	1 1
1. 外国人遍路の概要	
2. 外国人目線による四国遍路	
3. 宿泊施設等の環境整備	
4. 困りごとの状況と Web サポート	
5. GPS 動態分析	
【4】 観光資開発のビジョン	7 1
1. 調査結果の要旨	
2. 内外先進地域に倣った観光地開発	
3. 将来を展望した受入態勢の構築	
4. 四国遍路をフックとする四国の観光戦略	
【資料】	7 8
資料 1. 有識者等	
資料 2. データ収集態勢	
資料 3. アンケート調査概要	
資料 4. GPS 動態データの詳細	

事業の趣旨

本事業は、四国4県を営業基盤とする四国旅客鉄道株式会社と四国アライアンス地域経済研究分科会のメンバーである一般財団法人百十四経済研究所の連携により、四国の最重要観光資源の一つである四国遍路について、外国人目線による現状と課題を浮き彫りにし、観光地開発の方向性を明らかにしようとするものである。

世界的な巡礼旅・歩き旅ブームのなかで、四国遍路と類似性が見られる国内外の観光地が脚光を浴び、世界各地からの誘客に成功している。スペインのサンティアゴ巡礼路は海外からの旅行者が年間20万人を超えており、我が国の熊野古道も欧米豪を中心に年間4万人を越える外国人旅行者の獲得に成功している。両観光資源は、既に世界文化遺産登録がされているが、一般に世界遺産登録の観光面での賞味期限は3年と言われており、両者が観光地として誘客を拡大し続けているのは、世界遺産登録だけが功を奏しているとは言えない。

そのような状況を踏まえて、四国遍路についても、関係者による世界文化遺産登録に向けた取り組みが継続して行われる傍ら、観光資源開発に向けた旅行コンテンツの造成、受入環境整備、プロモーション等の取り組みも同時に進められてきた。そのような努力の結果、四国遍路への外国人旅行者の数は増加しているが、まだ年間500人程度と極めて低い水準にとどまっている。四国遍路は、寺院、遍路道、伝統、お接待、自然、原風景、周辺観光等の観光素材に、巡礼文化というバックボーンを通すことで回遊型の観光資源を構成しており、国内外の類似観光資源に劣後することは考えにくい。

四国遍路が巨大であるがゆえに、その観光資源としてのあり方については、様々な議論がなされ、数多くの課題が指摘される中で、自治体、関係団体、地域住民、ボランティア等が、遍路文化の維持・発展にとどまらず、四国遍路をテーマとする地域活性化に向けた取り組みにも注力している。しかし、それらの取り組みは地域・分野毎の取り組みにとどまり、外国人遍路の実態や意向について全体としての情報に欠け、部分最適になっている可能性がある。

本調査では、これまで議論されてきた外国人遍路の実態や意向について、ICTを活かしたGPSデータの収集、お遍路交流サイトの開設、Webサポートの提供、詳細なアンケートや面談等によりあらためて検証を行い、受入環境、潜在観光ニーズの両面から観光開発のあり方を明らかにしようとするものである。

【1】四国遍路の現状と課題

1. 四国遍路の捉え方

四国遍路とは、四国一円に点在する空海ゆかりの88ヶ所の寺院を巡礼するものであり、1番札所霊山寺を起点に88番札所大窪寺を経て1番札所に戻る、世界的にも稀な回遊型の巡礼路を形成している。その総延長は約1,200kmとされており、全行程を一気に巡る場合、歩きで40～50日程度、四国発着のバスツアーでも13日程度を要する。四国遍路は、平成27年に文化庁により日本遺産として認定されており、現在、世界文化遺産登録に向けた地域の取り組みが進められている。

四国遍路の歴史を見ると、平安時代には僧侶の修行の場であったものが、江戸時代に大衆化が進み活況を呈したが、近代に入ると長距離巡礼の厳しさから、少数の巡礼者に限られるようになった。戦後には、巡拝バスやマイカーの利用により巡礼者の数が急増したものの、近時は減少の一途を辿り、代わって、外国人遍路が増加傾向にある（図表1-1）。

このように四国遍路は、外国人遍路の受入という新たな時代に入っているが、観光開発については、伝統を守りつつグローバルな視野に立った対応が必要だと考えている。また、類似性のあるサンティアゴ巡礼路や熊野古道では数万から数十万の外国人旅行者が訪れており、四国遍路についても外国人遍路が近い将来、数千人から1万人を超える水準まで増加することも視野に入れた対応が必要だと考えており、本事業では、そのような視点に立って、四国遍路の観光資源としてのあり方を考える。

図表1-1 四国遍路の歴史と令和の遍路

時代	特徴
① 平安～江戸時代 修行の場→大衆化	平安時代末期から鎌倉時代は僧侶の修行の場。 江戸時代には「四国遍路道指南」が発行されるなど、大衆化が進む。
② 近代の遍路	1,200kmを歩き通す四国遍路は苦痛や危険を伴うため、四国遍路は少数の巡礼者に限られていた。
③ 昭和の遍路 団体バス	伊予鉄道が1953年/S28に「四国八十八ヶ所順拝バス」を開始し、「団体バス遍路」が一般化。その後、個人旅行の普及により減少。
④ 平成の遍路 マイカー	本四連絡橋や高速道路の整備により、マイカーの利用が加速（1988年/S63年 瀬戸大橋開通）。近年は減少傾向。
⑤ 令和の遍路	伝統を守りながら「多様性の時代に適合」するような変化が必要。

<環境認識>

- ・人口減少、働く高齢者の増加
- ・若年層の宗教離れ、レジャーの多様化
- ・巡礼旅や自然体験嗜好の広がり

<令和の四国遍路>

四国遍路＝多彩な要素を統合した壮大な地域資源

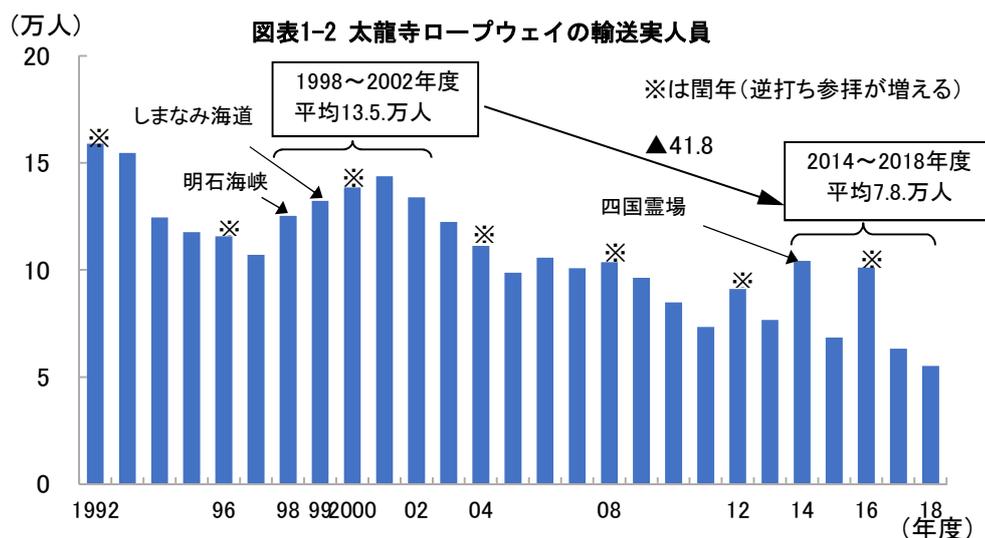
→ 若者、外国人を含めた多様な人々を惹きつける精神性の強い観光地として発展？

資料：地域住民セミナー資料（百十四経済研究所作成）より

2. 四国遍路の現状

(1) 日本人遍路の減少

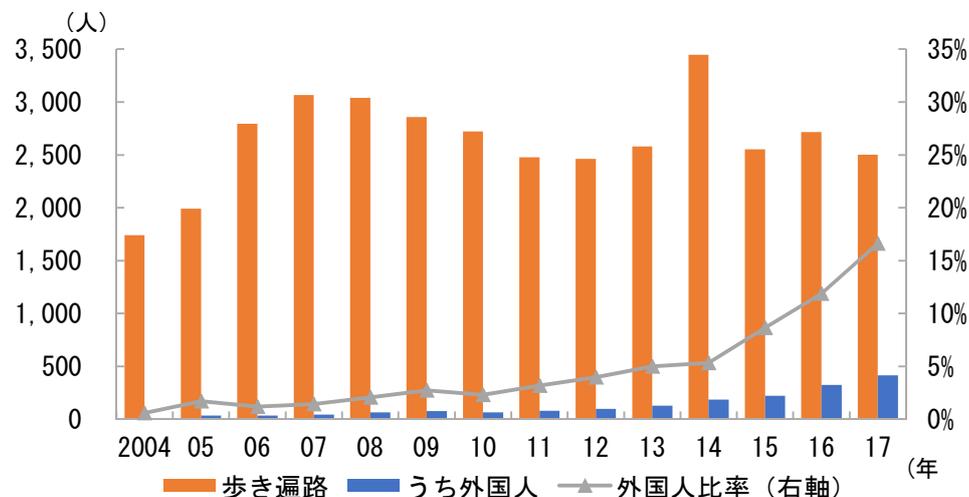
四国遍路は、近年、来訪者の数が大きく減少している。四国霊場 21 番札所太龍寺と麓を結ぶ太龍寺ロープウェイの輸送実人員の推移や札所へのアンケート結果によると、その減少幅は 10 数年前に比べ 4 割程度的大幅なものになっているとの見方もある（図表 1-2）。その要因は、来訪者の大半を占める団体バス遍路とマイカー遍路の減少であり、今後も、人口減少、働く高齢者の増加、宗教離れ、レジャーの多様化等により、増勢を回復するのは容易ではないと考えられている。



(2) 外国人遍路の増加

NPO 法人遍路とおもてなしのネットワークによる「遍路大使任命数¹」によると、歩き遍路の数は堅調に推移しており、なかでも外国人歩き遍路は過去 10 年間で 10 倍という大きな伸び率を見せている。ただし、外国人歩き遍路の人数は 500 人程度（2019 年予想値）にとどまっております絶対数は非常に少ない（図表 1-3）。

図表1-3 遍路大使任命数（対象：結願した歩き遍路）

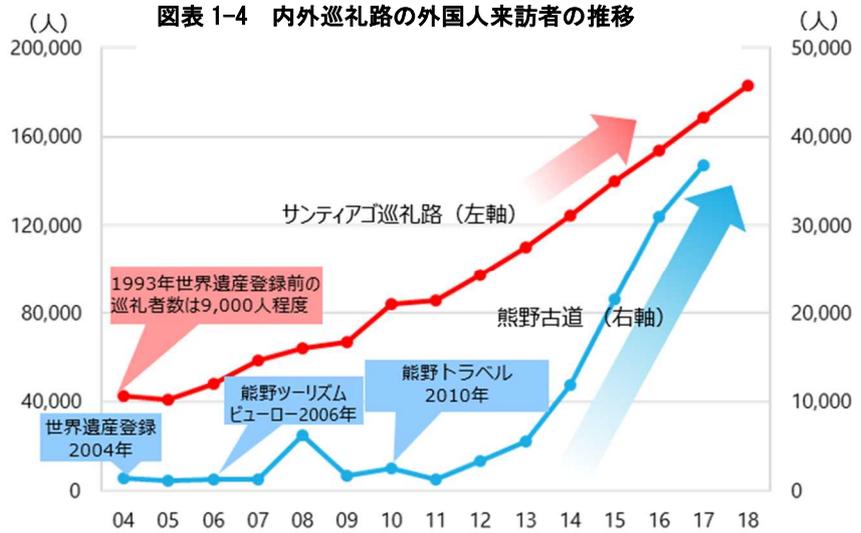


¹ NPO 法人「遍路とおもてなしのネットワーク」が歩いて結願した外国人遍路を「遍路大使」として任命した人数。

3. 外国人遍路の現状と課題

(1) 先進地域の状況

世界的な歩く巡礼旅ブームのなか、四国遍路と類似性の高いスペイン・サンティアゴ巡礼路、熊野古道等では、外国人旅行者の数が飛躍的に増加している（図表 1-4）。世界文化遺産登録が旅行者の増加に寄与している面もあるが、両地域とも、明確なコンセプトにより観光開発を継続的に行ってきたことが外国人旅行者の伸びに繋がっていると考えられている。それらの地域に比べると、四国遍路の外国人旅行者の数は明らかに少なく、観光開発に向けたオール四国としての取り組みが不十分との見方も少なくない。



資料：四国アライアンスほか「新時代における遍路受入態勢のあり方調査」（2019年）

(2) 地域の現状

世界文化遺産登録に向けた取り組みが進められるなか、自治体、関係団体、地域住民、ボランティア等は、遍路文化の維持・発展にとどまらず、四国遍路をテーマとする観光まちづくりによる地域活性化に向けた取り組みにも注力している。四国遍路は、中山間部の過疎地を含む 1,200km・88ヶ寺を 40～50 日かけて歩く巡礼体験（体験型観光コンテンツ）である。外国人遍路は、事前に正確な旅程が立てられず、旅マエに宿泊予約を取ることなく、生活習慣・文化の異なる環境で長期間過ごすことになるため、一般の旅行者と異なり日々の生活面のサポートが必要だということが認識され始めているものの、例えば外国人がストレスなく宿泊予約が取れるような仕組みは実現できていない。

(3) 取組方針

外国人遍路の受入環境整備等に対する自治体、関係団体、有識者、ボランティア等による対応は外国人遍路の困りごと緩和などの面で一定の効果をあげている。しかし、四国遍路は、お寺、遍路道、地域のお接待、宿泊・飲食施設等、数多くの要素が関係しており、各関係者の各々の立場から行っている取り組みが、全体から見て最適な施策になっていない可能性もある。四国遍路が例えば熊野古道のように数多くの外国人旅行者を受入れようとするなら、ボランティアや地域・関係者毎に異なる対応ではなく、外国人遍路のニーズを正確に把握し、全体最適化に向けた対応が不可欠と考えられる。

【2】本事業の目的と取組概要

1. 本事業の目的

昨今のスマートフォンを利用する旅行スタイルへの変化を踏まえ、本事業では、従来のアンケート調査や聞き取り調査に加え、ICTを活用して、Web環境による意見・困りごとの収集やGPSによる動態データの収集等、多面的データの収集・分析を行うことにより、四国88カ寺を主に歩いて周遊する欧米豪の外国人旅行者の巡礼実態、困りごと、期待・満足度、潜在的観光ニーズ等について明らかにする。

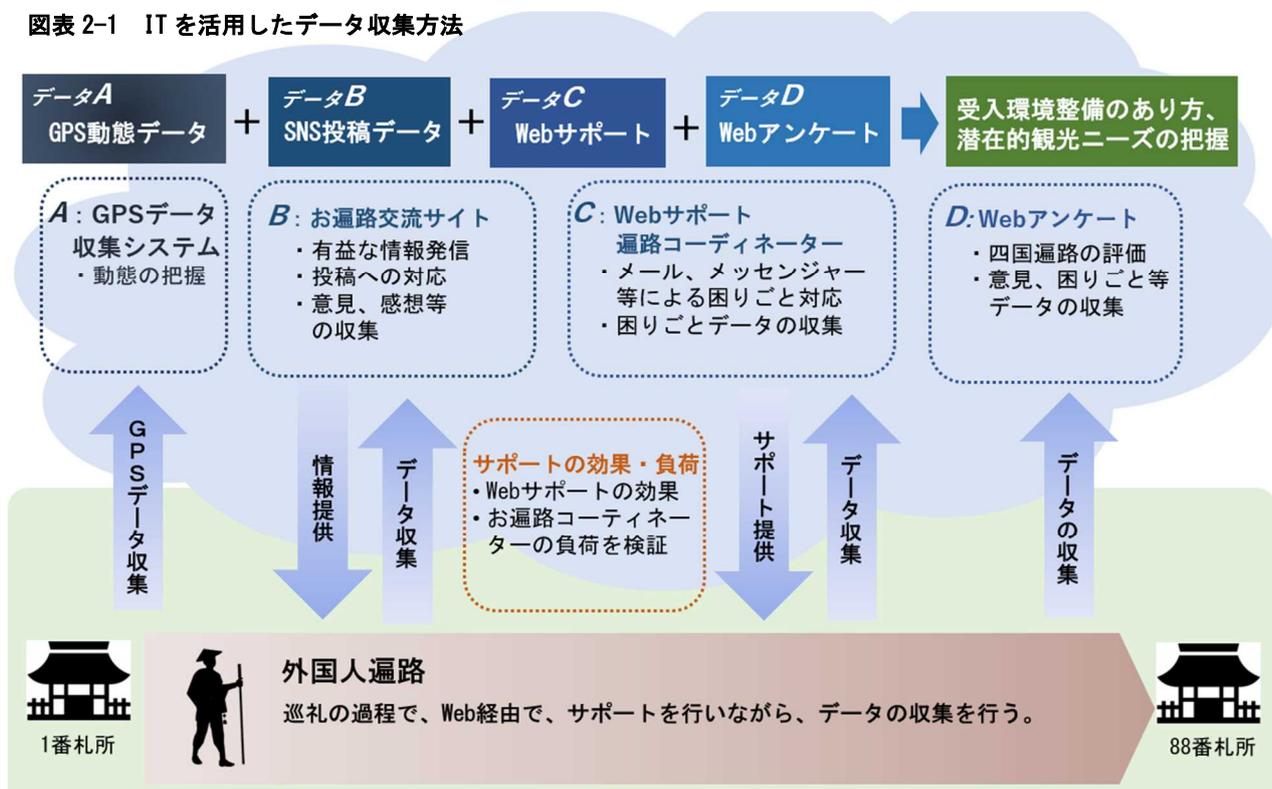
このことにより、四国遍路の受入環境整備の方向性、周辺観光や四国遍路自体の観光コンテンツとしての訴求の仕方等について、これまで関係者の間で認識されてきた仮説を検証するとともに、効果的整備に向けた新しい発見をも併せて追及し、四国遍路の観光開発に向けた四国全体として最適な戦略を検討するものである。

2. データの収集

(1) ITを活用したデータ収集方法

本事業では、外国人遍路の動態・嗜好・意見等を明らかにするため、四国88カ所を巡礼²しようとする外国人遍路³にスマートフォンを無償で貸与し、A:GPSデータの取得、B:SNS投稿データの収集、C:Webサポートの実施と意見・困りごと等の収集、D:Webアンケートデータの収集等を同時に行い、収集した動態データ、意見・困りごと等のデータを多面的に分析して受入環境や潜在的観光ニーズの検証・発見を試みた(図表2-1)。

図表2-1 ITを活用したデータ収集方法



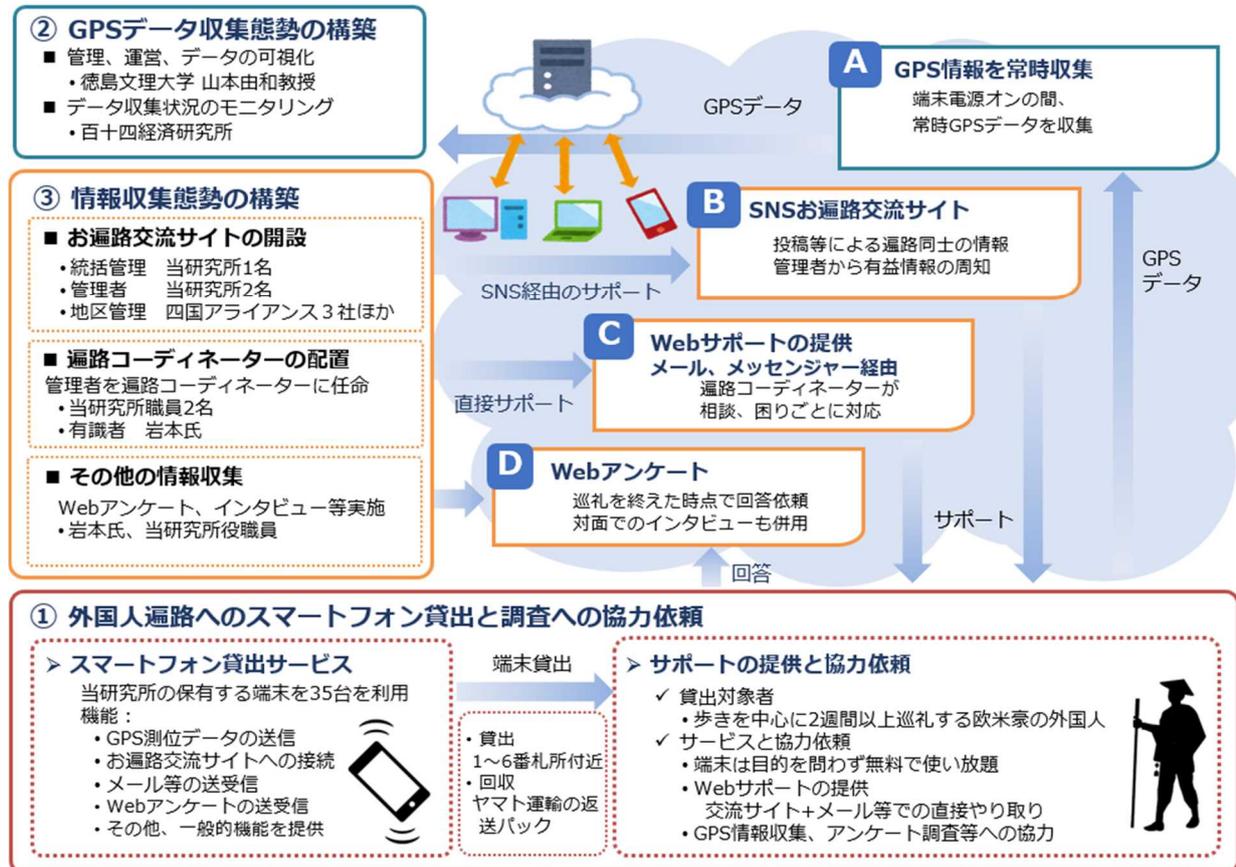
² 巡礼に宗教的意味合いはなく「歩き旅」のような概念として用いる。

³ 外国人遍路とは、観光目的で周遊する外国人も含む概念として用いる。

(2) データ収集態勢構築によるデータ収集

本事業を実施するために、図表 2-2 ①～③の態勢を構築し、四国を訪れる外国人遍路に協力を依頼し、Web サポートサービスの提供と併せて必要データの収集を行った。

図表 2-2 データ収集態勢



① 外国人遍路へのスマートフォン貸出と調査への協力依頼

当研究所が保有するスマートフォン 35 台を活用して、四国遍路のスタート地点において、以下の条件で外国人遍路にスマートフォンを貸与して調査を行った。

項目	条件等
外国人の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、欧米豪の諸国から訪日した外国人旅行者が対象。 ・年齢、性別等は考慮しない。
周遊形態	<ul style="list-style-type: none"> ・主に歩いて四国 88 カ所を巡礼する外国人を対象とする。 ・滞在日数等の制約から、88 ヶ所全部を巡礼しなくても、2 週間以上の巡礼を予定している外国人は対象に含める。
スマートフォン貸与の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・所定の規約を理解し、承諾書に同意する。 ・周遊期間中、GPS データの取得の許容、お遍路交流サイトへの登録、サポートサービスの利用、アンケート調査への回答等、必要なデータの収集に協力する。
提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・巡礼期間中、スマートフォンを無償で無制限に利用できる。 ・お遍路コーディネーターとのメール、メッセージによるやり取りやお遍路交流サイトへの投稿などにより Web でサポートが受けられる。 ・GPS データの収集、アンケート調査に協力する。

② GPS データ収集態勢の構築

スマートフォンを所持する外国人遍路の動態データを収集するため、当研究所と徳島文理大学との協働で構築した GPS 測位データ収集システムを活用した。

項目	内容
データ収取の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> GPS 測位データをスマートフォンからサーバーに送信するソフトを開発してスマートフォンに実装。外国人遍路が所持するスマートフォンから送られてくる測位データを当研究所のサーバーに蓄積する。
測位情報送信タイミング	<ul style="list-style-type: none"> 測位データは、可視化を前提として、50m 移動する毎に記録する仕様とした。

③ 情報収集態勢の構築

スマートフォンを所持する外国人遍路に対し、Web 上で、困りごと等のサポートの実施と意見、困りごと等のデータ収集を併せて行うためにお遍路交流サイトを開設し、外国人遍路をサポートする遍路コーディネーターを配置した。

実施事項	内容
お遍路交流サイトの開設	<ul style="list-style-type: none"> 当研究所がフェイスブックに開設したお遍路交流サイトを運営するために、以下の人員を配置した。管理者等は、外国人遍路が必要とする情報提供を行うとともに、外国人遍路からの投稿等に対応する。 <ul style="list-style-type: none"> 統括管理者 当研究所職員 1 名 管理者 当研究所職員 2 名、有識者 1 名 地区管理者 四国アライアンス 3 社の職員 協力者 遍路関連事業者、団体役員の協力を得た
遍路コーディネーターの配置	<ul style="list-style-type: none"> Web 上で外国人遍路のサポートを行いつつ、意見や困りごと等の収集を行うためのスタッフとして、遍路コーディネーター 3 名を配置した。遍路コーディネーターはメール、メッセージ等コミュニケーションツールを用いて外国人遍路の困りごとに対応する。 将来の事業化も視野に入れて、遍路コーディネーターによる Web サポートの効果や対応負荷等も併せて計測した。
Web アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン貸与者 37 人以外からも、外国人遍路の意見、困りごと等のデータを幅広く収集するため、Web からアンケート協力者を募集し、別途 48 人へのアンケート調査を行った。アンケート協力者は、2019 年または近年、四国遍路の巡礼経験のある欧米豪の外国人に依頼し、協力者の合計は 85 人となった。 外国人遍路の都合がつく場合は、アンケートを高松市近辺においてインタビュー形式で行った。

④ データ収集結果

スマートフォン貸与者 37 人および Web アンケート協力者 48 人、合計 85 人の協力を得て、分析に活用できる水準のデータを以下のとおり取得した。調査が秋季 1 シーズンとなったため、貸出者は 37 人とどまった。

データの内容	人数	備考
◇ スマートフォン貸出者 37 人		
データ A. GPS データ	19 人	分析対象になるデータが取れた人数
データ B. お遍路交流サイトの投稿	9 人	サイト登録者 14 人の内、投稿を行った人
データ C. Web サポートの利用	17 人	メール、メッセージによるサポート
(アンケート)	(16 人)	(Web 経由 3 人、対面 13 人)
◇ アンケート協力者 48 人		
(アンケート)	(48 人)	(Web 経由 42 人、対面 6 人)
データ D. アンケート合計	64 人	Web 経由 45 人、対面 19 人

A. GPS データ (19 人)

スマートフォン貸与者 37 人に対し、GPS データが有効に収集できた所持者が 19 人 (51%) にとどまり、定量分析を行うにはサンプル数が少ない。データの内容としては、詳細な立ち寄り地点まで捕捉できているため、個々人の周遊動態を細部までトレースして旅行特性を洗い出す方向で分析を行う。

B. お遍路交流サイト投稿 (投稿者 9 人)

お遍路交流サイトは参加者をスマートフォン貸与者に限るクローズドな運営を行ったことや、提供できる情報が少なかったことから、登録者が 14 人と少なかった。そのうち、投稿者の数は 9 人とどまったことから、参考データとしての使用にとどめる。

運営結果から得られた教訓は、有益な多数の情報を提供できるか、または、困りごとの中心である宿泊予約・変更・キャンセル代行サービス等の明確なメリットを提供しなければ、情報交流サイトとしての活発化は難しいということであり、事業化等の参考とする。

C. Web サポート情報 (利用者 17 人)

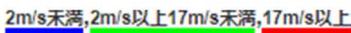
外国人遍路と遍路コーディネーターとの困りごと等に関するやり取りは、メール、メッセージ、お遍路交流サイト等を経由して行われ、合計 17 人のサポートを行った。外国人遍路の困りごとやサポートに関する情報は、必要とするサポートの内容、Web サポートの有効性および負荷の分析に活用する。

D. Web アンケート情報（64人 内、対面 19人）

お遍路交流サイトからの意見、困りごと等のデータ収集が不十分だったことから、Web からアンケートの協力を要請し、アンケート調査を行った。アンケート協力者は、2019年または近年、四国遍路の巡礼経験のある欧米豪の外国人を対象とし、四国遍路の体験前と後の評価を質問するなど、通常より突っ込んだ内容の回答が得られた。その結果、四国遍路を体験した外国人に対する詳細なアンケートデータが64人分取得でき、内、19人は四国遍路の完歩を概ね終えた高松近辺で、対面でのアンケートを行った。アンケートは通常1時間程度、長いケースでは2～3時間に及ぶこともあり、Web アンケートでは得られない生の声を数多く収集することができた。

⑤ GPS 動態データの可視化

外国人遍路の歩くスピード、交通機関の利用、飲食、休憩、観光のための立ち寄り、滞在、宿泊の状況、その他移動の詳細等を把握するため、GPS データを以下の方法で可視化した。

可視化方法	利用目的	表示基準・描画方法等
[A] 速度表示	移動経路をトレースする際に、移動手段（徒歩、自転車、公共交通機関の利用等）を把握する。	移動速度「2m/s 未満」、「2m/s 以上 17m/s 未満」、「17m/s 以上」の三段階に区分して移動経路を色分けして表示する。 
[B] 宿泊表示	宿泊場所を特定することで1日の移動距離を把握する。また、利用施設や野宿等の状況も把握する。	深夜に移動していない場所を宿泊場所とみなして、その場所に宿泊日を表示する。
[C] 滞在表示	飲食、休憩のための立ち寄り先や観光等で時間を費やした場所を把握する。	30分以上、1km四方から出ていない場合を滞在与みなして、その滞在時間と日時を表示する。
[D] ヒートマップ表示（滞在時間）	滞在時間の長短を色の濃淡で可視化視化する。	長時間の滞在や移動が特に緩慢な場所をヒートマップとして表示する。
[E] 進行方向表示	特定地域の周遊の詳細について、進行方向を含めて把握する。	矢印付きの移動表示により方向を含めた移動を表示する。障害物のない場所での表示精度は高い。
[F] 選択表示 宿泊－滞在－ 徒歩－高速	宿泊場所、滞在所、徒歩、公共交通の利用等、地域の状況を俯瞰する。	宿泊、滞在、移動「2m/s 未満」、「2m/s 以上 17m/s 未満」、「17m/s 以上」から選択した条件に従って表示する。

【3】調査結果と態勢整備等のあり方

本調査では、下表の方向で、収集したデータを活用し、外国人遍路の受入態勢のあり方等について多面的な検討を行う。

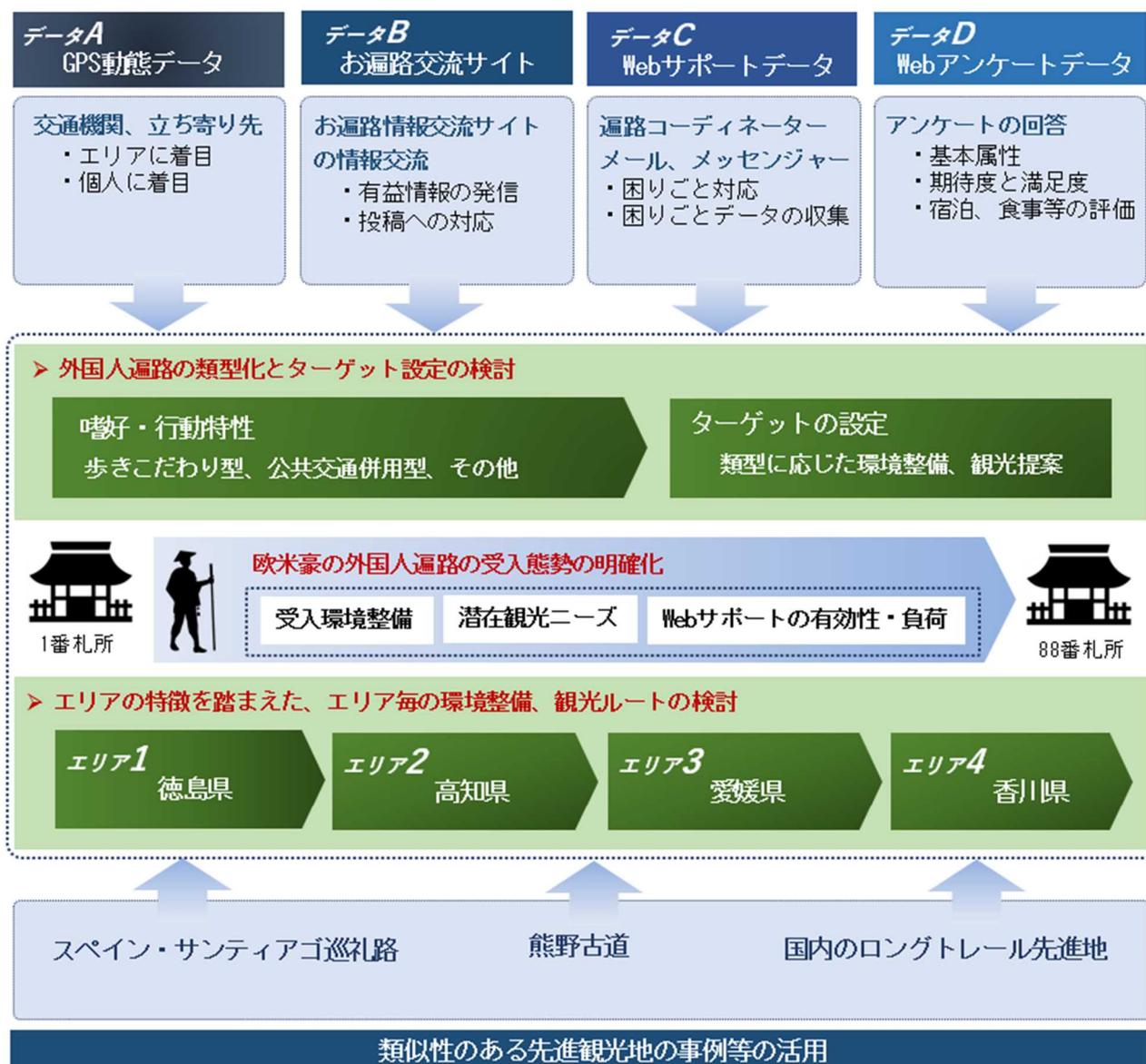
報告書の項目	収集データ			
	アンケート	交流 サイト	Web サポート	GPS データ
1. 外国人遍路の概要 四国を訪れる外国人遍路の基本属性、滞在日数、旅行消費等を明らかにする。	○			
2. 外国人目線による四国遍路の評価 四国遍路の期待度と満足度を、日本文化、観光、精神修養等、各分野に分けて明らかにする。	○	○		
3. 宿泊施設等の環境整備 宿泊・飲食に関する評価と課題、対応の方向性を考える。	○		○	
4. 困りごとの状況と Web サポート 困りごとを特定し、Web サポートの有効性・対応負荷を明らかにし、態勢構築の方向性を示す。	○		○	○
5. GPS 動態分析 GPS データから、環境整備等の前提となる、四国 4 エリアの特徴、外国人の行動特性を明らかにする。	○		○	○

<データ整理・分析の概念>

データ分析については、IT環境で取得した、A:GPS周遊動態データ、B:お遍路交流サイトのデータ、C:Webサポートデータ、D:Webアンケートデータを対象として、四国遍路の受入環境、潜在観光ニーズに着目した分析を行い、全体およびエリアにおける環境整備や観光ルートの検討等、四国遍路の観光開発のあり方の方向性を検討する(図表3-1)。併せて、Webによるサポートの有効性、対応負荷等についても検証する。

観光地開発のあり方の方向性を検討するうえで、巡礼、歩き旅、自然体験等の先進地域である、スペイン・サンティアゴ巡礼路、熊野古道、ロングトレイル先進地等の事例についても参考とする。

図表 3-1 データ整理・分析概念図



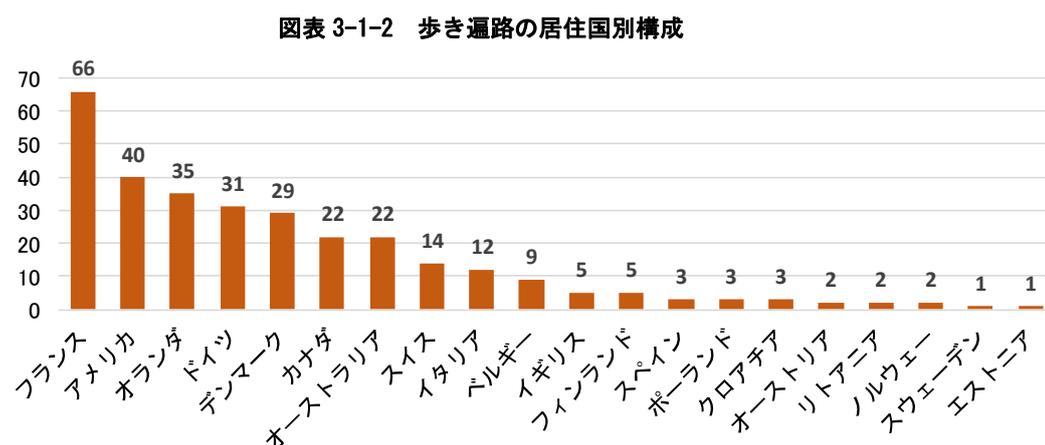
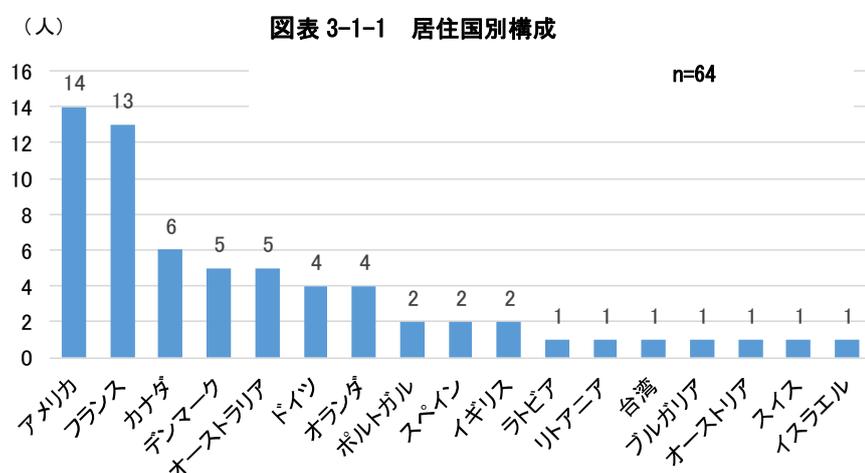
1. 外国人遍路の概要

(1) アンケート対象者の基本属性

外国人遍路の意見や困りごとを広く収集するため、スマートフォンを貸出した外国人遍路に加え、2019年または近年四国遍路の巡礼経験がある外国人48人をアンケート協力者として募り、合計64人にアンケートを実施した。

① 居住国別構成

外国人遍路の居住国はアメリカ、フランス、カナダ、デンマーク、オーストラリア、ドイツ、オランダが上位をしめる（図表3-1-1）。図表3-1-2はNPO法人遍路とおもてなしのネットワークが、2017年7月～翌年6月に遍路大使に任命した外国人遍路の国籍別内を示しているが、今回の調査データと比べて、国の大きな偏りは見られない。



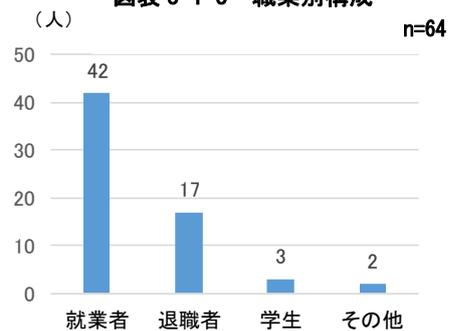
資料：NPO法人遍路とおもてなしのネットワークのデータより作成

② 職業別構成

職業は多岐に亘っている。詳細は割愛したが、現役世代が65%、退職者が26%、学生が5%となっており、主に現役世代が長期休暇をとって来訪していることがわかる（図表 3-1-3）。

欧米豪は長期休暇が取りやすい環境にあるが、現役世代でも、自営業者が多くみられ、IT技術者、医師、弁護士、モデル、写真家、建築家等、専門技術を有する人が多く含まれていた。その中には、リモートワークができる環境で長期間遍路を体験しているケースもあった。そのような人たちは、Wi-Fi環境が整備され、一人の時間を過ごせるビジネスホテルで宿泊しているケースが多く、これまであまり意識することのなかった「テレワークを行う遍路」という形態の存在が確認できた。

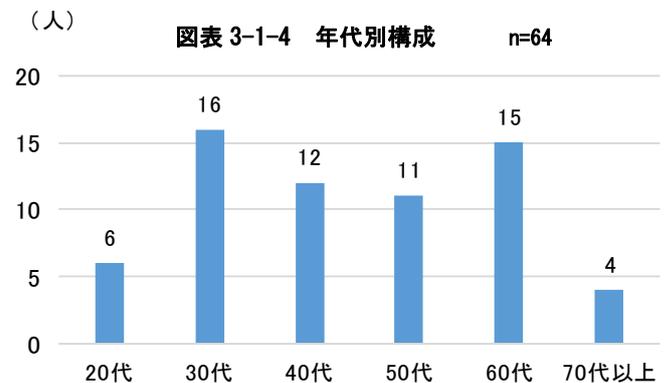
図表 3-1-3 職業別構成



③ 年代別構成

年代構成は、20代、70代は少ない。比較的多い60代は退職後にゆっくり訪日するケースが多くみられる。現役世代で極端な偏りは見られないが、転職のタイミングなど、長期休暇が取りやすい時期に来訪するケースもみられる（図表 3-1-4）。

図表 3-1-4 年代別構成



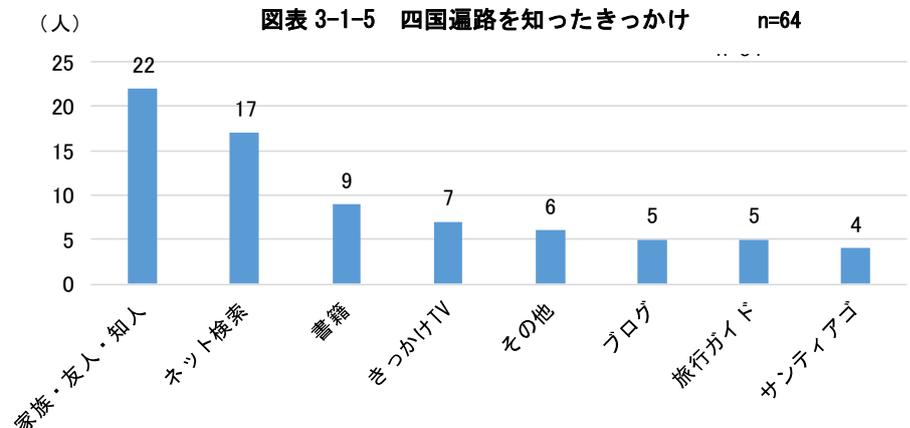
(2) 外国人遍路の状況

① 四国遍路を知ったきっかけ

四国遍路を知った切っ掛けとしては、家族・友人・知人からの紹介が最も多く、口コミで四国遍路の評価が広がっていることが読み取れる。

2位のネット検索では、「巡礼」以外に、「トレッキング」、「ハイキング」などのキーワード検索から知ったという人もおり、歩き旅の一形態として、四国遍路の情報が拡散していることもうかがえる（図表 3-1-5）。

図表 3-1-5 四国遍路を知ったきっかけ



書籍から情報を得た外

国人遍路も多い。その中には「マリー＝エディット・ラヴァル『フランスからお遍路にきました。』(Marie-Edith Laval Comme une feuille de the a shikoku)」で知ったケースが特に多い。

デンマーク人3人にインタビューする機会があり、3人は別々に来日しているが、全員が初来日で四国遍路を訪れている。うち2人について、デンマークの著名なジャーナリスト ベアテルセンが出演する歩き遍路の番組が四国遍路を知るきっかけになっており、テレビ番組の効果が大きいことがわかる。

そのほかに、禅、居合道、空手などのレッスンを母国で受けてきた人たちが日本に興味を持ち、日本の文化、宗教などの根底にあるものを調べていくうちに四国遍路にたどり着いたケースもある。また、過去に日本に長期滞在していた人も少なくなく、その際に周囲から遍路文化について学んだなどというコメントもあった。

② 四国遍路および訪日の回数

一般的に、四国は日本で最初に訪れるべき場所とは考えられておらず、ゴールデンルートと呼ばれる、東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪などを巡る広域周遊ルートを回った旅行者が2回目以降の訪日で四国に来るケースが多いとされている。しかし、四国遍路については、初来日で訪れているケースが多くみられ、四国へ欧米豪の旅行者を誘客するための有力コンテンツと位置付けられる（図表 3-1-7）。

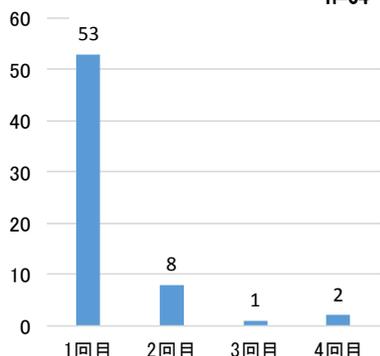
③ 四国遍路以外の巡礼経験

四国遍路は1回目の経験者が圧倒的に多く、2回目以上経験しているケースはまだ少数にとどまる（図表 3-1-6）。巡礼経験として、四国遍路が最初の経験になっている外国人遍

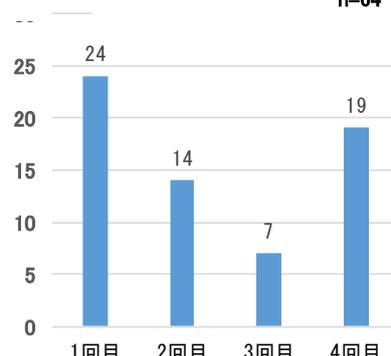
路が最も多く、スペインのサンティアゴ巡礼路の経験者がそれに続く（図表 3-1-8）。サンティアゴ巡礼路には、外国から毎年20万人以上の巡礼者が訪れており、世界文化遺産に登録されている790kmの「フランス人の道」が最も人気があり、7割の人々がこの道を選ぶ。スタート地点は、フランスにあるサン・ジャン・ピエ・ド・ポーというスペイン国境に近い町で、標高差が1,200m近くあるピレネー山脈を越えてゴールするまで、1か月以上歩くことになる。

四国遍路も、66番札所「雲辺寺」が四国霊場最高峰の標高911mにあり、それ以外にも複数の「遍路転がし」と呼ばれる巡礼路の難所がある。サンティアゴ巡礼の機会に四国遍路を知ったとい

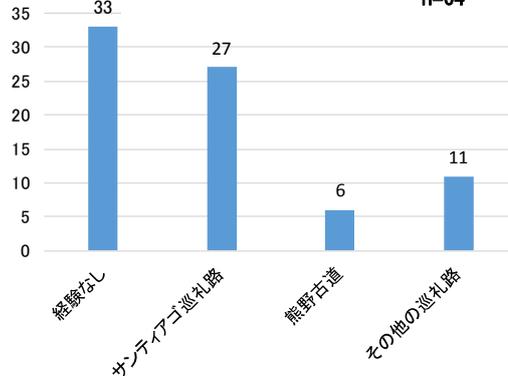
図表 3-1-6 四国遍路お経験回数



図表 3-1-7 訪日回数



図表 3-1-8 四国遍路以外の経験



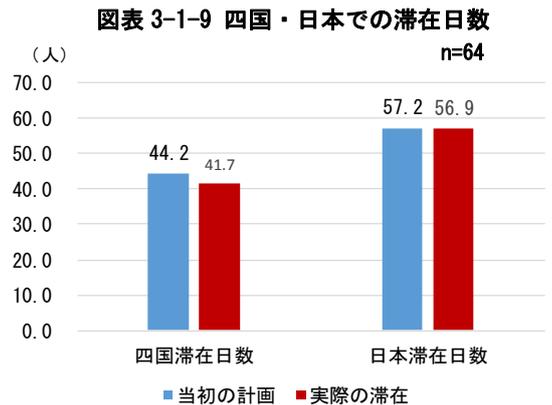
うケースもあり、サンティアゴ巡礼路と四国遍路の類似性から、新しい体験の場として四国遍路を訪れているケースがみられる。まだ人数は少ないが、サンティアゴから四国への旅行者の流れが大きくなっているように見える。

サンティアゴ巡礼路と比べると、熊野古道の経験者は少なく、熊野古道から四国遍路へ来訪する外国人は多くない。その事情について把握ができていないが、熊野古道との間で、相互の送誘客のパイプを太くする余地があるように思われる。

④ 四国での滞在日数等

外国人遍路 64 人のうち、55 人が通し打ち（一気に 88 カ寺を巡礼すること）を目指しての訪日であり、四国遍路の平均滞在日数は 41.7 日と、旅行日数としては桁違いに長く、相応の旅行消費が期待される旅行コンテンツとなっている（図表 3-1-10）。

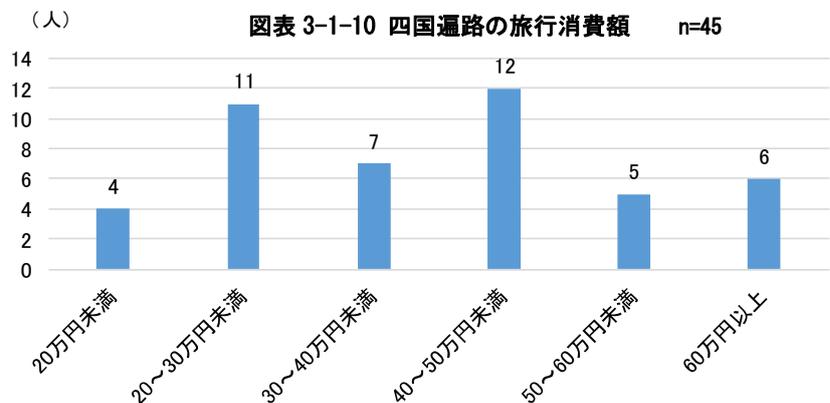
しかし、出発前の計画と比べると、日本での滞在日数に変わりがなくても、四国での滞在日数が計画より短くなる傾向があり、長期滞在を促す施策が求められる（図表 3-1-9）。



⑤ 四国等での旅行消費

外国人遍路は全体的に、滞在日数の長さ按比例して相応の旅行消費を行っている。回答が得られた 45 人の平均旅行消費は約 40 万円であり、20 万円から 60 万円程度まで広がりがある。そのうち 11 人は 50 万円以上を消費しており、100 万円を超える消費をしている者も見られた（図表 3-1-10）。

対面でアンケート調査をした外国人の中にはバックパッカーも散見され、お金があるにも関わらず、金を使わずにどこまで長期間を過ごせるかゲーム感覚で歩き旅を楽しんでいる者もみられた。外国人歩き遍路は、消費の多寡にかかわらず地域には相応の負荷をかけており、一定の消費を行うような仕組み作りが必要だと考えられる。欧米豪のバックパッカーは相応の常識と理解力のある人たちが多くと考えられ、遍路コーディネーターが彼らと接触するなかで、彼らにお接待の意味や地域住民の負担を伝えることで、相応の旅行消費を行う良質な旅行者に変容する可能性も同時に感じられた。



2. 外国人目線による四国遍路

アンケート調査における四国遍路の期待度と満足度およびお遍路交流サイトへの投稿内容から、「外国人の目に四国遍路がどのように映っているか」「何を求めているのか」を明らかにする。四国遍路に対する受け止め方について、日本人と外国人との間に相当の開きがあることが指摘されているが、整備の方向性を誤らないよう、外国人遍路の目線による四国遍路の魅力・課題等を分析する。

(1) 四国遍路の満足度

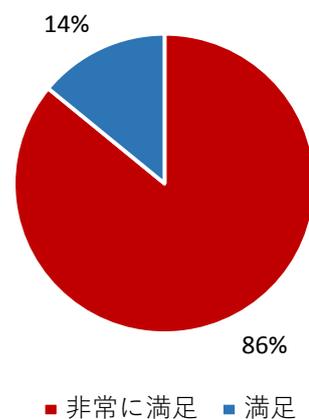
① 全体的満足度

外国人遍路にとって、全体として四国遍路の満足度は非常に高く、「非常に満足」が86%、「満足」が14%を占め、「普通」、「不満」との回答はなかった(図表 3-2-1)。

アンケート調査では、分野別、体験前後に分けて、各項目の評価について質問をしている。四国遍路は、寺院、遍路道、伝統、お接待、自然景観、原風景、周辺観光等の多様な要素から成り立っており、アンケートでは、「日本文化・歴史」「仏教への関心」「人々との交流」「自己発見・精神修行」「観光・自然体験」「祈願・信仰」という切り口から、「事前の期待度」と「事後の満足度」について質問を投げかけた。

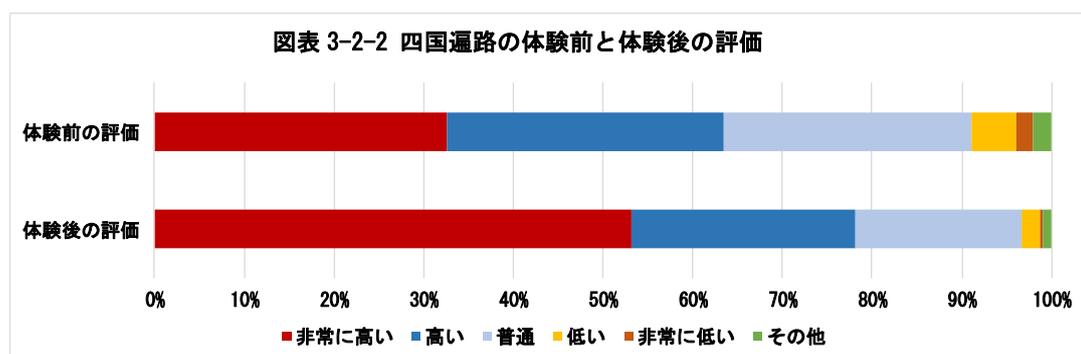
なお、調査の過程で、関係者から、四国遍路の「トレイル、トレッキング」という「歩きそのもの」が興味の対象となっているのではないかとの声も聞かれたが、当該項目をアンケートの選択肢に入れていなかったため、その部分の意識を汲み上げることができなかった。

図表 3-2-1 四国遍路の満足度



② 期待度と満足度

各評価項目の評価数を平均することで全体としての評価を算出して、体験前後を比較すると、体験後で「非常に高い」が60%程度増えており、期待を超える満足度が得られており、四国遍路が海外に打って出るためのコンテンツとしての可能性を物語る(図表 3-2-2)。



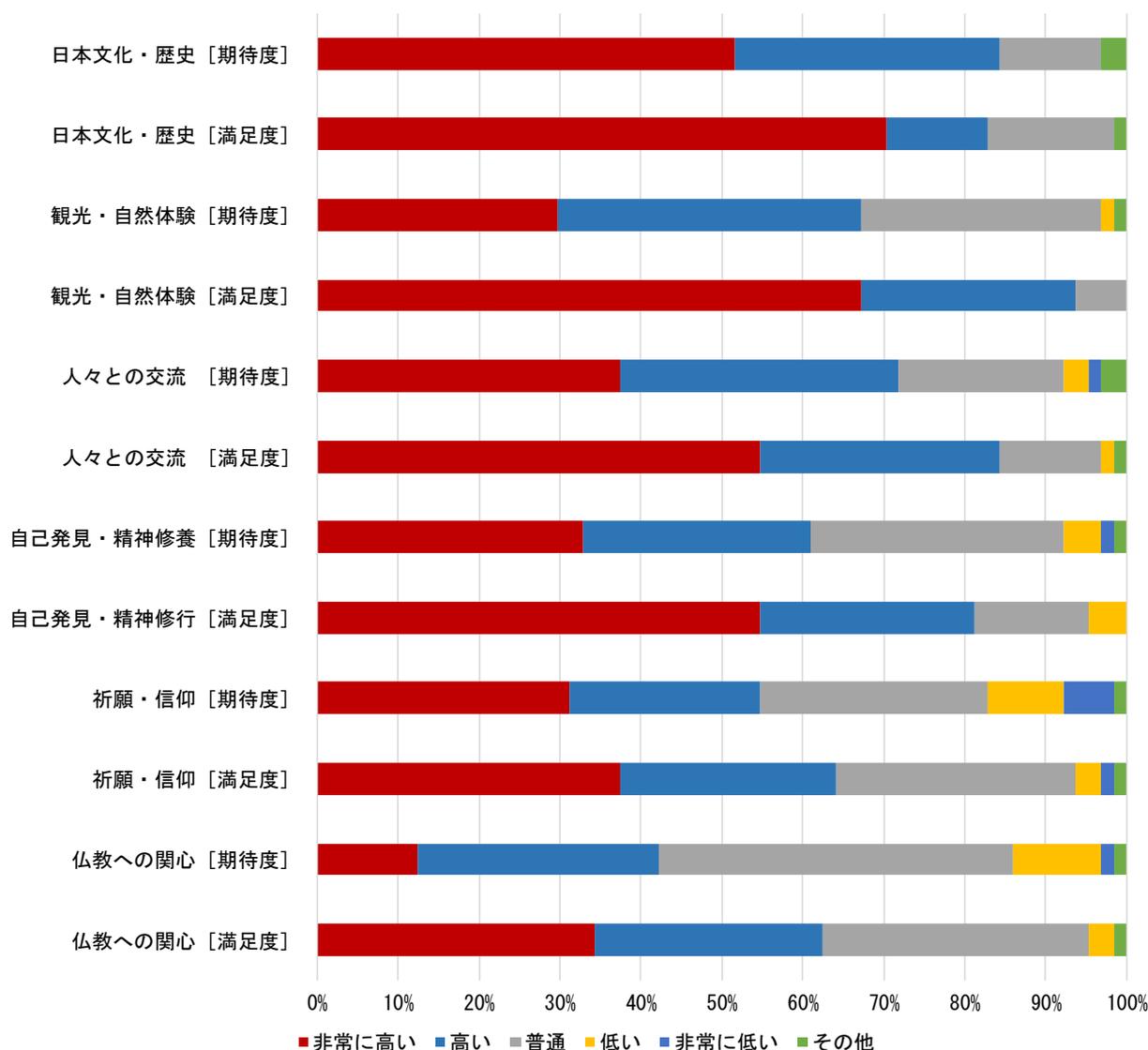
③ 期待度と多様性

四国遍路を訪れる外国人の目的・動機は多岐に亘っており、日本人の「バス遍路」や「マイカー遍路」のような共通の目的は見られず、多様性への対処の仕方が課題のように思われる。

期待度を分野別にみると、「日本の文化・歴史」「人々との交流」が期待度の高さで上位にきており、「お接待という地域の人々との交流を包含する四国の文化・歴史」に対する関心の大きさがうかがわれる。それに続いて、「自己発見・精神修行」「信仰・祈願」「観光・自然体験」が僅差で上位にあり、外国人が四国遍路に期待することの多面性が窺われる（図表 3-2-3）。

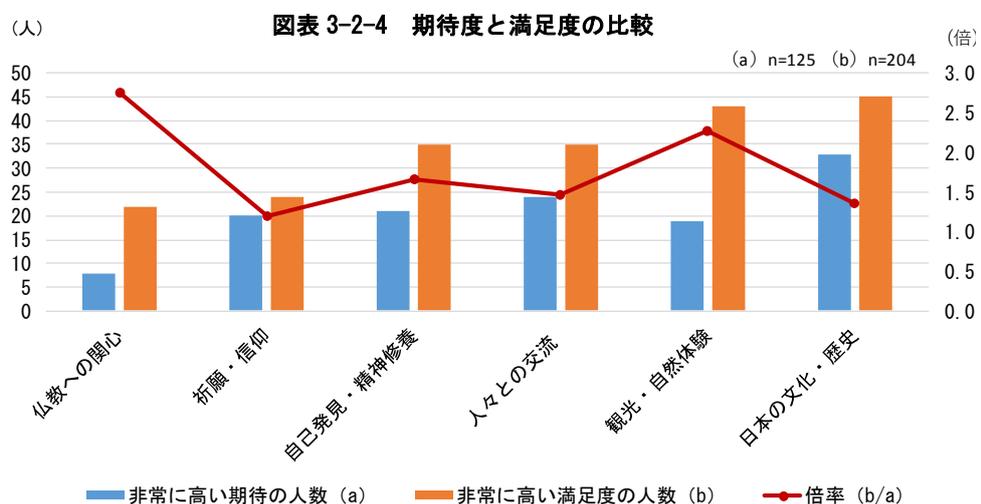
GPS 動態調査においても、外国人遍路に幾つかの周遊類型が見られ、お遍路さん交流サイトへの投稿をみても、自然景観、寺院、観光等、興味は多岐に亘っている。そのような状況のなかで、「仏教への関心」は期待度が相対的に低く、明らかに日本人遍路とは一線を画している。仏教文化の上に成立している観光資源ではあるが、外国人遍路が期待する要素は多様であり、神秘性や精神性と歩き旅をどのように融合させるかは、分析の出発点で注目すべき課題の一つだと考えられる。

図表 3-2-3 四国遍路に対する期待度と満足度



満足度の内訳を見ると、「日本の文化・歴史」が1位であることに変わりはないが、「観光・自然体験」の順位が上昇しており1位に肉薄する。「非常に高い」と「高い」の合計では、「日本の文化・歴史」の評価を上回っている。この点は、四国の「観光・自然体験」の潜在力の高さを物語るものであり、見方を変えれば事前のアピールが足りないことをも意味する。

体験前の期待度が高かった「人々との交流」「自己発見・精神修養」についても評価の上昇が見られ、満足度は高い。事前の期待度で下位にあった「仏教への関心」は、順位としては下位のままであるが、「非常に高い」の評価が大きく伸びている。ほぼ巡礼を終えた時点で、高松で行った体験者へのインタビューの感触を踏まえると、京都とは異なる札所のたたずまいや古道に見られる苔むす地蔵等、仏教を背景とした伝統・神秘性を感じさせる環境のなかを、自身の体に負荷をかけながら40～50日歩くことで、外国人の心境に何らかの変化をもたらしている可能性もある。宗教は異なっても、その背後にある普遍的なものに対する関心が深まっているように感じられた。



図表 3-2-4 は、項目毎に「非常に高い期待」と「非常に高い満足度」の人数を取り出して、両者を比較したものであるが、いずれの項目も期待に対して満足度が大きくなっている。折れ線グラフは、両者の変化を倍率で示したものであるが、先の説明どおり、「仏教への関心」、「観光・自然体験」の上昇が著しい。「日本の文化・歴史」は、期待も高く、満足度も高くなっているが、差異は大きくない。

全体として見ると、「日本の文化・歴史」は、四国遍路を体験する目的の中心にあることは間違いなく、期待通りの満足が得られている。それに対して、「観光・自然体験」や「仏教への関心」は、来日前にそれほど大きな期待をしていなかったにも関わらず、大きな満足を得て帰国したことがうかがえる。四国遍路の観光開発を考える場合、観光・自然体験、仏教関連の体験を重視したメニュー作りの重要性を示唆している。

このように、全体として期待を超える満足度を提供できる四国遍路は、四国の名実ともにキラーコンテンツとしてのポテンシャルを持つことを物語っている。

(2) お遍路交流サイトへの投稿

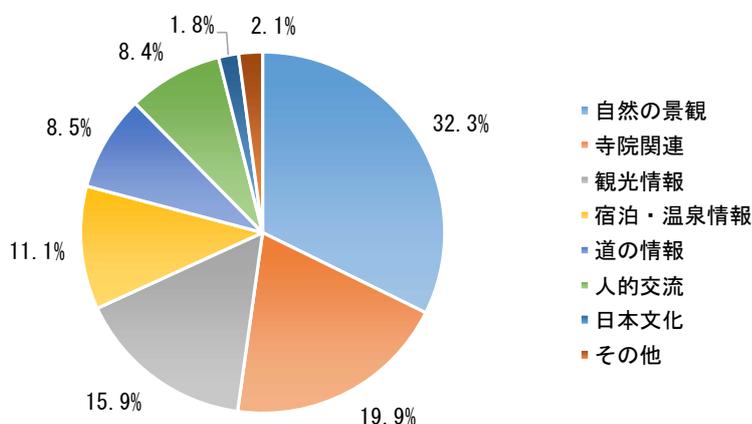
① 分析方法

スマートフォン貸出者 37 人に対し、事前に強くお願いはしたものの、お遍路交流サイトへの登録者は 14 人と少なかった。そのうち、実際にサイトに投稿を行った登録者は 9 人とどまり定量分析には不適當であるが、参考として、9 人の投稿 950 件の内容を整理して、分野別の関心の強さを数値化した。サイトに投稿した文章、画像等について、分野に分けて件数をカウントしたものであるが、1 件の投稿が複数のテーマを含む場合は、個々のテーマを 1 件としてカウントした。

② 投稿の概要

投稿内容は、景観の感動や護摩祈祷、着物体験から卵の自動販売機、学童の登校シーンを伝えるもの、水害による通行止め情報、落石情報、バスの情報等、多方面に亘るが、最も多いのが、「自然の景観」で 32.3%を占め、2位の「寺院関係」の

図表 3-2-5 お遍路交流サイトへの投稿内容



19.9%を上回る。それに続いて、寄り道をした滝や神社等に関する「観光情報」の投稿が 15.9%、「宿泊・温泉情報」が 11.1%、お勧めの遍路道、四国の道等に関する「道の情報」が 8.5%となった（図表 3-2-5）。体

験前に、「人的交流」を期待している外国人遍路が多いことはインタビューの結果からも推察されるが、実際にそれほど多く体験できていないことが投稿件数（8.4%）からわかる。投稿件数に比べて、アンケート結果で、「人々との交流」の満足度が比較的高いのは、体験回数よりも、地域の人々に仲間として受け入れられたという強く心を打つ体験があったり、取り上げるほど大きな体験ではなく、地域住民からミカンをもらったという些細な体験の連なりによるものだと考えることもできる。これは、対面アンケートのなかで、得られた感触によるものである。

少数の投稿者のデータに基づく分析結果ではあるが、お遍路交流サイトに投稿された内容においても、アンケート結果の満足度上位に自然や観光がランクされたのと同様、自然の景観、観光情報への関心の高さがうかがわれる。外国人遍路の関心が、寺以外の多くの分野に向けられていることは確かである。

(3) 四国遍路が提供すべきもの

アンケートにおける期待度、満足度の結果と合わせて考えると、四国遍路は寺院と巡礼路、お接待をベースとするコンテンツではあるが、旅行者の裾野を広げるためには、過度に寺院や精神的なものに傾注することなく、「周辺の体験型観光を楽しみながら、豊かな自然や景観の中を巡る歩き旅」という考え方を盛り込むことも有効ではないかと考えられる。

3. 宿泊施設等の環境整備

ここではアンケート調査による、宿泊施設、飲食施設に対する評価、困りごとの状況をベースに、遍路コーディネーターが20人の外国人遍路に行ったWebサポートの状況を踏まえて、外国人遍路が、巡礼の基本となる宿泊、食事、歩き等、生活面でどのような不満や期待を持っているかについて分析した。外国人遍路は文化・言語が異なる環境のなかで、通常の旅行者と異なる以下のハンディーキャップを負っていることを念頭に情報収集・分析を行った。

- 天気、体調、計画の誤算など、先の計画が立てにくいため、宿泊施設の予約は翌日、翌々日までが現実的であり、外国人遍路は言葉が通じにくいなかで、日々、翌日・翌々日の予約をとりながら巡礼を続けている。
- 過疎地の中山間部を長距離巡礼するため、宿泊施設、飲食施設もまばらであり、宿泊施設から得られる情報も、都市部のホテルと異なり、少なく、情報が不十分な状況にある。
- 歩いて移動するため、宿泊施設等のサポートがなければ、巡礼路以外に必要なものの手配等ができない。

(1) 宿泊施設

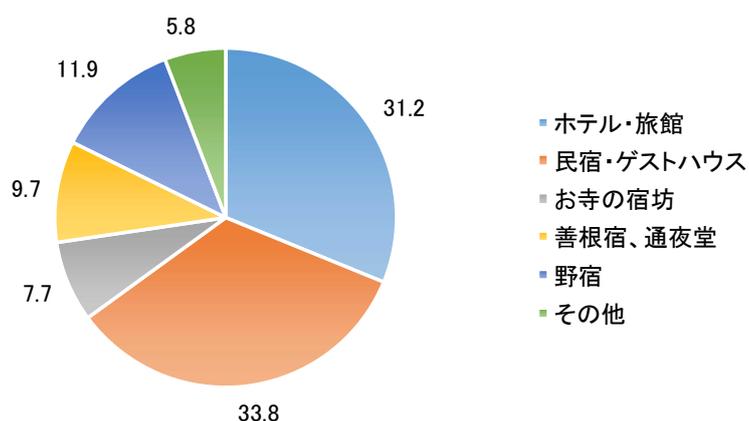
① 全体的利用状況

外国人遍路は、途中で歩くスピードの変化や天候や体調によって日程が大きく変化することから、通常の旅行のように事前一括して宿泊や飲食の予約が取れない。四国遍路を歩き始めた外国人は、旅を楽しむ以前に、行く先々での宿泊・飲食について対応がせまられる。ここからは、外国人遍路がどの種類の宿泊施設を利用し、どのような評価をしているかを見る。

外国人遍路は、ホテル・旅館、民宿・ゲストハウスを主に利用しており、両者の合計が65%にのぼる。お寺の宿坊、善根宿・通夜堂、野宿のいずれも1割程度の利用があり、幅広い宿泊施設を利用していることがわかる(図表3-3-1)。

図表 3-3-1 利用した宿泊施設の割合

(単位:%)

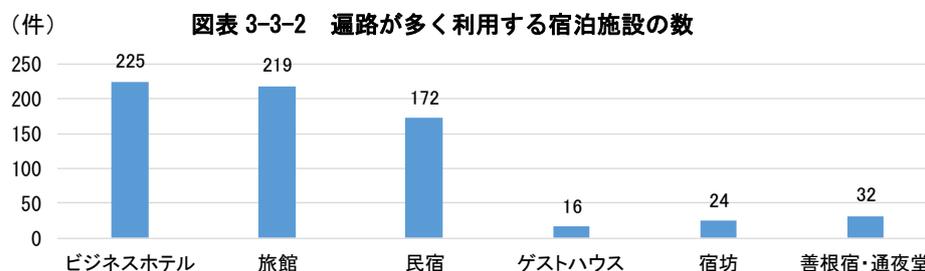


※ アンケートで想定している宿泊施設の概要

種類	料金	特徴
ビジネスホテル	素泊り 5,000-8,000円	洋室、個室に浴槽・洗面所・トイレあり
旅館	1泊2食 5,000-16,000円	和室、共同の風呂
民宿	1泊2食 7,000-8,000円	和室、共同の風呂・洗面所・トイレ
ゲストハウス	素泊り 2,000-4,000円	相部屋も、共同の風呂、洗面所・トイレ
宿坊	1泊2食 6,000-7,000円	和室、共同の風呂・洗面所・トイレ
善根宿	無料	地域住民が善意で宿泊場所を提供(食事を出すところもある)
通夜堂	無料	札所が善意で宿泊場所を提供

② 一般的利用状況

図表 3-3-2 は、別の調査で、歩き遍路が多く利用する宿泊施設の数に調査したものであり、今回の外国人遍路を対象とした調査結果と傾向に大きな差異はみられない。

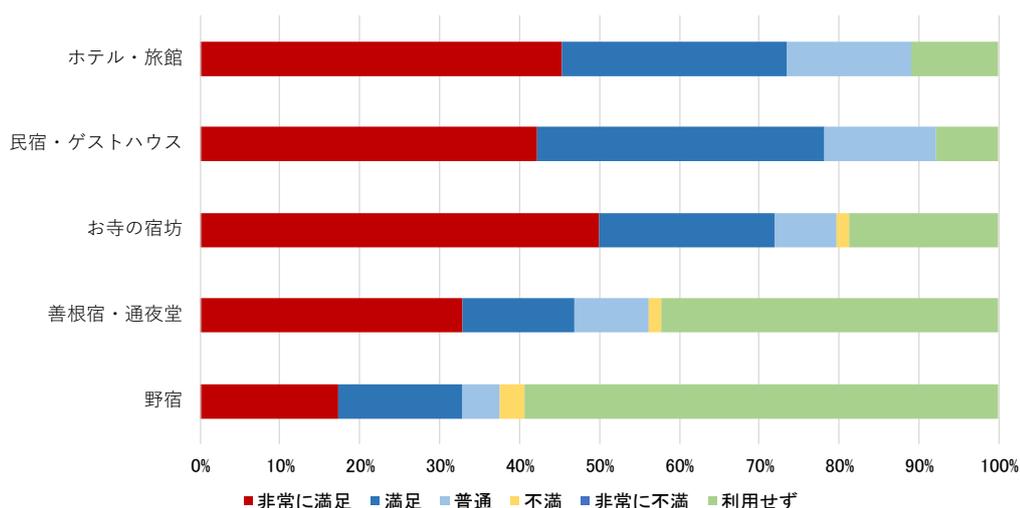


資料：新時代における遍路受入態勢のあり方（四国アライアンス地域経済分科会ほか）

③ 宿泊施設に対する評価

「お寺の宿坊」が最も満足度が高く、「ホテル・旅館」、「民宿・ゲストハウス」の順になっている（図表 3-3-3）。聞き取り調査を加味すると、多くの外国人遍路は「日常の宿泊では、レベルの高い宿泊よりも、清潔で疲れが癒される価格優先の宿泊環境が望ましい」と考えており、地方の古い宿泊施設であっても、トイレや風呂、シャワールームが更新されていれば特に問題がないとの評価になる。お寺の宿坊については、施設自体は比較的古い旅館並みのところが多く、「非常に満足」との評価は、寺の境内にあり朝夕のお勤めに参加できる等、付加的要素に負うところが大きいものと考えられる。

図表 3-3-3 宿泊施設のタイプ別評価

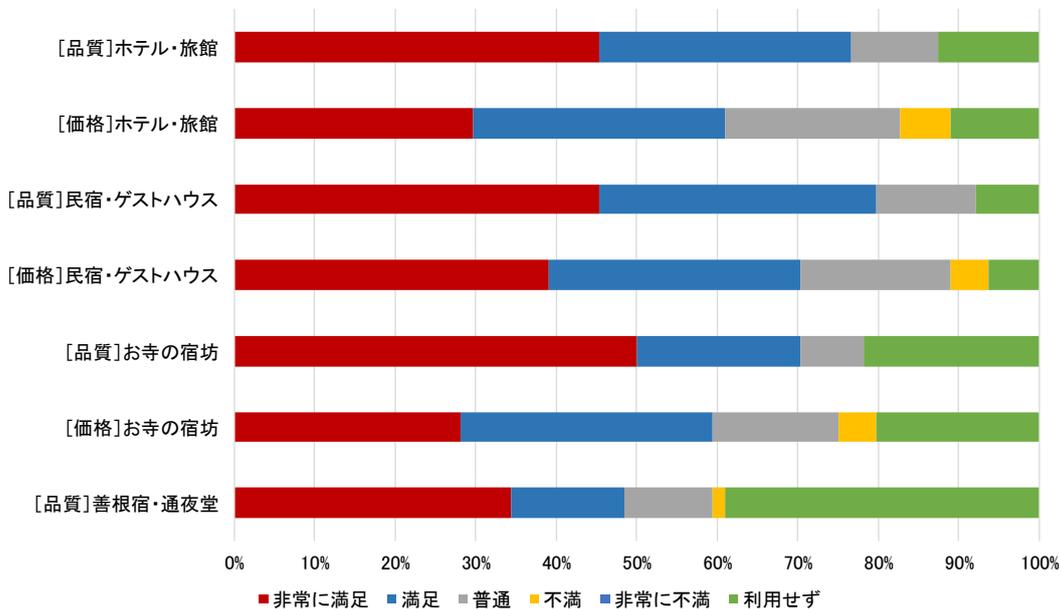


④ 宿泊施設の評価（品質・価格）

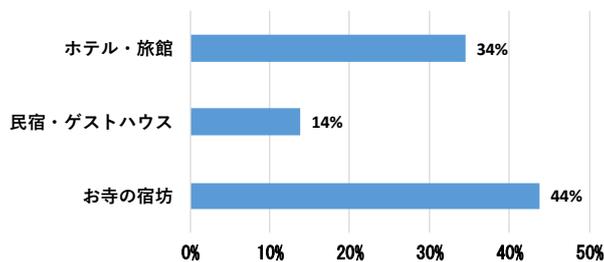
全体的傾向として、品質と比較して価格のほうが低く評価されている（図表 3-3-4）。外国人遍路が利用するこれらの施設は、日本人のニーズや価格水準で作られたものを外国人が利用しており、外国人遍路の巡礼スタイルは余り考慮されていなかった。外国人遍路の中に、

スペインのサンティアゴ巡礼経験者の数が多く、彼らは巡礼専用の低廉な宿泊施設「アルベルゲ」のイメージが頭にあり、価格に対する見方は厳しい。

図表 3-3-4 宿泊施設のタイプ別評価（品質・価格）



図表 3-3-5 品質と価格に対する評価の差



「品質に対する非常に満足
の人数」と、「価格に対する非
常に満足的人数」の差を百分
率で計算したもの。比率が高
いほど、価格に対する不満が
大きいことを示す。

⑤ 宿泊施設の課題

品質と価格に対する評価の差を見ると、割高と感じる施設は、「お寺の宿坊」「ホテル・旅館」「民宿・ゲストハウス」の順番になっている（図表 3-3-5）。「お寺の宿坊」は、もともと評価が高いが、価格の満足度は相対的に低い。外国人遍路と意見交換するなかで、どうしても期待度が高いほど、価格の評価も厳しくなるということは否めない。

サービスと価格の相関については、今後、問題になる兆しもみられることから、簡単にまとめる。今回のアンケート対象者は、四国遍路の平均滞在日数が 40 日程度であり、仮に 1 日 5,000 円で宿泊できたにしても、宿泊費だけで 20 万円の支出となる。退職後に 60~90 日の予定で四国遍路を訪れる外国人も多く、彼らにとって宿泊費の負担は大きい。しかし、四国遍路への外国人の誘客は、過疎地を中心とする地域に観光消費をもたらすことが一つの目的となっており、ボランティアのように低廉価格のサービス行うべきだということではない。

外国人遍路には宿泊について多様なニーズがあり、一人の外国人遍路でも、異なるタイプや価格の施設を使い分けたいというニーズもあり、一律にアルベルゲのような簡素・低廉な宿泊施設を提供する必要はない。聞き取り調査から感じることは、外国人遍路のニーズを汲

み取れていないことが問題だと考えられる。彼らが何を期待しているかを理解し、期待しないようなサービスは廃止・簡素化するなど、利益率を確保しながら、サービスに見合った料金設定を検討することが重要だと考えられる。

また、調査の過程で、今後、受入環境の整備を考える場合、「経営者側の運営コストとサービスの均衡」と「利用者側の価格と品質の均衡」についての議論は避けられないとの感触を持っている。ボランティアの延長線上で質の高い宿泊サービスを低廉な価格で提供しているところは、周辺の事業者に負の影響を与える可能性が高い。逆に、外国人遍路へのヒアリングから受けた印象であるが、劣悪な宿泊サービスを通常の価格で提供しているところは、四国遍路全体の印象を低める結果にもなる。通常のホテル・旅館については、ネットの予約サイトにおける口コミ評価によりサービスと価格が均衡することになるが、遍路向けの宿泊施設については、そのような価格裁定が働かないエリアも多い。

これらの点については、外国人遍路が、四国遍路を高く評価しながらも、改善を求めたい点として認識されていることを念頭に置いて、「地域に観光消費を落としながら、宿泊の対価を気持ち良く払える」仕組み作りが必要と考えられる。

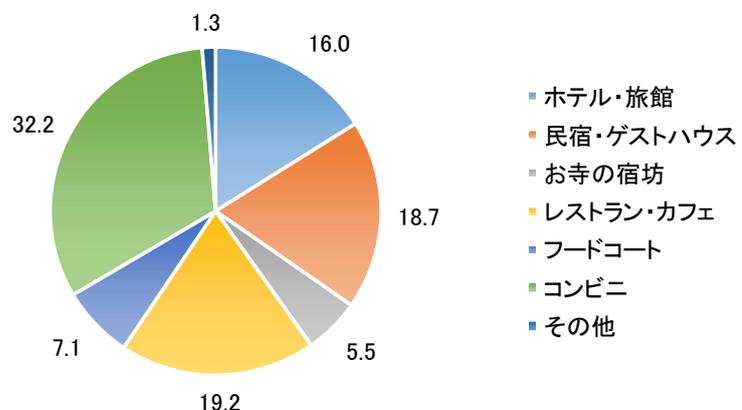
また、善根宿・通夜堂に対する悪評価もあった。水のシャワーしか出ないというような状況がこのような評価を生んでいるように思われるが、このことは善根宿・通夜堂が誰のための施設かということを知ることによって対応すべき問題だと思われる。

(2) 飲食施設

外国人遍路は、ホテル・旅館、民宿・ゲストハウス、お寺の宿坊等の飲食サービスか外部のレストラン・カフェ、フードコート、コンビニエンスストアで食事をとっている。ホテル・旅館、民宿・ゲストハウス、お寺の宿坊は夜・朝の食事がついているところが多く、その3施設の合計で約40%を占める（図表 3-3-6）。

図表 3-3-6 利用した飲食施設のタイプ別割合

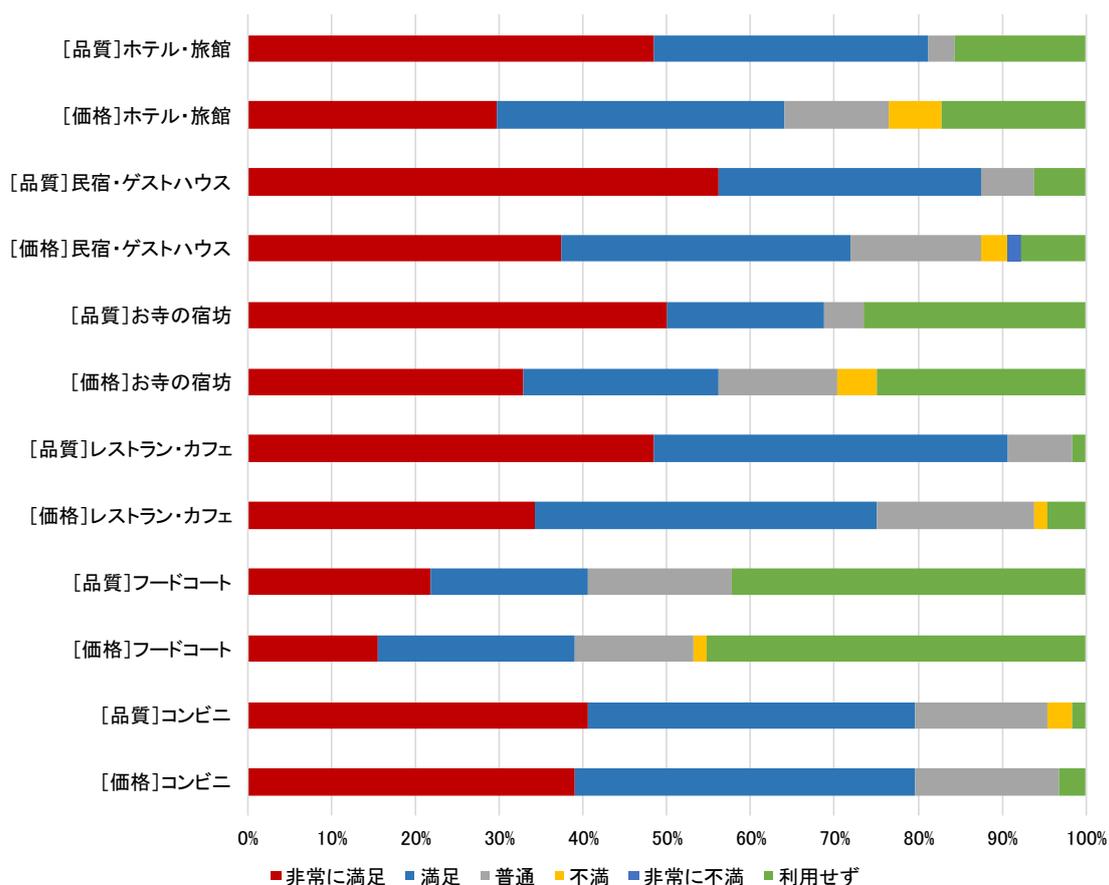
(単位：%)



① 飲食に対する評価

飲食施設の評価については、「ホテル・旅館」、「民宿・ゲストハウス」、「お寺の宿坊」、「街のレストラン・カフェ」の間で大きな差異は見られない（図表 3-3-7）。ただ、民宿・ゲストハウスでは地域の食材を取り入れた食事を提供することがあり、街のレストラン・カフェはメニューの選択の幅が大きいこと等が、比較的高評価を得ている理由になっていると考えられる。お寺の宿坊では、聞き取り調査でも、精進料理等の特別な料理を期待する声が多く、そのような期待に沿っていけば、価格についても高評価が得られるものと考えられる。

図表 3-3-7 飲食施設の評価（品質・価格）



例えば、品質と価格の満足度について「非常に満足」の比率を比較すると、「ホテル・旅館」、「民宿・ゲストハウス」、「お寺の宿坊」、「街のレストラン・カフェ」については、一律に、品質の満足度と比べて、価格の満足度が3割程低くなっている。日本人にとって品質と価格のバランスがとれていても、外国人遍路が同じような価値基準で評価をしていないことが覗える。

今回の外国人遍路への聞き取り調査のなかで、「何か食事で困ったことはなかったか？」との質問に対して「納豆！」と冗談半分で即答する外国人が複数存在した。逆に、納豆が好きだと言った外国人は一人もいなかった。提供する側の思い込みではなく、外国人のそのような嗜好をくみ取るだけで評価が上がる可能性が高い。外国人の期待の方向性として、「地域でしか食べられないものを」と「レトルトのような簡易なものでも」という両極端のニーズがあり、一人の外国人でも、強弱をつけて両者を使い分けたいという意向も見られる。

4. 困りごとの状況と Web サポート

(1) アンケート結果からみた現状

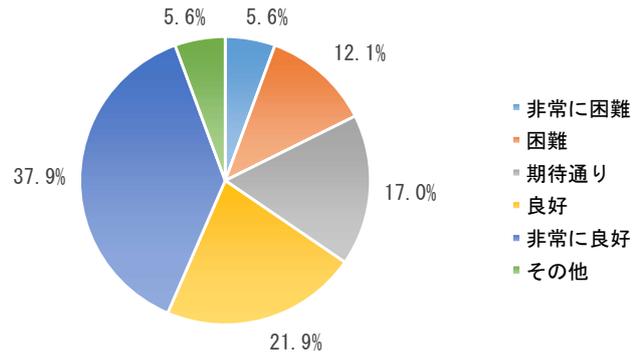
① 困りごとの状況

四国遍路巡礼中の日常の困りごとについて、「非常に困難」と回答した人は5.6%であり、「困難」を合わせても17.7%に過ぎない(図表 3-4-1)。四国遍路の満足度に対する質問では、「非常に満足」が86%、「満足」が14%を占め、「普通」、「不満」と言った声がほとんど聴かれなかったこととも整合する。

このアンケート結果を見る限り、困りごとがあっても、それほど深刻に受け止められていない可能性がある。

ただし、Web サポートの結果を見ると、17人を対象としたものではあるが、スタート間もない徳島・高知エリアで相応の困りごとが数多く発生し、Web サポートが有効だったことが確認されている(P32「②Web サポートに対する評価」参照)。本アンケートは、巡礼終了後または終了直前に実施したものであり、出発時点の苦労が巡礼体験のなかで良い思い出に変じた可能性もある。周遊動態を見ても、それぞれの嗜好に応じた歩き旅を楽しんでいるように思われ、Web サポートの結果を重ねると、周辺観光、地域の食事、自然体験など、積極的意味での情報サポートの重要性も浮き彫りになっており、困りごとサポートと積極情報サポートをバランス良く提供することが重要だと考えられる。

図表 3-4-1 困りごとに対する認識

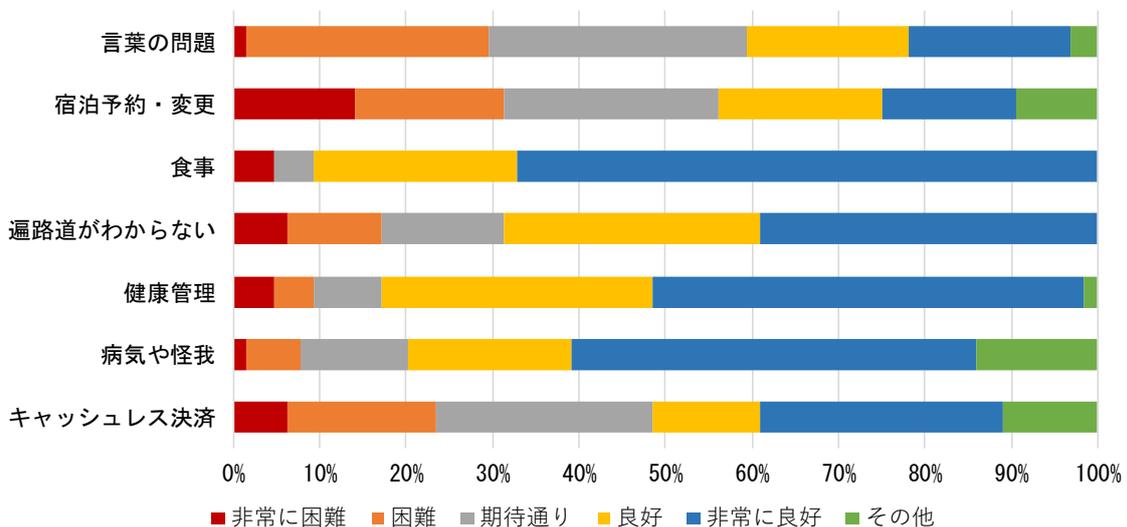


ここでいう困りごととは、「言葉の問題、遍路道、宿泊予約・変更、食事、健康管理、病気や怪我、キャッシュレス決済」全体に対する困りごとを指す。

② 困りごとの内訳

困りごとの内訳としては、宿泊、遍路道、キャッシュレス決済が上位にあるが、それほど大きなウェイトを占めてはいない。(図表 3-4-2)

図表 3-4-2 困りごとに対する分野別の認識



その中で最も深刻な困りごとが宿泊予約・変更に関するものだと考えられているが、当日宿泊している施設の担当者が翌日の宿泊予約のサポートをするという暗黙のルールができており、遍路向け宿泊施設の基礎知識がある外国人が、そのような仕組みをうまく活用できればそれほど困ることもないものと考えられる。しかし、外国人遍路や宿泊施設関係者の話を総合すると、道中でその日の宿泊施設までたどり着けないケースに、言葉の問題等でキャンセルの連絡ができないことも多い。夕朝食付きの宿泊施設が多く、無断キャンセルが発生すると経営へのダメージが大きいことから、この部分については外国人遍路だけでなく宿泊施設の経営にも関係する部分であり解決を要する部分でもある。

食事では、「非常に困った」が5%程度あり、「困難」がゼロという特異な結果が出ている。これは、ベジタリアン、ビーガンへの対応ができていない、嗜好に合わないことがある等の不満も聞かれており、それらの人たちの困りごとである可能性が高い。大勢として食事では「困るほどではない」状況が読み取れるが、前述の満足度調査では、価格面の不満も読み取れ、対面アンケートの際に、「もともと日本人向けのサービスであり、外国人遍路のニーズを汲みっていない」との声も聞かれた。今後、外国人遍路のすそ野を広げるという意味で、ベジタリアン、ビーガン対応を含めて、再考すべき部分だということを実感している。

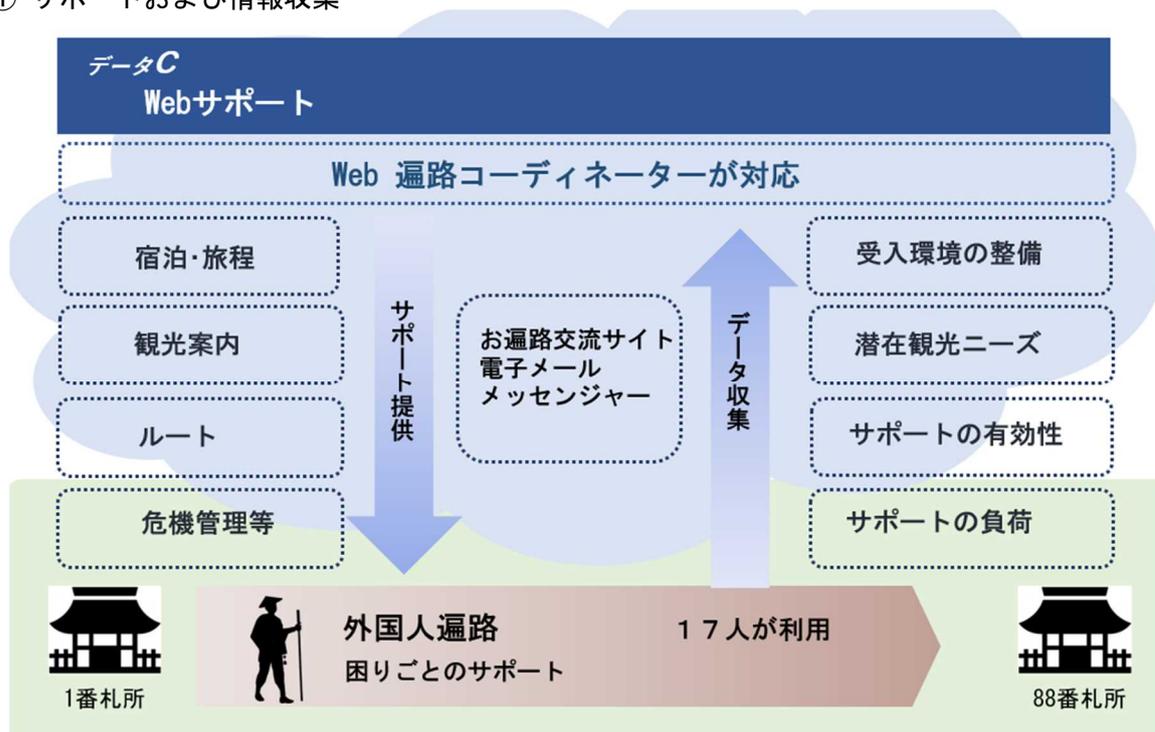
言葉は、非常に困ってはいないが、「困難」を含めると30%近くあり、外国人遍路の話では、「通常のコミュニケーションは説明をビジュアル化することで改善できる。ポケットークの誤変換等も多く、少し込み入った話が課題だ」という意見も聞かれた。留意すべき感想としては、「言葉が通じなくても、自分たちの話を聞いて欲しい。一番悲しいのは、言葉を交わす前から、No English!と言って避けようすることだ」ということが挙げられる。

健康管理、病気や怪我等への対応については、実際に遭遇することが少なく、「非常に困難」が少数にとどまっているが、遭遇した人たちは旅先で大変な思いをしたことが伺われる。

(2) Web サポート態勢と利用状況

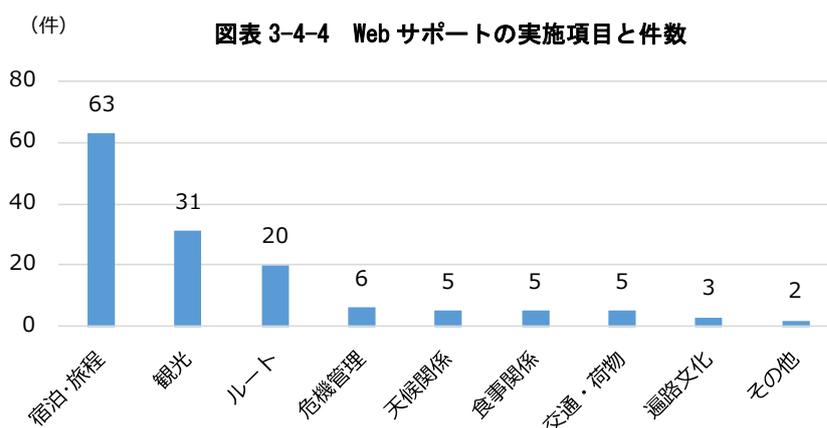
① サポートおよび情報収集

図表 3-4-3 Web サポートとデータ収集概念図



② Web サポートの利用状況

スマートフォン貸出者 37 人のうち 17 人が四国遍路巡礼中、電子メールやフェイスブックのメッセージ機能を利用するなどして遍路コーディネーターと連絡を取り、困りごと等について Web サポートを受けた。お遍路交流サイトでの質問・アドバイス等の情報交流は少なかったが、電子メールやメッセージによる相対で行った Web サポート件数は合計 140 件のにのぼり、「宿泊・旅程」「観光」「ルート」が上位を占めた。そのうち、「観光」「ルート」については、過去に四国遍路の経験のある外国人が気軽にサポートを利用しており、その部分の件数がやや膨む傾向が出ている。全体の支援件数の順位は図表 3-4-4 のとおりであるが、全体の傾向としては、宿泊相談や予約、変更、キャンセル等の利用が多い。



(3) Web サポート事例

スマートフォン貸出者のうち 17 人を対象に、遍路コーディネーターによる Web サポートを行った結果、外国人遍路との間で宿泊・旅程、観光、ルート等について、①～⑤のようなやり取りを行った。

① 宿泊・旅程サポート

■ 日程変更の助言

- ✓ スタート間もない時点で、旅行計画を見て欲しいとの相談。(デンマーク 20 代)
 - ・ 旅行計画が非常にタイトだったため、変更を提案。既に入れてあった宿泊予約 2 件をキャンセルし、新たに 3 件の予約を入れた。
- ✓ 徳島市内の滞在を伸ばして、先の宿泊予約も変更したい。(デンマーク 20 代)
 - ・ 本人の希望どおりに変更できない施設があったため、一部、鉄道等による移動を提案し、最終的に宿泊希望日を更に 1 日ずつ先に延ばす対応を行った。

■ 旅行計画の変更

- ✓ 歩きだと夕方に宿に着くことに追われて、参拝も瞑想もゆっくりできず、地域の食事や交流もできない。宿泊施設でも翌日の準備に追われて、予定していたリモートワークもできない。期待とかけ離れすぎている。(アメリカ男性 30 代)
 - ・ 情報交換するなかで、交通機関を多用することを選択。20 日後に連絡を取ると、一旦遍路を離れ、しまなみ海道のサイクリングで「兎島」に向かっており、旅を満喫している。明日、今治から遍路を再開するとのこと。

■ 宿泊施設への連絡代行

- ✓ 宿に到着が6時になりそうなので連絡して欲しい。(デンマーク女性 20代)
 - ・ 代行して電話で宿泊施設に到着遅れを通知。宿主からの「がけ崩れで途中の道が封鎖されている」という注意事項を含めて本人に伝達。
- ✓ 歩行距離を間違えて、宿に定刻に着けない。(デンマーク女性 20代)
 - ・ 代行して電話で宿泊施設に到着遅れを通知。
- ✓ 同種の事例は多数。

■ 宿泊予約の代行

- ✓ 21 番太龍寺の麓の宿泊予約を素泊まりでお願いしたい。(デンマーク女性 20代)
 - ・ 近隣にコンビニ等が一切ないことを説明して、食事付きで宿泊予約を入れる。
- ✓ 予定の宿の付近に来たが、余裕があるので先に進みたい。(デンマーク女性 20代)
 - ・ 予定の宿泊施設をキャンセルし、次の札所付近の宿泊施設を予約。遍路道から少し離れていたため、オーナーに車で迎えを依頼。
- ✓ 宿泊予約の代行事例は多数。

■ 宿泊施設の情報提供

- ✓ 最近、23 番付近に宿泊施設ができたと聞いたがどこか？(ドイツ女性 20代)
 - ・ 日和佐の宿泊施設の詳細をメールで送付。
- ✓ 最初の宿泊場所は6 番の通夜堂を予定しているが？(デンマーク女性 20代)
 - ・ 6 番の宿泊者限定の夜の勤行を紹介。

■ 誤情報・誤解の訂正

- ✓ 今の旅館は快適だが英語が通じにくい。オーナーに「26 番札所の宿坊について質問したところ、宿坊はないとの返答」。本当か？(ドイツ男性 30代)
 - ・ オーナーの誤りを指摘し、26 番の宿坊は営業しており人気があると説明。
- ✓ 指導に従って、ホテルのスタッフに次の宿泊先の予約を依頼して予約できたが「夜9 時以降でないとチェックインできないと言われた」と連絡。
 - ・ 確認したところ、いつでもチェックインできることが判明。

■ 宿泊施設利用の基本

- ✓ 通夜堂の予約手続きについて照会。(デンマーク女性 20代)
 - ・ 通夜堂や善根宿は、寄付やお接待で成り立っており一般旅行者の利用は避けて欲しい。地域と旅行者が Win-Win となるよう、有料宿泊施設の利用を勧めて納得。その後、彼女はホテル、旅館、宿坊、ゲストハウスを利用して巡礼したことが確認できた。
- ✓ 午後 10 時頃、翌日のゲストハウス予約の依頼を受ける。(デンマーク女性 20代)
 - ・ 個人経営の宿は、翌朝が早いことから、9 時には就寝しているので、このような時間に予約はできない。翌日、連絡する。

② 観光サポート

■ 周辺観光や体験の助言

- ✓ 宇和島方面へのルートと観光地の問い合わせ。(オランダ男性 40代)
 - ・ 天候不順のため休息とテレワークを提言。その後、愛媛歴史博物館、苔むしろ、大洲城、臥龍山荘等を提案し、それに従う。
- ✓ 勝浦町で宿泊の際のお勧めは？(アメリカ女性 60代)
 - ・ 星の岩屋往復ショートハイキングを提案。その後、23番までのルートも提案しそれに従う。
- ✓ 海陽町の南部での宿のお勧めは？(デンマーク 20代)
 - ・ 宿を手配するとともに、途中で城満寺と波切不動を観光するように提言し、それに従う。
- ✓ その他、周辺観光の提案多数。

③ ルート・サポート

■ ルート選定をサポート

- ✓ 日和佐から高知に向かう快適なルートはないか。(オランダ男性 40代)
 - ・ 千羽海岸の自然歩道ルートから、馬路峠を越えて高知に入るルートを提案。途中で、城満寺、波切不動に立ち寄ることを勧めた。
- ✓ 大洲から久万高原へ向かう無理のないルートの質問。(オランダ男性 40代)
 - ・ 天候不良により、久万高原町を飛ばして松山市内へ向かい、松山市周辺に集中する札所を先に参拝し、翌日は52番～53番を先に参拝し、電車で松山市内に戻るよう提言。
- ✓ ルートに関する質問はその他多数。

④ 危機管理サポート

■ 台風襲来時の助言・対応

- ✓ 台風が近づいており、母国に所定の日までに帰国したい。(デンマーク女性 30代)
 - ・ 台風の進路を確認し、予約しているフライトが飛ばない可能性が高かったため、フライトの変更をサポート。無事、台風襲来前に関西空港から帰国できた。
- ✓ 台風が近づいてきているが自分の立てたスケジュールを確認して欲しい。
 - ・ 海陽町の宿泊施設の予約依頼が来るが、台風の風雨を避けるため、日程の再考を依頼し、牟岐町の宿泊施設で2泊することを提言。

■ 道に迷った女性を支援

- ✓ 徳島県海南町で午後5時頃に山道に入り道に迷ったとの連絡。(ラトビア女性 30代)
 - ・ 電話でやり取りしながら、何とか入口に引き返すことができた。夕暮れ以降、絶対に山に入らないよう厳重注意し、宿泊予定の宿主に電話して車で迎えを要請。

■ 安全指導

- ✓ 高知から、先の善根宿の予約依頼を受けた。(デンマーク女性 20 代)
 - ・若い女性には勧められない。別の宿泊施設を勧めて予約を入れた。
- ✓ ホテルのスタッフ頼んで宿泊予約をしたが、「夜 9 時以降でない」とチェックインできない」と言われたことの連絡。
 - ・宿泊施設に確認したところ、いつでもチェックインできることが判明。
- ✓ 端末の不具合があり交換してほしい。(ドイツ女性)
 - ・待ち合わせ場所への途中、断り切れず意思疎通ができないまま日本人グループに加わって歩く本人と遭遇。本人の意思を汲んで車で宿に送る。

■ 体調管理

- ✓ 足のマメが悪化して歩けないので病院に行きたい。(ドイツ女性)
 - ・宿泊施設の支援で彼女が医者に行ったとき、必要があれば電話で通訳を依頼され待機していたが、診察は問題なく終了。

⑤ その他

多様なサポート依頼があり、できる限りの対応を行った。

■ ATMの利用

- ✓ 医療費を支払う現金がなく、ドイツの銀行のカードはローソンで出金できず、近くの銀行で聞いても、銀行も郵便局もダメだろうと言う。(ドイツ女性 20 代)
 - ・カードの写真をメールさせて確認すると、国際 ATM のマークが付いており郵便局で試すよう指示。もしダメなら残りの所持金 2,000 円で数駅先の南国市香我美町にあるセブンイレブンに行くようにと指示。郵便局で無事出金。

■ その他

- ✓ 巡礼最終段階で Wwoof の質問があり概要を回答。その後、岡山の大根農家で民泊。(フランス男性 50 代)
- ✓ 漢字で書かれた 88 霊場の御神影の並べる順序を尋ねられる。(アメリカ男性 30 代)
- ✓ 宿泊施設に到着したが、対応してくれる人が誰もいない。携帯電話で宿主に戻るよう連絡をとる。(デンマーク女性 20 代)
- ✓ 和服を買いたいとの希望があり、本格的なものは呉服店に相談するよう回答。その後、松山で購入。(ドイツ男性 30 代)
- ✓ 財布、パスポートの紛失でヘルプ要請。対応中に、よく探すと出てきた。
- ✓ メールアドレスが不正利用され、振り込め詐欺に巻き込まれる。無事回避。(フランス男性)
- ✓ 不要な所持品の搬送、保管の相談。(デンマーク男性 50 代)
- ✓ 巡礼中に膝を痛めて歩けないとの連絡。そのまま帰国。(エストニア男性 30 代)
- ✓ 高速バス乗車券の購入のサポート。(オランダ男性 40 代)

(4) Web サポートの有効性

① 利用者の傾向

Web サポートを積極的に利用した年齢層は、20代～40代が中心であり、四国遍路の経験が初めての比較的若い人たちが多かった。経験が初めての人たちは、宿泊予約等、生活に密着した基本事項のサポートを求める傾向があり、2回目以上の人たちも、遍路コーディネーターを積極活用して、観光地を繋げた最適な周遊ルートで快適な旅を続けていた。

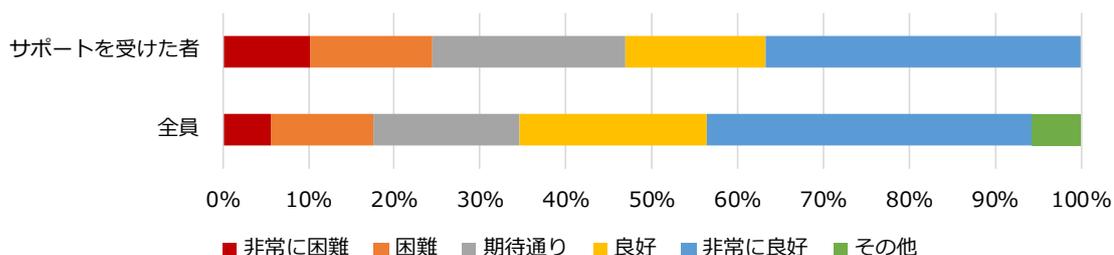
② Web サポートに対する評価

Web サポートを行った17人の内8人に対して、巡礼の最終時点で対面のアンケートを行った。サンプル数が少ないものの、アンケート結果は、対象者8人の困りごとについて、「非常に困難」「困難」とも、全体に比べて多く、巡礼旅に自信のない人たちの利用が多かったようだ(図表3-4-5)。結果として、四国遍路の満足度は全体と同レベルで満足度は高かった(図表3-4-6)。

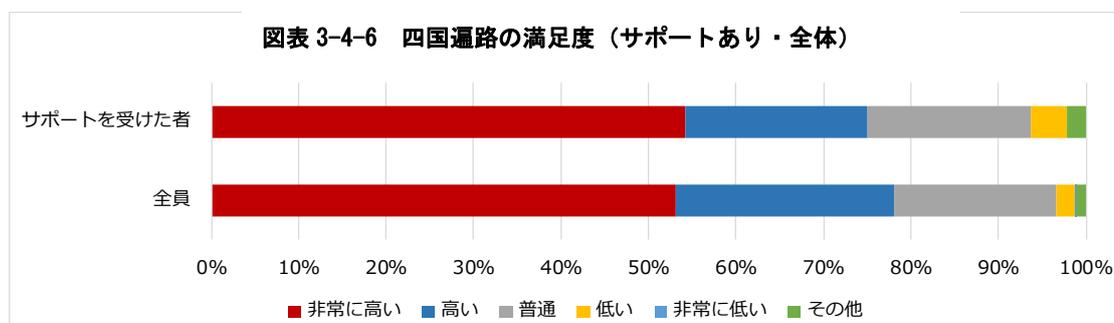
巡礼が終了間際の高松近辺で対面アンケートを行っており、Webサポートの有用性についても聞き取りをしているが、無償のサポート提供でもあり、全員、有益だったとの回答が得られた。遍路経験が1回目の初心者は、生活面の不安が軽減されたとの評価があり、Webサポートを積極的に活用したベテランの外国人遍路も、地図とガイドブックではできない効率的な歩き旅が楽しめたとの評価をしている。

Webサポートが外国人遍路の快適な巡礼旅に寄与したことは明らかである。有料サポートと考えた場合でも、価格設定の議論にまで踏み込めていないが、宿泊、食事、道歩き等に慣れていない時期に、徳島から高知南東部まで過疎地を長時間歩く場面では、ニーズが高いとの意見が得られた。

図表 3-4-5 困りごとの認識 (サポートあり・全体)



図表 3-4-6 四国遍路の満足度 (サポートあり・全体)



③ Web サポートの有効性

サポートの事例を見ても、困りごとの対応から観光案内まで広範なニーズに対応してお

り、常時インターネットに接続できるスマートフォンを借りて、いつでも遍路コーディネーターにサポートを依頼できる仕組みが有効だったことは間違いない。初心者のスタートから間もない期間の生活サポート、ベテランを含めた楽しめるルートや周辺観光の案内、台風・安全に関する危機管理等の分野での効果が確認できており、基本生活から周辺観光まで幅広い対応ができる遍路コーディネーターを養成・配置ができれば、巡礼経験に応じて、幅広い層への有用な Web サポートが提供でき、観光消費の増加に繋がることが期待される。

(6) 巡礼環境とサポート態勢

① サポートリクエストの整理

今回の Web サポートで外国人遍路から寄せられたサポートリクエストの内容は以下のような整理ができる。

項目	サポート内容	方針
旅行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行の目的とルート、観光計画 ・体力と歩くペース、利用交通手段 ・目的に合った宿泊施設・食事等 	スタート間もない徳島で生じるサポート要請だが、無理な計画も多く、指導を受けることが望ましい。
宿泊と食事	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の目的に応じた選択、利用方法 ・宿泊予約の代行、宿への緊急連絡 ・宿主等との意思疎通、誤解、誤情報への対応 	巡礼中に生じる、具体的場面でのサポート要請。歩くペース配分の誤り、遍路向け宿泊施設の落差、休業・変更等もあり、外国人のストレスとなるケースは少なくない。
遍路・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート選択と周辺観光案内 ・イベント情報 ・お接待への対応 	ガイドブックの活用が有効だが、外国人が強い関心を示している部分であり、地域の行事への参加や、秘境を探访することも多く、地域を熟知した者のサポートが望まれる。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・台風等の自然災害の回避 ・道の迷い ・宿泊や道中の安全管理（女性） ・体調管理 	事前の対応が難しく、応用問題への対応となるため、しっかりしたサポートの仕組みが望まれる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手配 ・荷物の搬送 	ホテルの宿泊と異なり、サポートするスタッフが居ないケースが多い。

② サポートの方向性

本年度に実施した四国遍路滞在型コンテンツ造成事業⁴において、四国遍路の完歩を目指す外国人遍路に周知すべき事項として、下表の内容を盛り込んだ遍路コーディネーター用マニュアルを作成している。同マニュアルは、四国遍路の文化や歴史を説明するような従来のスタイルではなく、「宿泊施設の種類・選定・予約方法、歩くペースと無理のない旅程」等、外国人遍路の巡礼中の生活上のサポートを重視した内容としているが、今回、Web サポートに寄せられた外国人遍路の困りごとは、マニュアルの指導事項に概ね一致しており、造成した本

⁴ 令和元年度 訪日グローバルキャンペーンに対応した「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業（四国運輸局）

格派向けトレーニングプログラムが、外国人歩き遍路の困りごとの緩和に寄与することが確認できた。

◇外国人歩き遍路に対する指導項目

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1) 服装と装備 | (9) 所持金 |
| (2) 宿泊施設の種類と選定・予約方法 | (10) 貴重品の管理 |
| (3) 英語版遍路地図 | (11) 治安・防犯 |
| (4) 遍路道標の探し方と見方 | (12) 自然災害への対処 |
| (5) 歩くペースと無理のない旅程 | (13) 通信・コミュニケーション手段確保 |
| (6) 食事・飲料水の入手の注意事項 | (14) マナー・エチケット |
| (7) トイレ・休憩 | (15) お接待について |
| (8) 支払い方法 | |

※訪日グローバルキャンペーンに対応した「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業における（「外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プログラム運営指針」より）

③ サポートの役割分担

前述の外国人遍路から寄せられたリクエスト項目については、歴史に育まれた四国遍路に対する理解や作法に関するサポートではなく、周辺観光を含む過疎地を中心とする歩き旅のサポートのような内容となっている。これらの項目を、全て Web サポートで対応することは困難かつ非効率であり、以下の組織に役割分担して効果的な態勢を構築することが必要だと考えらえる。なお、このような役割分担と統括主体の必要性について、本報告書の最終部分に態勢を示している。

時期	項目	サポート内容
巡礼前	レクチャー	・ スタート前に巡礼計画の点検、生活上の注意、遍路の基礎知識等レクチャーを行う
巡礼中	Web サポート (今回の検討事項)	・ サイトへのアクセス、メール、メッセージ、電話等で困りごと・観光案内を行う
	情報拠点 (灯台的役割ー「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業で検討中)	・ 巡礼中に立ち寄った外国人遍路に対し、情報提供、困りごとのサポート対応、危機管理を支援する ・ Web サポートから、対面での案内、送迎、保護等の要請があった場合に出来る範囲の対応を行う
	宿泊・飲食、立ち寄り施設	・ 言語対応、・トイレ、Wi-Fi、充電設備、交通案内、観光案内機能の整備 ・ 自然災害の危機管理、怪我・病気等の健康管理サポートの充実
	地域関係者、ボランティア	・ お接待、道普請、地域のガイド、困りごと対応等

④ 巡礼環境の特殊性

四国遍路の外国人遍路は、都市部や観光地を巡る一般の観光客と異なり、下表のようなハンディーキャップを負って巡礼していることが、今回の調査を含めて明らかになっている。

外国人遍路の受入環境整備については、それらのことを念頭に置いて Web・対面の各方向からサポート態勢を構築することが必要である。

背景にある環境	外国人が負うハンディーキャップ
天気、体調、誤算など、先の宿泊計画が立てられない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊予約は翌日か翌々日までが現実的であり、日々先の宿泊場所の手配を心配しながら巡礼を続けている。 ・ 宿泊している宿で、次の宿の予約を入れてもらう仕組みが存在するが、言葉による誤解や、協力的でない施設もある。 ・ 遍路向けの宿は、チェックインが午後 5 時、夕食 6 時、就寝 9 時、起床 5 時等、管理が厳しく客本位のホテルとは異なる。 ・ 周辺にコンビニ等がなく、食事付きの宿泊も多いが、午後 5 時までに連絡がない場合、宿泊施設にも迷惑をかける。
中山間部の過疎地を、踏破する歩き旅が基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間部の過疎地では、宿泊・飲食施設やコンビニもまばらであり、飲食・物品購入等の選択枝が非常に少ない。 ・ 巡礼路を歩いて移動する外国人にとって、コースから外れた行動がとりにくく、判断を誤ると非常な負荷が生じる。
宿泊施設からの情報や支援が期待できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人経営の宿泊施設では、都市部のホテルのような情報提供や交通手配等の支援が期待できない。 ・ 施設が英語対応できておらず、欧州の高齢者は英語が得意でないケースも多いため、正しい情報が十分に提供されない。
宿泊施設の特異性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実上オーナー 1 人で経営しているような施設では、不定期の休業、電話の不通、受付の常時対応が出来ていないケースも多く、外国人が困惑するケースも少なくない。

(7) Web サポート態勢の構築（将来イメージ）

① 運営主体の構築

外国人遍路のサポートを効果的に行うには、外国人遍路の支援に向けた既存サービスと新しいサービスを統合的に提供することが必要であり、遍路情報サービスセンター（仮称）等の運営主体が不可欠である。同センターは、下表のような Web サービス提供のほか、対面サービスを含めた統合的サービスを統括する役割が期待される。そのなかで宿泊予約サービス機能の実装は容易ではないが、この機能を持たない限り、外国人遍路受入環境の改善も容易ではない。

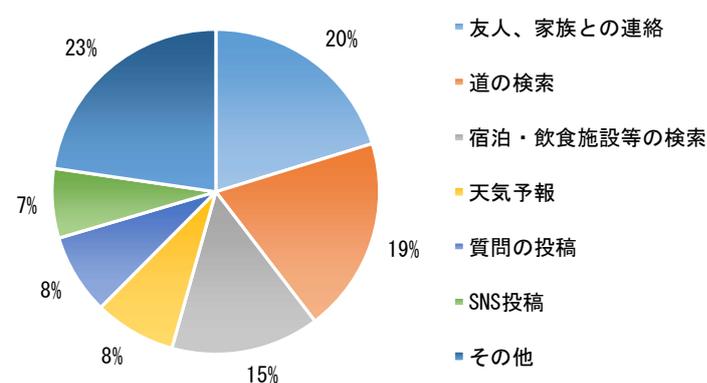
サービス	提供機能
お遍路交流サイト	<p>情報交流活発化のためには以下の機能を順次充実させることが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人遍路同士の情報交換（設ける必要はない） 四国遍路の巡礼に不可欠な基礎知識を発信 宿泊・飲食施設、周辺観光情報の発信 宿泊予約、交通機関等の予約サービスを提供 質問の受付
Web サポート	<p>宿泊施設、遍路道、周辺観光地に習熟したサポート担当者を遍路コーディネーターとして配置。コーディネーターは、一定の手続きを行った外国人遍路に対し、コミュニケーションツールを使って相対で以下の事項のサポートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊予約 観光案内 困りごとの対応
Web 接続サービスの提供	<p>外国人遍路がローミングにより接続する場合は、多額の通信費が発生するため、別途、外国人遍路と遍路コーディネーターが常時コミュニケーションできる環境を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの貸与 モバイルルーターの貸与 SIM カードの貸与、販売

② アンケート調査の結果

➤ スマートフォンの利用目的

四国遍路を 40～50 日かけて周遊を行う際に、Wi-Fi スポット以外でも常時ネットに接続できるスマートフォンの利用が、困りごと対策に有効と考えられており、スマートフォンの利用目的を調査した。利用目的としては、友人・家族との連絡、経路や宿泊施設・飲食施設等の検索、天気予報の確認の合計が、50%を超える。

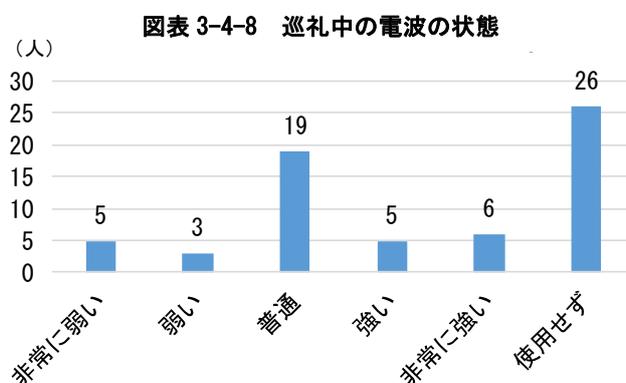
図表 3-4-7 周遊中のスマートフォンの利用目的



利用の状況は日本人旅行者と大きな違いはないが、遍路道等のルート検索、宿泊・飲食施設の検索の合計が35%程度あり、常時ネット接続のスマートフォンの利用が困りごと緩和に重要な役割を果たすことが期待される（図表3-4-7）。

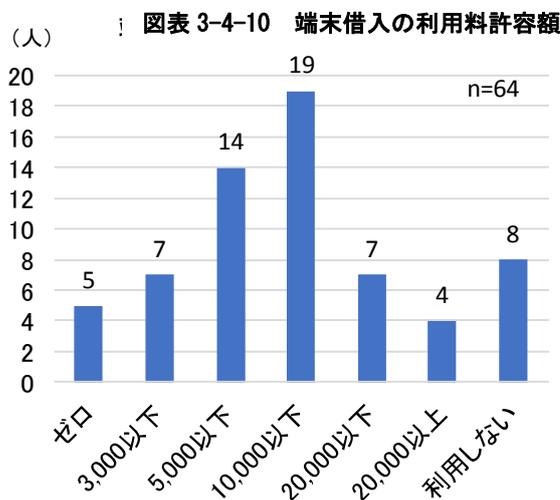
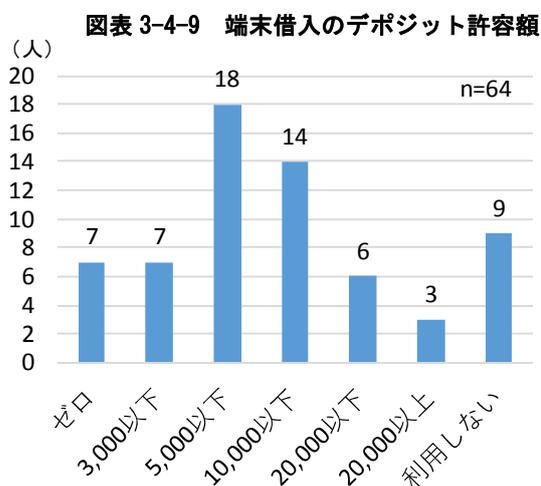
➤ 電波の状態

遍路は中山間部を長い距離歩くことから電波の状況についての質問を行ったが、「普通」との回答が最も多く、「非常に弱い」が少数にとどまっていることから、特に意識することなく、快適に利用できていることが確認できる（図表3-4-8）。



➤ スマートフォン貸出の有料化

制限なく自由に使用できるスマートフォンの借入料金について質問したところ、デポジット、利用料金とも、「5,000円以下」と「10,000円以下」が回答の大部分を占めた（図表3-4-9、3-4-10）。1人が40～50日間利用するケースでは、データ通信費が10,000円程度かかることが想定されることから、スマートフォンの貸出で採算を確保することは難しく、他の有料サービスの付随機能として提供するような位置づけとすることが想定される。



③ サポートの負荷

➤ 実施状況

本事業におけるWebサポートの実施態勢および実施状況は下表のとおりとなった。

実施態勢	スタッフ3人がパソコン、スマートフォンからサポート
対象	外国人遍路17人
期間	3ヵ月間（2019年10月～12月）
対応件数	140件

➤ 対応負荷

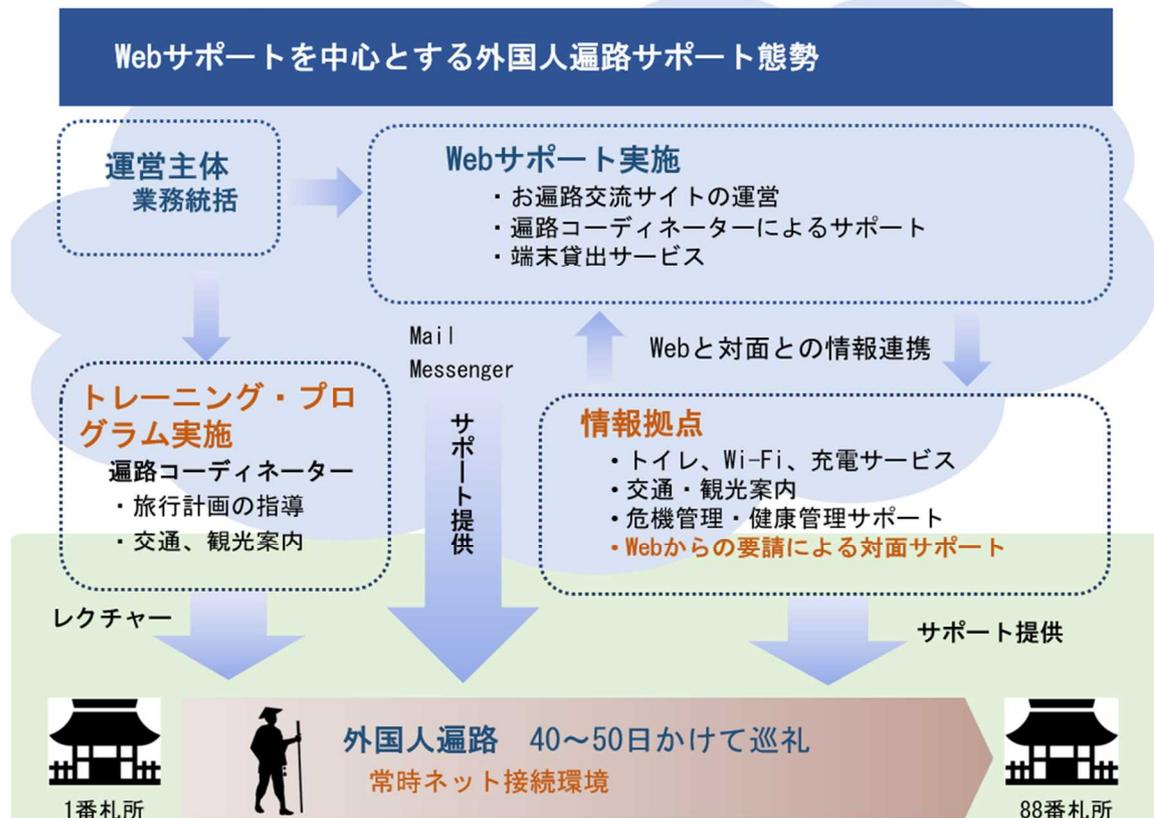
サポート1件の対応時間は平均1時間程度であり、3ヵ月で140時間程度の負荷があった。対応時間には、質問事項の調査や関係者との調整時間を含んでおり、遍路コーディネーターの習熟度によって対応時間は増減する。

対応時間	140件×1時間=140時間
備考	遍路コーディネーターの習熟度によって対応時間は増減

④ Webサポート実施態勢のあり方

Webサポートは、スタート前の遍路コーディネーターによる指導、巡礼途中の情報拠点との連携を行うことで、効果的なサービスを提供することができる。サポートのチャネルとしては、お遍路交流サイトは情報提供のチャネルとし、個別サポートは、遍路コーディネーターとのメール、メッセージ、電話等によるやり取りで対応することが効果的だと考えられる（図表3-4-11）。

図表3-4-11 Webサポートを中心とする外国人遍路サポート態勢



5. GPS 動態分析

(1) GPS 動態データの収集

① 収集状況

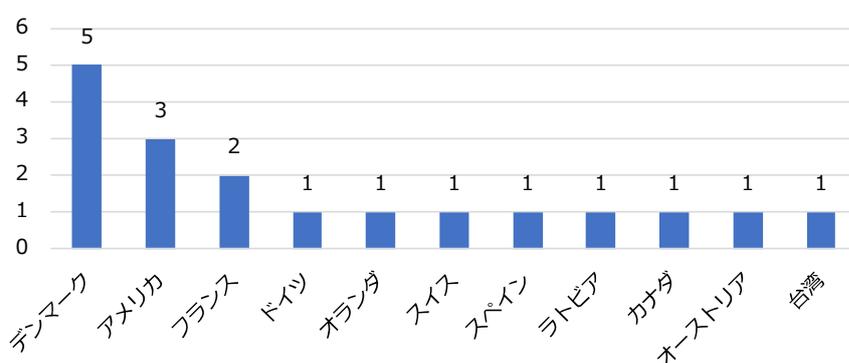
スマートフォンの貸出により、2019年9月26日から12月12日の間に、スマートフォン貸出37人のうち、19人からGPS動態データを収集した。

データ収集期間	2019年9月26日～12月12日
収集人数	19人（スマートフォン貸出37人）

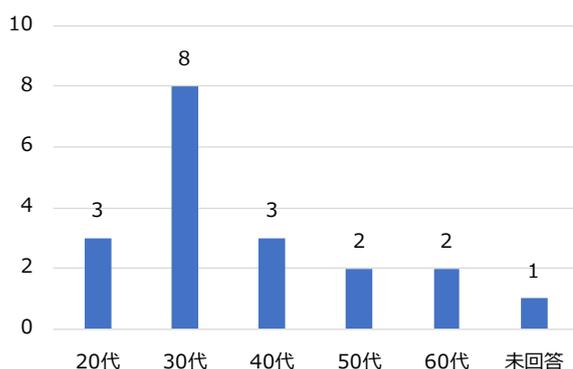
② 対象者の属性

居住国では、デンマーク、アメリカの比率が高いが、全体的傾向でもある（図表3-5-1）。また、年齢層については30代の比率が高いが、それ以外に目立った偏りは見られない（図表3-5-2）。遍路経験回数は大半が1回目であり全体の傾向とも一致する（図表3-5-3）。

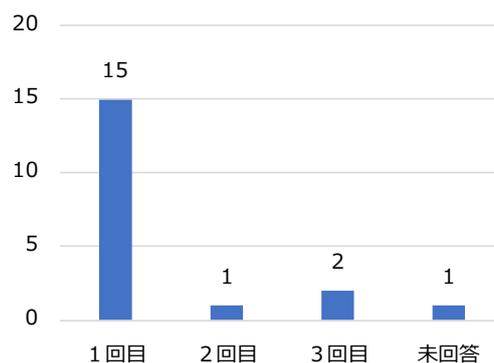
(人) 図表 3-5-1 対象者の居住国別構成



(人) 図表 3-5-2 対象者の年代別構成



(人) 図表 3-5-3 対象者の四国遍路経験回数

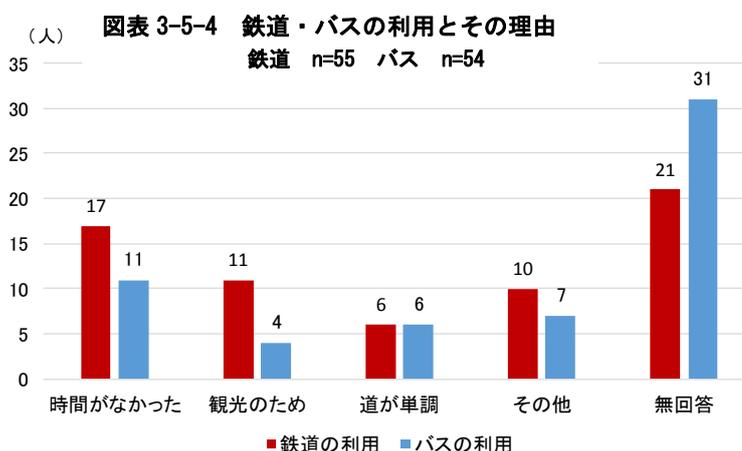


(2) 交通機関の利用

外国人遍路の多くは、「完歩」を目指して四国遍路を開始するが、途中から公共交通を併用するケースが多いとの見方もあった。GPS動態調査の結果を検討する前に、アンケート結果に表れている公共交通の利用実態を確認する。

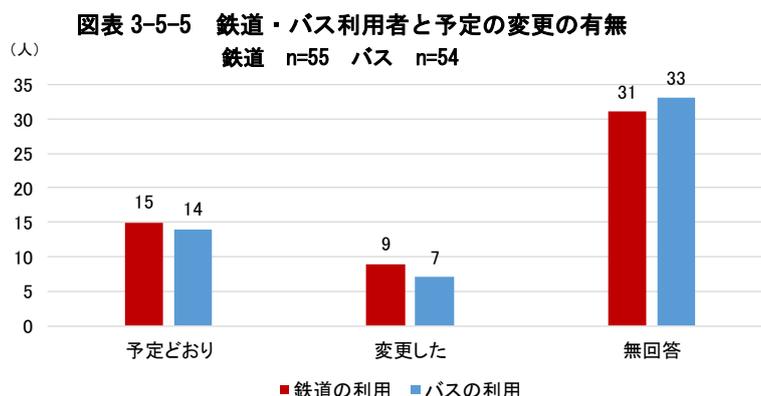
① 公共交通利用の理由

今回の調査では、外国人遍路 64 人のうち、ほぼ全員が歩きを中心に四国 88ヶ所霊場を巡礼する予定で来訪しているが、GPS 動態調査からも明らかのように、鉄道、バスを併用している外国人遍路は多い。64 人中、55 人が鉄道を、54 人がバスを利用しており（図表 3-5-5）、「時間がなかった」「観光のため」「道が単調だった」という理由をあげている（図表 3-5-4）。これまで、歩き遍路と言っても、全員が全行程を歩き通しているとは限らないとの見方があったが、今回の調査から、歩きをみの外国人遍路が相対的に少ないことが明らかになっている。



② 移動手段変更の有無

鉄道・バスなどの公共交通機関の利用が、「当初の予定通り」か、後で「変更した」ものかとの質問に対しては、両方のケースがみられる（図表 3-5-5）。利用の理由としては、「時間がなかった」が最も多く挙げられており、GPS 動態調査の結果も含めると、四国遍路は「45 日程度で完歩できる」との理解にもやや無理があるようにも思える。「観光のため」との理由が多いことを併せて考えると、歩き遍路についても、交通の利便性を提供する（情報をわかりやすく提供する）ことの重要性が理解できる。

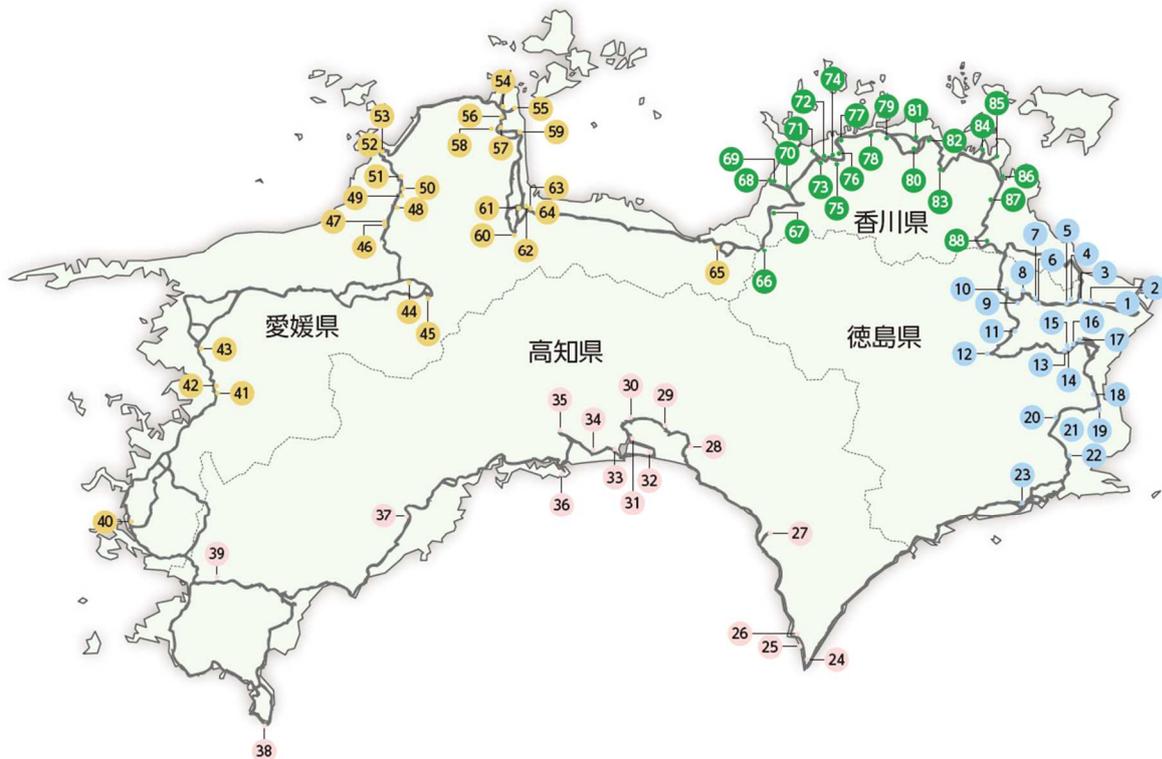


(3) GPS 動態分析

四国遍路とは、「四国一円に点在する空海ゆかりの 88 の寺院を巡る総延長 1,200km の巡礼体験」というような説明がされているが、観光資源としてみた場合、完歩に 40~50 日もかかる巨大な体験型コンテンツであり、その全容を外国人旅行者にわかりやすく説明できているとは言えない。また、漠然と受入環境整備が遅れていると言いつつも、具体的に課題が整理されておらず、周辺観光について、どこにどのように立ち寄っているか全貌が明らかにされていない。そのような認識に立って、今回の GPS 動態調査では、外国人歩き遍路の行動特性をもとに以下の 2 方向から分析を行う。

- ✓ 四国 4 エリアの特徴を分析することで観光開発や環境整備のあり方を明らかにする
- ✓ 外国人遍路の行動傾向を分析することでターゲットを明らかにする

図表 3-5-6 四国遍路の札所一覧



札所番号	札所名 (所在地)	札所番号	札所名 (所在地)	札所番号	札所名 (所在地)	札所番号	札所名 (所在地)
1	りょうぜんじ 霊山寺 (鳴門市)	23	やくおうじ 薬王寺 (美波町)	45	いわやじ 岩屋寺 (久万高原町)	67	だいこうじ 大興寺 (三豊市)
2	ごくらくじ 極楽寺 (鳴門市)	24	ほつみさきじ 最御崎寺 (室戸市)	46	じょうりょうじ 浄瑠璃寺 (松山市)	68	じんねいん 神恵院 (観音寺市)
3	こんせんじ 金泉寺 (板野町)	25	しんしょうじ 津照寺 (室戸市)	47	やさかじ 八坂寺 (松山市)	69	かんのんじ 観音寺 (観音寺市)
4	だいにちじ 大日寺 (板野町)	26	こんごうちょうじ 金剛頂寺 (室戸市)	48	さいりんじ 西林寺 (松山市)	70	もとやまじ 本山寺 (三豊市)
5	じぞうじ 地藏寺 (板野町)	27	こうのみねじ 神峯寺 (安田町)	49	じょうどじ 浄土寺 (松山市)	71	いやだにじ 弥谷寺 (三豊市)
6	あんらくじ 安楽寺 (上板町)	28	だいにちじ 大日寺 (香南市)	50	はんたじ 繁多寺 (松山市)	72	まんだらじ 曼荼羅寺 (善通寺市)
7	じゅうらくじ 十楽寺 (阿波市)	29	こくぶんじ 国分寺 (南国市)	51	いしてじ 石手寺 (松山市)	73	しゅつしやかじ 出釈迦寺 (善通寺市)
8	くまだにじ 熊谷寺 (阿波市)	30	ぜんらくじ 善楽寺 (高知市)	52	たいさんじ 太山寺 (松山市)	74	こうやまじ 甲山寺 (善通寺市)
9	ほうりんじ 法輪寺 (阿波市)	31	ちくりんじ 竹林寺 (高知市)	53	えんみょうじ 円明寺 (松山市)	75	ぜんつうじ 善通寺 (善通寺市)
10	きりほたじ 切幡寺 (阿波市)	32	ぜんじぶじ 禅師峰寺 (南国市)	54	えんめいじ 延命寺 (今治市)	76	こんぞうじ 金倉寺 (善通寺市)
11	ふいでら 藤井寺 (吉野川市)	33	せつらいじ 雪隠寺 (高知市)	55	なんこうぼう 南光坊 (今治市)	77	どうりゅうじ 道隆寺 (多度津町)
12	くまだにじ 焼山寺 (神山町)	34	たねまじ 種間寺 (高知市)	56	たいさまじ 泰山寺 (今治市)	78	ごうしょうじ 郷照寺 (宇多津町)
13	だいにちじ 大日寺 (徳島市)	35	きよたきじ 清瀧寺 (土佐市)	57	えいふくじ 栄福寺 (今治市)	79	てんのうじ 天皇寺 (坂出市)
14	じょうらくじ 常楽寺 (徳島市)	36	しょうりゅうじ 青龍寺 (土佐市)	58	せんゆうじ 仙遊寺 (今治市)	80	こくぶんじ 国分寺 (高松市)
15	こくぶんじ 国分寺 (徳島市)	37	いわもとじ 岩本寺 (四万十町)	59	こくぶんじ 国分寺 (今治市)	81	しろみねじ 白峯寺 (坂出市)
16	かんのんじ 観音寺 (徳島市)	38	こんごうふくじ 金剛福寺 (土佐清水市)	60	よこみねじ 横峰寺 (西条市)	82	ねごろじ 根香寺 (高松市)
17	いざじ 井戸寺 (徳島市)	39	えんこうじ 延光寺 (宿毛市)	61	こうおんじ 香園寺 (西条市)	83	いちのみやじ 一宮寺 (高松市)
18	おんざんじ 恩山寺 (小松島市)	40	かんにざいじ 観自在寺 (愛南町)	62	ほうじゅうじ 宝寿寺 (西条市)	84	やしまじ 屋島寺 (高松市)
19	たつえじ 立江寺 (小松島市)	41	りゅうこうじ 龍光寺 (宇和島市)	63	きちじょうじ 吉祥寺 (西条市)	85	やくりじ 八栗寺 (高松市)
20	かくりんじ 鶴林寺 (勝浦町)	42	ぶつまくじ 仏木寺 (宇和島市)	64	まえがみじ 前神寺 (西条市)	86	しどじ 志度寺 (さぬき市)
21	たいりゅうじ 太龍寺 (阿南市)	43	めいせきじ 明石寺 (西予市)	65	さんかくじ 三角寺 (四国中央市)	87	ながおじ 長尾寺 (さぬき市)
22	びやうどうじ 平等寺 (阿南市)	44	だいはうじ 大寶寺 (久万高原町)	66	うんべんじ 雲辺寺 (三好市)	88	おおくぼじ 大窪寺 (さぬき市)

資料：四国アライアンスほか「新時代における遍路受入態勢のあり方調査」(2019年)より

(4) GPS 動態分析—エリア分析

① 目的

四国遍路の基本は、四国4エリア総延長 1,200km を 40～50 日かけて踏破する巡礼体験であり、スタート地点の徳島県からゴールの香川県まで、様々な要素が大きく変化する。寺院、巡礼路、自然、景観、お接待文化の違い等、周辺環境だけでなく、巡礼している外国人の精神や肉体の状態も変化する。

従って、外国人遍路への対応についても、エリア毎に誘客戦略や課題は異なるはずである。ここでは、四国4エリアの受入環境整備や観光振興を効果的に実施する前提として、寺院、巡礼路の状況⁵や周辺の自然、景観等をイメージしながら、外国人遍路の動態を四国4エリアについて整理する。

図表 3-5-7 歩きたい道と退屈な道

古来の遍路道を中心に、それ以外の歩きたい道も加えて、外国人遍路が足を伸ばすことのできるエリアの道を「歩きたい道」と「退屈な道」に色分けして表示した。



資料：百十四経済研究所作成

色表示：青＝歩きたい道、茶＝退屈な道

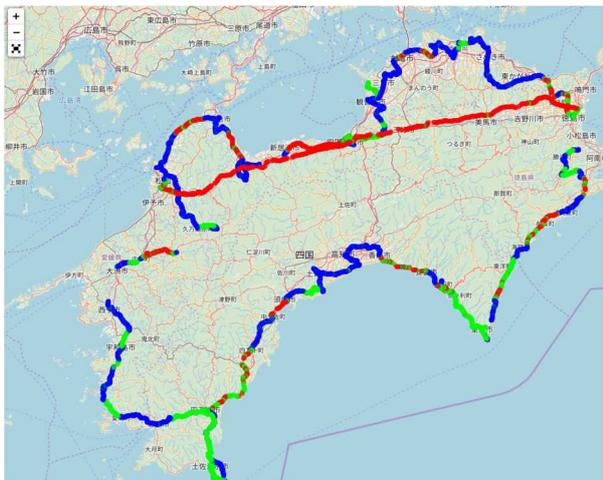
⁵ 遍路道は古道の状態が保持できているところ、生活道路として舗装整備されているところ、遊歩道として歩きやすくしているところなど状態は区々である。上の地図は、道以外に周囲の景観という主観的要素も含めて分類したものであり、これと異なる考え方は当然にある得る。

② GPS 動態データの可視化パターン

外国人遍路の動態を把握するにあたり、以下 [A] ~ [F] の可視化パターンを用いて4エリアに分けて分析を行った。

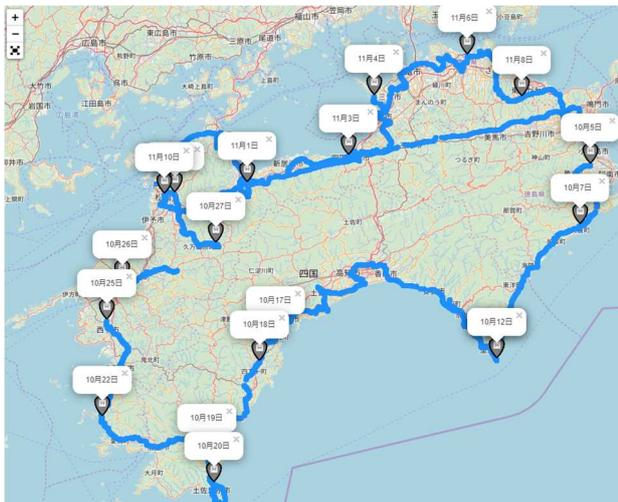
[A] 速度表示

移動手段を把握するために、移動速度「2m/s未満：徒歩」、「2m/s以上17m/s未満：低速交通」、「17m/s以上：高速交通」の三段階に区分して移動経路を色分けして表示する。分析において、その経路の公共交通機関有無、種類をもとに利用交通手段を特定する。



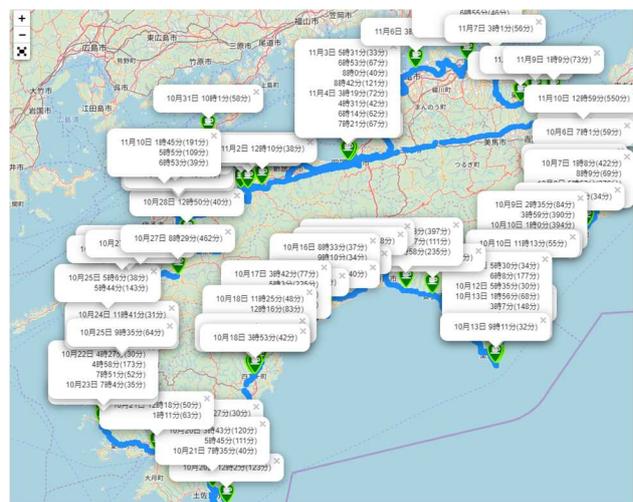
[B] 宿泊表示

深夜に移動していない場所を宿泊場所とみなして、その場所に宿泊日表示する。宿泊時に端末のスイッチを切ることも多く、表示されていない場所も見られる。



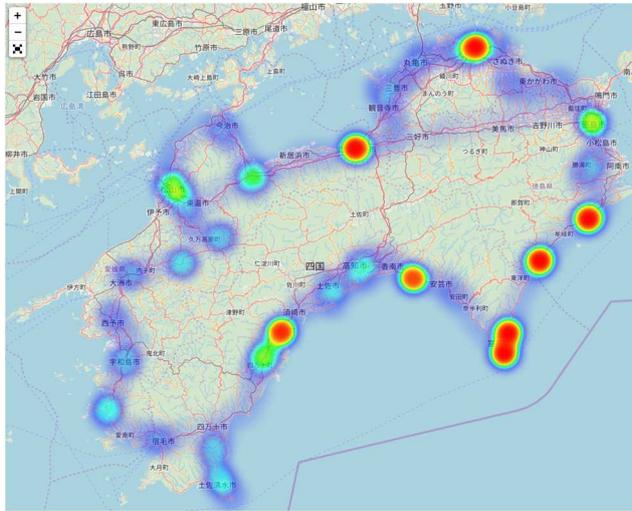
[C] 滞在表示

飲食、休憩のための立ち寄り先や観光等で時間を費やした場所を特定する。30分以上、1km四方から出していない場合を滞在とみなして、その滞在時間と日時を表示する。



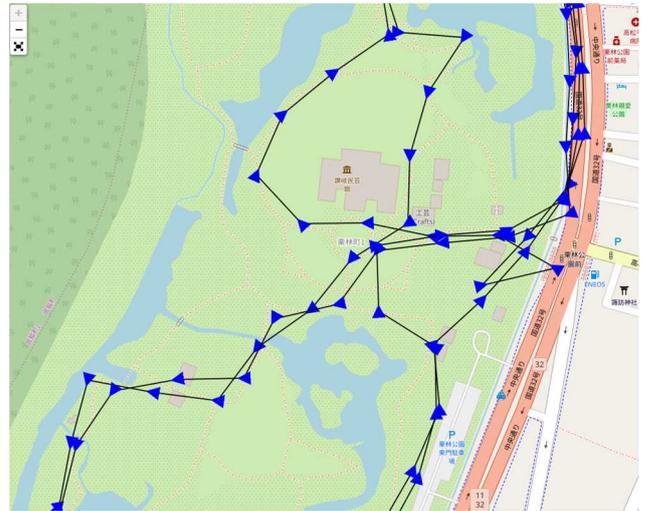
[D] ヒートマップ表示

長時間の滞在や移動に長時間をかけている場所を色の濃淡で可視化視化。



[E] 移動方向表示

周遊の詳細について、移動方向を含めて把握するために、矢印付きの移動表示を行う。



[F] 選択表示 (宿泊—滞在—徒歩—高速移動)

宿泊場所、滞在場所、徒歩、公共交通の利用等、地域の状況を俯瞰する。宿泊、滞在、移動「2m/s未満」、「2m/s以上17m/s未満」、「17m/s以上」から選択した条件に従って表示する。



◆ エリアの特徴

- ✓ 自然の道が10km以上続くエリアが多く、12番焼山寺および20番鶴林寺～21番太龍寺～22番平等寺は評価が高い。大半が遍路道を忠実に歩く傾向があり、ショートカットや寄り道が少ない。
- ✓ 出発前は、距離が15kmなら3～4時間程度で到着できると考えているが、ルートの探し方、寺の参拝、日本の田舎に慣れておらず、予想以上に時間がかかっている。
- ✓ 鳴門の渦潮、眉山、阿波おどり会館、徳島城など、周辺観光をせず、地域の小さな観光名所にも立ち寄らない。祖谷は、香川県に到達した頃か遍路終了後が多い。
- ✓ 遍路道は、都市部・山中、標識が整備されており、地元の人々も道端で気軽に挨拶してくれる。



■ 四国遍路の開始

- ・ 四国到着の1日目は徳島駅または1番札所周辺での宿泊が多く、野宿組も安宿に宿泊する。
- ・ 大多数が1番周辺で必要なものを購入。
- ・ スタート後、最初の宿泊は6番の宿坊か通夜堂。宿坊体験も充実。

■ 遍路ころがし

- ・ 12番の遍路ころがしは事前の恐怖心が強い割に、スムーズに通過。前日に11番付近で宿泊し、下山後は鍋岩で宿泊。
- ・ 荷物が多すぎることや、下り坂が長いと、13番以降で足や膝に不具合を訴えることが多い。ここで我慢しても20～21番で足の故障を起こすことが多い。

■ 徳島駅周辺

- ・ 17番の後、徳島駅周辺で休養日をとることが多い。
- ・ 13～19番は近隣の宿泊施設が限られており、徳島駅周辺に宿泊して荷物を置き、電車やバスを使って身軽に歩くパターンも多い。

■ 単調な55号線

- ・ 17～18番まで55号線沿いを長距離歩くが、車両の通行が多く、この区間は非常に評判が悪い。
- ・ 勝浦町から20～22番の区間は宿泊場所がルート上になく、宿泊地の選定に困惑。

■ 日和佐での選択

- ・ それまで歩きにこだわった人も、日和佐から2つのパターンに分れる。①電車とバスで室戸まで一気にいくか、②あくまで歩きにこだわる。
- ・ 歩く場合は、日和佐～牟岐間は55号線ではなく、千羽海岸、南阿波サンラインなど、快適な道を選ぶ傾向が強い。

[課題・整備の方向性等]

- ✓ 国内外の歩き遍路が一同に会する場所であり、「遍路交流サロン」のような場所を設け、落ち着いて計画を立てられる雰囲気を醸成することも重要。情報提供、遍路同士の交流ができれば、スムーズな遍路を開始できる。
- ✓ 徳島市内では、足の故障への対応、荷物の見直し（含、荷物預かり）、靴の変更のアドバイスや周辺観光を案内できる情報拠点が望まれる
- ✓ 日和佐は環境が大きく変わる転換点でもあり、古い町並みも楽しめることから、周辺観光の案内、巡礼計画変更の相談に乗れるような情報拠点が望まれる。ライト層向けコンテンツ（P75参照）造成エリア。



◆ エリアの特徴

- ✓ 4県中、ルートは最長だが、自然道や山道は多くなく、まとまった山道が歩けるのは36～37番の焼坂、添蚯蚓道のみ。急峻な山道を越えて到達する山寺は27番のみ。
- ✓ 高知県内では善根宿と通夜堂は徳島に比べて激減。
- ✓ 徳島県との県境を越えると商店やコンビニが極端に減り、室戸岬までの55号線は10kmほど自動販売機すらない場所があり、脱水症になる危険もある
- ✓ 24番、27番、37番、38番札所は札所間の距離が長く、1日以上「寺への参拝無しで歩く」だけの日がある。



■ 室戸岬までの交通手段

- ・ 日和佐～室戸岬は電車とバス利用が多く、滞在が短い場合はその傾向が非常に強い。歩くと3～4日かかるが、交通機関では2時間で済み、電車もバスも遍路道沿いを運行しており、目にする景色はほぼ同じ。

■ 室戸岬から

- ・ 室戸岬では24番参拝後に岬周辺の遊歩道や御厨人窟を散策していることが多い。
- ・ 日和佐から交通機関を利用し始めた場合は、遍路道と交通機関が並行していることもあり交通機関を利用する傾向が強い。26番、田野駅からの電車利用が多くなる。
- ・ 24～28番の有料宿泊は「遍路ハウス」系の数カ所に集中。

■ 高知市周辺

- ・ 28番参拝後は、電車で高知駅へ向かい繁華街のホテルやホテルで連泊し、29～33番をバスと電車を組み合わせ参拝する事が多い。
- ・ 高知市で休養日を取り、高知城を観光することが多く、歩きの場合はルート上の牧野植物園や桂浜を観光。

■ 窪川付近

- ・ 37番は前後の札所と特に離れており、近くに窪川駅があるため電車を利用した参拝が多い。

■ 足摺岬付近

- ・ 38番から39番には3つのルートが有り、最短と最長では2日の差が出る。大多数が最短距離をとっており、他の2つのコースをとるのは少数派。
- ・ 38番周辺の足摺岬は、室戸岬と比較すると極端に滞在・散策時間が短く、極端な場合はバス利用で来て参拝後すぐバスで戻るため数十分ということもある。
- ・ 時間をとって散策をしているのは「歩きこだわり型」や大月回りルートの途中、足摺で宿泊する場合に限られる。

[課題・整備の方向性等]

- ✓ 歩きこだわり派は室戸岬に差し掛かるところで疲労が極度に高まっており、疲れを癒し宿泊後、周辺観光を提案する情報拠点が望まれる。室戸岬周辺でライト層向けコンテンツ(P75参照)を造成しており、そのまま案内しても良い。
- ✓ 高知市内で休養日をとることから、観光案内所が情報拠点として、周辺観光の案内だけでなく、寺が少なくなる須崎、四万十、足摺方面のルートの楽しみ方を案内することが望まれる。越智、津野には魅力的な観光スポットが散在する。
- ✓ 36～37番は鉄道の利用が多いが、同区間にある焼坂、添蚯蚓道は古道として魅力に満ちた遍路道であり、36～37番を歩かせるような提案が望まれる。窪川を中心に、ライト層向けコンテンツ(P75参照)を造成。



◆ エリアの特徴

- ✓ 愛媛からは遍路道に忠実に歩く感覚が薄れ、やや中だるみの時期になり、山道ではなく最短距離の国道を歩くパターンも出てくる。
- ✓ 46～59番エリア（松山～今治市以外）では、高知県と比べ、短距離ではあるが山道の遍路道がコンスタントに出てくるが、バスや鉄道が発達しており、交通機関の利用度が更に上がる。
- ✓ ルートの長さに対して宿泊日数や宿泊場所の数が少なく、比較的大きな町の駅前（宿毛駅、宇和島駅、松山駅、今治駅、伊予西条駅、伊予三島駅）の宿泊に偏る。
- ✓ 魅力ある札所や古道があるが、エリアが広いので、ゆっくり楽しめていない。



■ 南予エリア

- ・ 歩き派は、39番の宿毛市で「燃え尽き症候群」なのか、ホテルに連泊して一日寝ているケースが見られる。
- ・ 40～41番は3つのルートがありそれぞれに山道があるが、大多数は海沿いのルートを行くか、バスや電車を利用しており、中道や篠山ルートは利用されていない。
- ・ 遍路道にこだわらず最短距離を歩いたり、交通機関の利用度が更に上がり、大きな町で泊まる傾向がでてくる。
- ・ 宇和島の宿泊が多く宇和島城は多く立ち寄っている

■ 松山市近辺

- ・ 43番から電車で松山市に直行し、休養日をとることが多く、松山城と道後温泉は概ね観光している。道後温泉は、本館の内湯を利用するのみで、温泉街の観光ホテルへの宿泊はない。
- ・ 松山城周辺のホテルに連泊して拠点とし、バスや電車で44～53番を参拝する例が多い。44～45番は松山駅～久万高原のバスを、46～51番は1日かけて道後温泉手前の51番まで歩く。52～53番は松山駅から電車で往復。
- ・ 山道では、44～45番の八丁坂、60番往復への道は多くが歩いている

■ 今治～

- ・ 53～54番は距離があり瀬戸内海沿いの舗装道路のため、今治駅まで電車で直行して54～56番へ歩く事が多い。
- ・ 観光派は、しまなみ海道のサイクリングをし、広島観光をしている模様。
- ・ 60、66番前後の札所は、効率性でルートを選定し、大郷からの史跡指定されている山道の利用は極めて少ない。
- ・ 64番横の石鎚神社や、石鎚山は訪れていない。

【課題・整備の方向性等】

- ✓ 広いエリアであるが故に、魅力ある古道や周辺観光が埋もれている可能性があり、愛媛県に入って間もない宇和島に情報拠点を設けて、県内の巡り方を案内することが重要。
- ✓ 交通機関を利用する場合、観光を兼ねた移動手段として、観光列車の活用も検討
- ✓ 体験型周辺観光に関心を示す層も多く、サイクリングをテーマとする観光の案内も有効。今治からのしまなみ海道だけでなく、久万高原の情報拠点である古岩屋荘を中心とするサイクリングも訴求力が強い。



◆ エリアの特徴

- ✓ 県内最初の66番、80～82番、最後の88番以外は山道が無く、生活道路として利用されている遍路道を通っているが、細い道でも車の交通量が多く快適とは言えない。
- ✓ 他県と比べて、大部分の札所が鉄道の駅の近傍にあり、公共交通機関でのアクセスが容易。
- ✓ 空海の出生地・善通寺があるため、空海の幼少期に関わりが深い寺や伝説が残る寺が多い反面、住宅街や繁華街に近い「町の寺」が多く、周辺の景色が魅力に欠けるケースが多い。
- ✓ 善根宿や通夜堂が極端に少なくなり、高松市周辺では住民の意識も都会的な感覚に変わり、すれ違いざまの挨拶や声を掛けられることも少なく、「お接待文化」があまり感じられなくなる。



■ 東讃エリア

- ・ 県内最初の66番へは、観音寺市内から歩くことが多いが、バスを利用しているケースも見られる。
- ・ 68番、69番の裏山からは「銭形砂絵」が展望できるが、見に行っていない。
- ・ 父母が浜は、71番への途中にバスで通っているが、立ち寄っていない。

■ 中讃エリア

- ・ 71～75番は大多数が1日で歩き、交通機関を利用する場合は、善通寺から電車を利用して76番と77番まで1日で行く。
- ・ 善通寺から近いが、金刀比羅宮の観光はしていない。

■ 高松市周辺

- ・ 高松から女木島、男木島、豊島、小豆島、直島などの観光地に立ち寄っていない。
- ・ 80番～87番は、高松市街地に2～3日連泊し、そこを拠点に重い荷物を持たずに電車やバスですべて回っている。
- ・ 81～82番の山道は殆どの場合が歩いており、根来寺道を通っている。また、鬼無に立ち寄っているケースも見られる。
- ・ 84番～86番には、周辺にアート関連施設が点在するが、立ち寄っていない。

■ 東讃エリア

- ・ 歩いて88番へ行く場合は、ほぼ全員が前山ダムから女体山越えのルートを取り、前山お遍路サロンへは必ずしも立ち寄っていない。
- ・ 88番参拝後は、大多数が1番札所にもどり「円形」遍路を完成させようとしている。

[課題・整備の方向性等]

- ✓ 四国遍路スタート地点の徳島と比べると、終盤に差し掛かり淡々とした巡礼のイメージになっており、観音寺市近辺の情報拠点で、モデルコースを提案することも有効だと考えられる。
- ✓ 寺院の立地に外国人が期待する風情がなかったり、四国遍路の感動を演出する「お接待文化」が希薄になっていることは事実であり、強みである「瀬戸内」「アート」をテーマとする周辺観光の案内に注力することも必要。
- ✓ 香川県は、島嶼部にもアートを中心とする多くの観光資源があり、高松市に入る前の情報拠点で、島巡りの提案をすることも有効。



③ 4 エリアの状況

四国4エリアの外国人遍路の動態からみた課題と対応の方向性を示す。巨大な観光資源であり、着眼点によって様々な課題や対処の仕方が考えられるが、一つの見方として各エリアの観光振興の方向性を考える参考になるものと思われる。

	エリアの特徴と外国人の動態	課題・対応の方向性
全体	<ul style="list-style-type: none"> お寺、道、お接待、自然景観以外に、エリアにおける外国人遍路自身の心身の変化も大きく、同じ自然道を進むにしても、徳島と愛媛（久万高原）では受け止め方が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> 「通し打ち」では、「中だるみ」になるエリアでも、「区切り打ち」ルートのスタート地点にすれば、新鮮な目で歩くころとになり、地域の再発見が期待できる
徳島県	<ul style="list-style-type: none"> 大半の外国人遍路は関西空港から高速バスで徳島県に入る 周辺観光も少なく、緊張感を持続させて忠実に遍路道を歩いている 日和佐から気が緩み電車とバスを併用するケースが出てくる 自然の道が長く、標識も整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 弱点の名所観光を補強するより、強みである自然道歩きをアピール 日和佐までの古道を中心としたルートを体験型周辺観光と共に売り出す 1番付近に遍路交流の場を設け、有償サポートも提供 4エリアの情報を集約して提供する役割を担う
高知県	<ul style="list-style-type: none"> 高知県に入ると、コンビニ、自動販売機が減り、歩くのには厳しい環境になる 札所間の距離が長く、自然道も限定的であり交通機関の利用が増加 室戸岬、牧野植物園、高知城、桂浜等、観光地の散策は見られるが、足摺岬は立ち寄り時間が短い 	<ul style="list-style-type: none"> 歩きにこだわらず、交通を併用した周遊プランを示し、裾野を広げる 室戸岬、仁淀川、四万十川、足摺岬の自然体験に、36～37番の古道体験を加えるイメージ 体験型の観光と交通とのセットでの案内
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> やや中だるみの時期になり、自然道ではなく最短距離の国道を歩くパターンも出てくる 自然道がコンスタントに出てくるが、バスや鉄道が発達しており、交通機関の利用度が更に上がる 松山市内で連泊する傾向があり、松山城、道後温泉本館には立ち寄る。久万高原も松山からバスを使うことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 宿毛から内子、久万高原等、自然を満喫する道歩きメニューの提案 久万高原の滞在による体験型観光 松山連泊による市内、周辺観光の提案 今治から、しまなみサイクリングによる、広島までの広域周遊観光の提案
香川県	<ul style="list-style-type: none"> 県内最初の66番、80～82番、最後の88番以外は自然道が無く、「町の寺」は周辺の景色が魅力に欠ける 生活道路を多く通るようになり、交通機関を併用して、行動パターンもバラバラになる 高松から女木島、男木島、豊島、小豆島、直島などの観光地に渡っていない 	<ul style="list-style-type: none"> 遍路テーマでは、県の東西、善通寺、五色台をアピール 徳島と比べて明らかに「遍路色」が後退しており、「遍路」に「瀬戸内海、アート」というテーマを重ねる アートの島を含めた島嶼部への誘導は不可欠

(5) GPS 動態分析—行動特性分析

① 目的

GPS 動態データの分析により、周遊パターンを類型化することで、ターゲット毎の戦略を明らかにする。今回は、サンプル数は少ないが、先ず、「通し打ち」か「区切り打ち」かで、外国人遍路を分類し、移動手段として「歩き」か「交通機関を併用」かで、通し打ち遍路を分類し、公共交通機関併用型のなかで、特に観光を重視するケースにスポットを当てた。

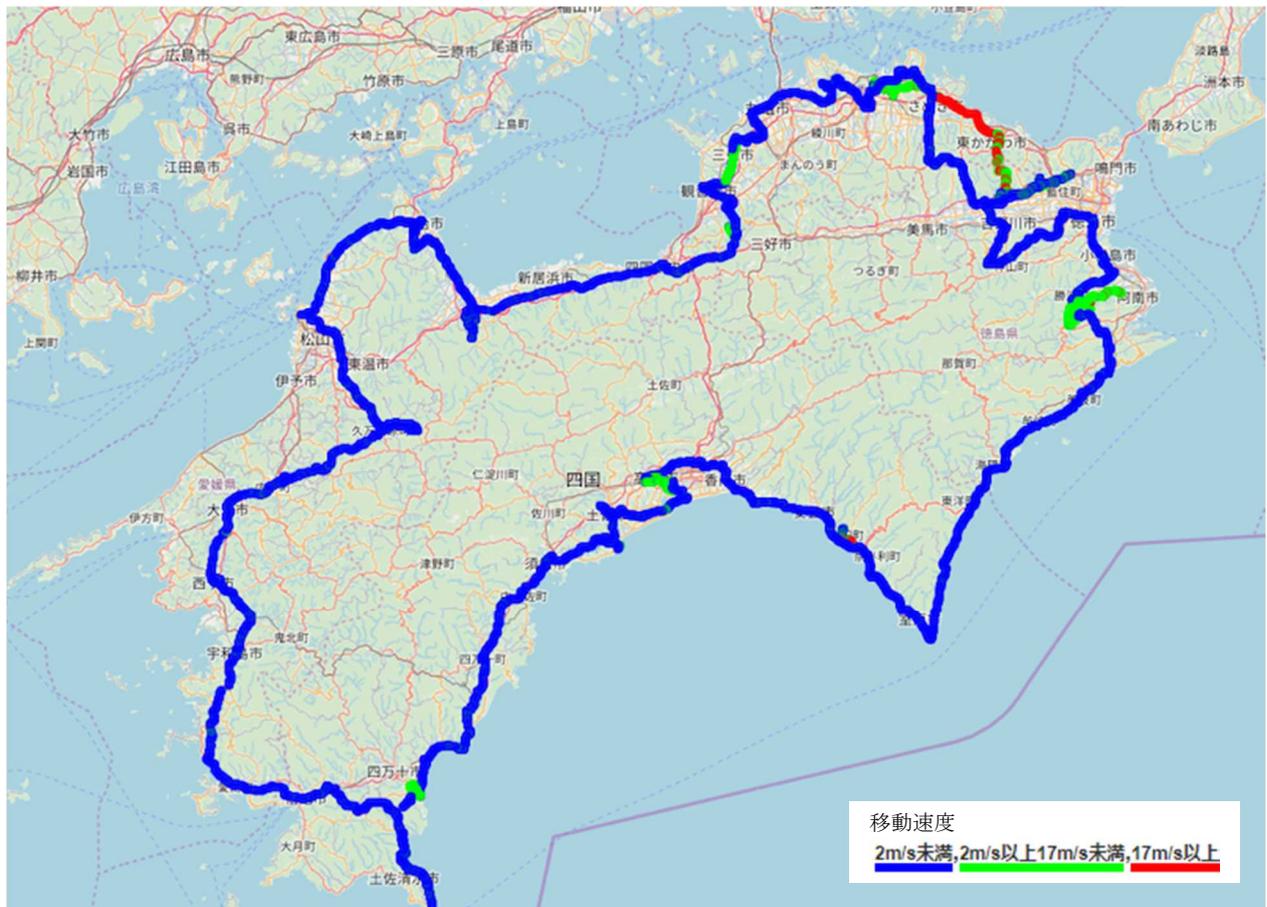
なお、特殊な周遊パターンも含まれるが、旅行者の多様化を踏まえた、柔軟な環境整備の必要性を想定して取り上げたものである。

	類 型	細 目
通 し 打 ち 型	[A] 歩きこだわり型	[巡礼重視] あくまで、歩きにこだわるタイプ。やむを得ず交通機関を利用して先に進んだ場合は、次の日に交通機関で元の地点に戻って歩き直すパターンが多い。
	[B] 交通機関併用型	[巡礼重視] 札所間の距離が長い場合にバスや電車を利用。最初から交通機関の利用を予定しているケースは少なく、巡礼開始後に「交通機関併用型」にシフトするケースが多い。
		[娯楽志向] (交通機関多様型) ネット検索で、複雑なバスの路線や時刻を調べながら、スタンプラリー的に四国周遊を満喫。
		[観光重視] 遍路だけが旅の目的ではなく、観光名所に立ち寄って四国を楽しみたいと考えている。滞在日数、予算に余裕があり、ルートや宿泊施設を品質で選ぶ傾向が見られた。
	[C] 特殊型	[サイクリング型] 行動範囲が広く、多くの観光名所に立ち寄る。各地の良質な宿泊施設を選ぶこともでき、今後、期待が持てる。
	[D] 区切り打ち型	休暇等の関係で、四国に滞在できる期間が 88 ヶ所を全て回るには足りない外国人遍路が増加傾向にあり、「通し打ち」よりも、まとまった距離の「区切り打ち」の比率が上昇していると言われている。

② 共通する行動パターン

各類型共通の行動パターンとして、各県庁所在地で以下の動きが顕著となっている。

項目	概要
県庁所在地を拠点とする巡礼および休息	<ul style="list-style-type: none"> 高知市、松山市、高松市で駅前の繁華街に連泊し、荷物は置いて身軽にバスや電車の利用で周辺の 10 ヶ寺程度を 2~3 日で回る。 徳島市、高知市、松山市では休息日を半日~1 日取っているが、高松市では終わりが見えているため、休息を取らないことも多い。
残余日数の使い方	<ul style="list-style-type: none"> 予定日数よりも早く遍路を終えた場合、四国よりも東京や大阪、京都などの観光都市への立ち寄りを好む。
観光の傾向	<ul style="list-style-type: none"> 観光は、ほぼ高知城と松山城、道後温泉のみ 他の有名な名所、地域名所には全く立ち寄っていない。休養日の観光も、宿泊場所近隣のみ。交通機関で少し離れた名所を訪れていない
宿泊施設の選び方	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊場所が非常に似通っており、予約の簡便性からか、「遍路ハウス」系列の宿を選ぶ傾向が強い



■ 移動

- ・ バスや電車の利用は最小限とし、やむを得ず交通機関を利用して先に進んだ場合は、次の日に交通機関で元の地点に戻って、改めて歩き直すパターンが多い。
- ・ 遍路道のルート通りに歩く傾向があり、道迷いは少ないため、GPS による足跡がほぼ青色（歩行）のみでシンプルできれいな一筆書きラインになる。
- ・ 歩くスピードが速く、日が出ている間に長い距離を歩いている。

■ 宿泊・休息

- ・ 有料の施設を利用する傾向が強く、野宿場所探しや食事調達に時間をかけない。
- ・ 午後5時までにチェックインしている日が多く、極端な早朝や日没後に歩くことはしない。
- ・ 宿泊はできる限りルート上にある施設を選び、車での送迎サービスの利用も極力避ける。
- ・ 野宿の場合はルート上の休憩所や善根宿を利用。
- ・ 昼食をカフェやレストランでゆっくりと食べている様子はない。
- ・ 休息日は遍路全期間で2～3日しか設けていない。

■ 参拝

- ・ 納経をしていない場合でも札所は必ず参拝し、番号順の巡礼を重視。

■ 観光

- ・ 歩行中は、観光名所等はルート上にあっても立ち寄らず、休養日に周辺観光をしている。

該当サンプル

Id.	居住国	性別	年代	所要日数	備考
125	スペイン	女性	30代	50日間	
126	カナダ	男性	40代	55日間	
127-119	デンマーク	女性	20代	43日間	
128	フランス	男性	60代	49日間	
130	ドイツ	男性	30代	53日間	
134	エストニア	女性	50代	n. a.	

分析例：フランス 男性（60代） 所要日数：49日

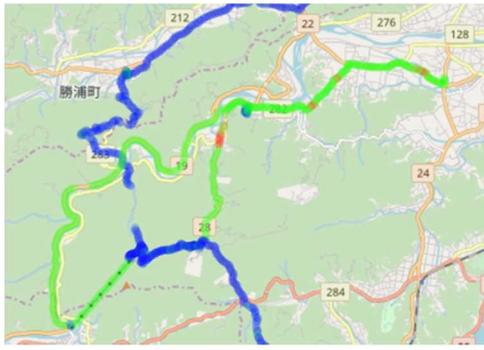
■ 行動特性

- ・ 今回の GPS 調査サンプル中、最も「全ルート完全に歩き」に近い状態で結願している。
- ・ バスと電車の利用が極端に少なく、利用した場合は1回を除いて全て翌日に交通機関利用開始地点まで戻って歩き直している。
- ・ 交通機関の利用が最小にも関わらず、「歩きこだわり型」サンプル・グループの中で結願までにかかった合計日数が最も短い。休息日を設けずにコンスタントに速いスピードで歩き続けた。
- ・ 非常に歩くスピードが速いため、頻繁にGPSのトラックの表示が青ではなく緑（車の速度）になっている。まるで地図を予めプログラミングされたロボットの足取りかと思えるような、地図で示された遍路道ルート通りの乱れのまったくない足跡。
- ・ 店に立ち寄るまたは観光名所で一時足を止めるなどでルートを外れるようなことがほぼなかったため、GPSのトラックが非常にきれいなラインの一筆書きの四国一周を描いている。

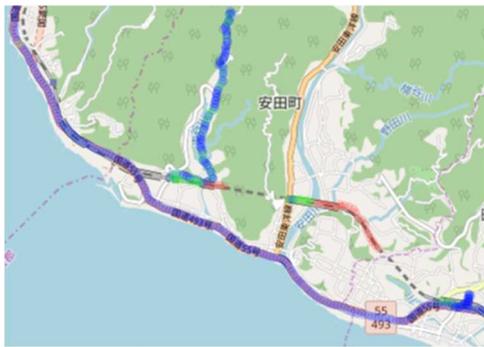
■ 特記事項

- ・ ロープウェイ体験がしたかったと見え、21番と66番ではあえてロープウェイに乗っている。
- ・ そのため、21番ではロープウェイで登った後に前日歩いて下山したルートを再び歩いて下りる。
- ・ 66番では歩いて登った後に、寺から麓までロープウェイで往復した後、寺からまた歩いて下りるとい行動をとっている。

詳細説明



- 21 番参拝の後、車参拝道で下山し、宿の送迎で少し離れた宿に泊まっている。
- 翌日は車でわざわざロープウェイ側に送ってもらい、ロープウェイに乗り直して、再び車参拝道で下山。あえて同じ道を2度も下り、なぜ舎心ヶ嶽方向に行き、いわや道を利用していないのかは不明。



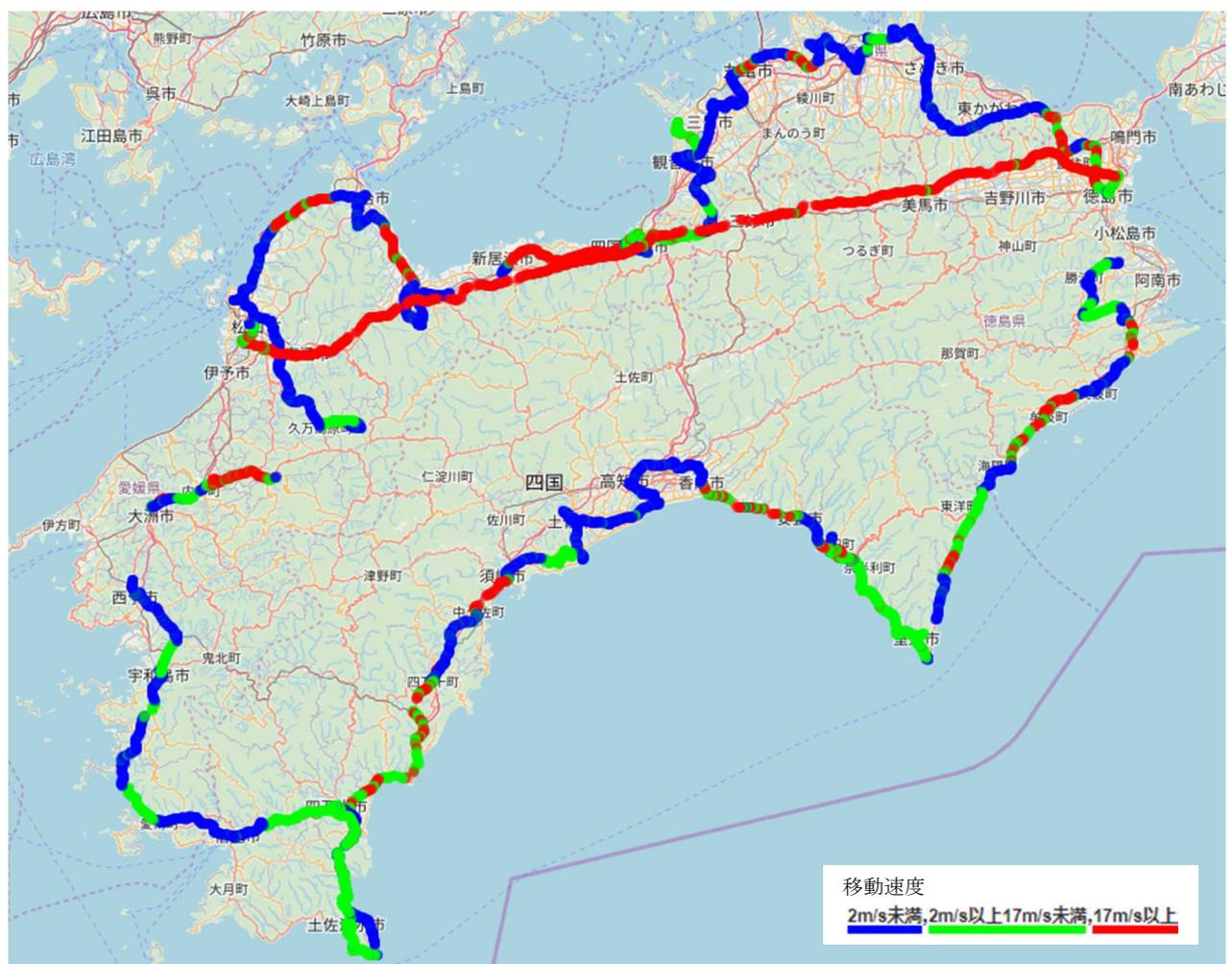
- 田野町の宿に到着した後、時間に余裕があったのか電車を利用して 27 番の山道を往復している。
- 翌日は前日電車を利用して前進した区間を忠実に歩き直している。



- このサンプルの全行程中、唯一歩きが完全に繋がっていないのが 30～31 番の間。
- 高知市街地の宿泊施設からバスで一度 31 番を往復しているが、翌日に改めてバスで 31 番の手前まで移動し、歩き直している。



- 下田の渡船場まで歩いて来ているが、船に乗れず、反対側の岸までは車両移動している。
- 下田の渡し船は予約が必要、または水量の調子によっては船を出せないため、渡船のスタッフが車を出した可能性が高い。
- この場合も、川の反対側の渡し場の辺りで律儀に歩きを再開している。



■ 理由

- ・当初は全部歩く予定だったのが、開始後に交通機関併用にシフトするケースが多い。
- ・シフトの理由は、予想よりも歩きに時間がかかり、予定滞在日数では足りない恐れを感じた。
- ・予想よりも舗装道路が多く、交通量の多い幹線道路を歩くこと自体が魅力にならなくなった。
- ・徳島県内は歩きを貫く傾向が強く、23番後の日和佐駅が転換点となるケースが多い。
- ・日和佐駅～甲浦駅（電車）～室戸（バス）の利用が多い。
- ・御朱印を集めていない場合は、行き難い札所を割愛することもあり、全札所参拝にこだわらない。

■ 移動

- ・交通機関を多用して短期間で回ったほうが食事や宿泊費を抑えられるので、野宿組などが交通機関を利用する事が多い。
- ・札所間の距離が長い場合にバスや電車を利用する。
- ・長い距離の自然道がある所ではその区間だけ電車やバスを降りて歩くことを好む。
- ・バスは路線や時刻表が難しいため、日本語がわかる外国人遍路ほどバスを多用する。
- ・タクシーの利用は非常に限定的。
- ・高知駅、松山駅、高松駅を拠点として、バス・電車を最大限有効活用するため、28番以降は、参拝の順序がバラバラになる。（27番までは参拝順は札所の番号順）

■ 移動

- GPS による足跡は大別すると徳島の大部分で青色（歩行スピード）、室戸一帯と足摺から南予にかけては緑色（バス移動）、高知市内や愛媛・香川の大部分は赤色（電車スピード）。
- 高知市周辺と松山以降の瀬戸内側は、軌跡の往来が複雑になり、軌跡を辿るのが難しくなる。
- 効率良く 1 日に多くの札所を参拝できるようルートを決めているため、歩く部分も景色が良い道や有名な道を選んでいないことも多い。

■ 宿泊・休息

- 宿泊場所は駅前のホテルなどが多く、またできる限り連泊して大きな荷物を持たないようにする。
- チェックインや宿に戻ってくる時間が夜間になることも多く、食事時間に縛られない自由度の高いビジネスホテルなどを多用。

■ 観光

- 道中の観光名所にも足を止めておらず、飲食店でゆっくりと食事をしたり休憩をしたりしている様子も見て取れない。

該当サンプル

Id.	居住国	性別	年代	所要日数	備考
111	フランス	女性	50 代	43 日間	
120	スイス	男性	30 代	38 日間	
137-110	ドイツ	女性	30 代	30 日間	区切り打ち
122	デンマーク	女性	20 代	29 日間	区切り打ち
135	アメリカ	女性	40 代	15 日間	区切り打ち
136	ラトビア	女性	30 代	20 日間	区切り打ち
116	アメリカ	女性	60 代	35 日間	区切り打ち

分析例：スイス 男性（30代） 所要日数：45日

■ 行動特性

- 一般的な遍路道沿いに進んでおり、札所と札所間の距離が長く、長い区間舗装道路が続くような幹線道路でバスや電車が簡単に利用できる箇所、あくまでも「前進するため」に交通機関を利用。
- 参拝順序を崩すことは無く、多数の札所を短時間で回るために無理に電車やバスで往来するようなことはしていない。無料の宿泊施設では連泊不可なため、どこかを拠点にして重い荷物を置いて身軽に行ったり来たりということができない。
- GPS の足跡は青色の歩行部分が半分を占め、シンプルできれいな「歩きこだわり型」に近いラインの 3 色バージョンになっている。

■ 宿泊

- 宿泊は無料の善根宿や通夜堂を最大活用している。

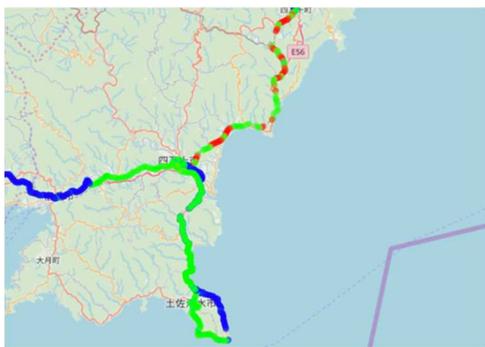
詳細説明



- 23 番札所（日和佐）から室戸岬を經由し 28 番に至る区間。歩きと交通機関利用ミックス型の遍路が電車とバスを利用した際に典型的に描かれる見本のような GPS 足跡のラインと色になっている。



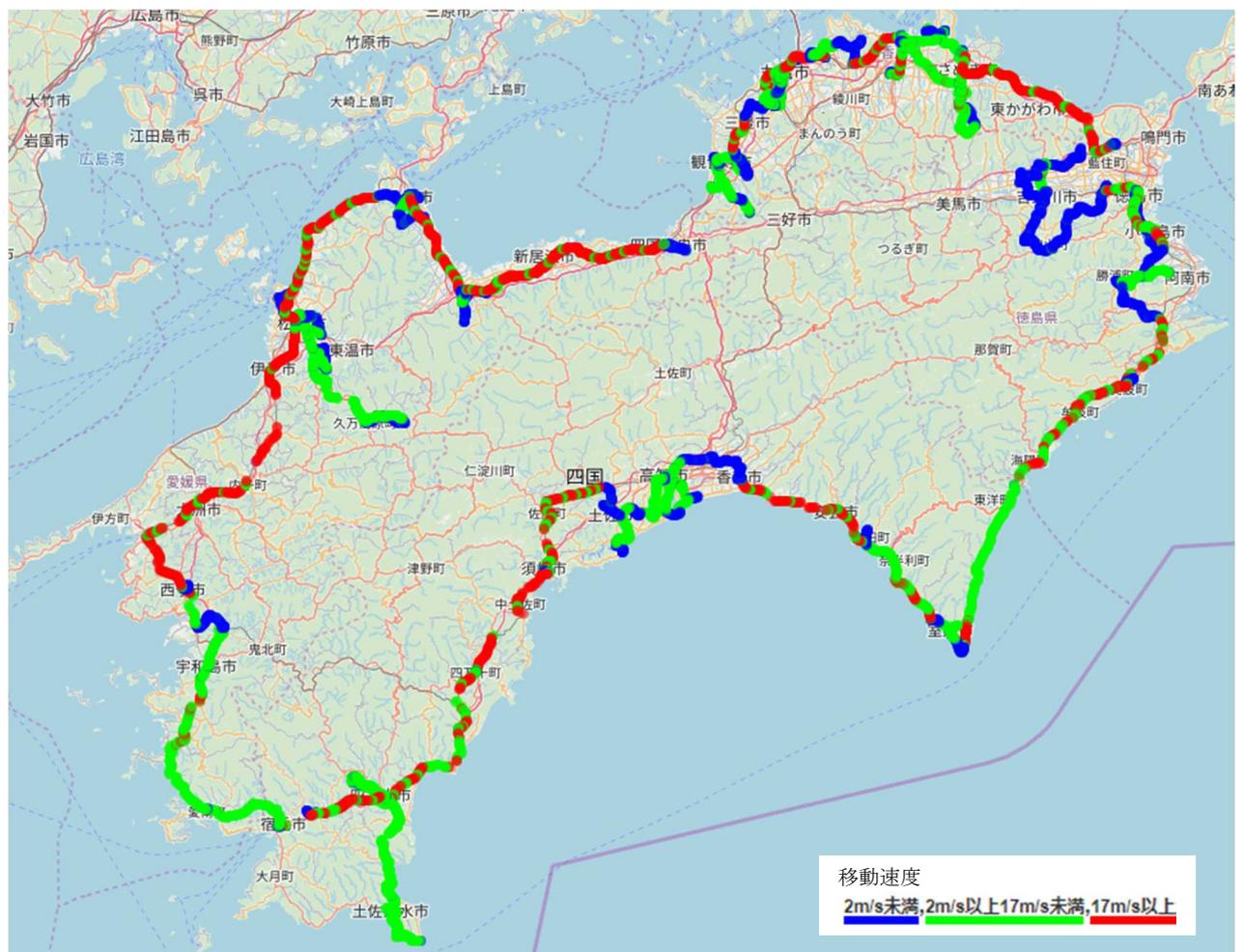
- 36 番札所参拝後、須崎市街地へ至るルートは、横浪湾の南北いずれかを 1 日かけて歩く代わりに、横浪連絡船を利用して 1 時間程度で横切っている。
- この連絡船利用は「海の遍路道」として地元も宣伝しており、遍路の利用も多い。



- 37～38～39 番の区間も、札所間の距離が遠く、遍路道沿いに無料宿泊施設もないため、バスを利用している。



- 松山市中心から今治、今治から小松までの札所がなく道が単調に続く地域は、ミックス型が交通機関を利用する典型的な区間。鉄道を利用して一気に移動している。



■ 特徴

- 交通機関併用型の中でも、交通機関の利用が極端なケース。
- 日本語がわかり、ネット検索に長けているため、複雑なバスの路線や時刻を調べることができる。
- 日本の他の地域に観光などで既に何度も来たことがあり、日本の交通機関などに慣れている。
- 歩いた方が早いと思えるような場合でも、あえて交通機関を利用しており、時刻表や路線図をパズルのように組み合わせて「いかに多くの交通機関をいかに効率よく接続して利用できるか」を楽しむゲームで周遊しているように見える。
- 収入レベルが高く、交通や宿泊の支出を気にしないか、レイルウェイパス等を購入している可能性もある。

■ 移動

- GPSの軌跡には青色（歩き）が極端に少なく、ほぼ緑と赤で描かれる。

■ 参拝

- お遍路の目的が「寺での参拝（納経）」であるため、道中の景色やお接待など地元の人との触れ合いなどは重要視していない様子。

該当サンプル

Id.	居住国	性別	年代	所要日数	備考
108	アメリカ	男性	30代	37日間	
124	台湾	男性	30代	34日間	

分析例：台湾 男性（30代） 所要日数：37日

■ 特徴

- ・ 全サンプル中、最も交通機関を多用。
- ・ ただし、GPSを渡した時点（4番札所）では本人は「歩きで行くつもり」だと言っていた。
- ・ 歩いている部分が極端に少ないため、「歩き遍路」とはとても呼べない状態になっている。
- ・ 日本語が非常に堪能で、台湾では銀行関係。GPSに付属している無料Wi-Fiを大いに活用していた様子で、本人も「非常に役に立った」とコメントしている。
- ・ この型のもう一方のサンプルは、同じ交通機関多用でもルート選定が非常に合理的で、極限まで無駄のないルートになっているのが対照的。

■ 移動

- ・ 「いかに多くのバスと電車を利用して歩きを少なくするか」を楽しんでいる様子で、歩いた方が早そうな距離でも、とにかくバスを使おうとしている様子が見られる。
- ・ また、路線の都合上、バスが目的地に向かう前に関係ない地域を大回りする事になっても構わず利用している。

■ 宿泊・休息

- ・ 全て有料の宿泊施設を利用しており、選ぶ基準は明らかに「温泉または大浴場があるかどうか」で、遍路道に近いかどうかは全く判断基準になっていない。
- ・ 都市部では休日も取っており、夜は遅い時間まで繁華街や通りをぶらぶらしている。

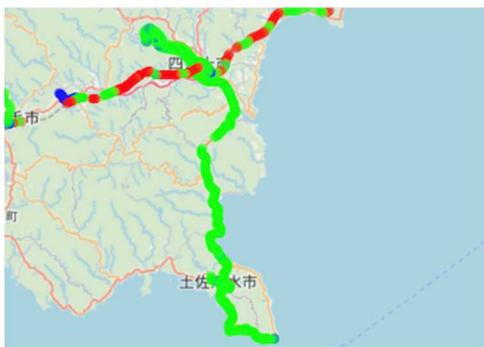
詳細説明



- 徳島県内は歩きで回っている。交通機関もあくまで拠点になる宿泊施設へ行き帰りに利用しており、同区間をきちんと歩いている。
- 22番参拝後、新野駅から交通機関の徹底利用に移行していく。



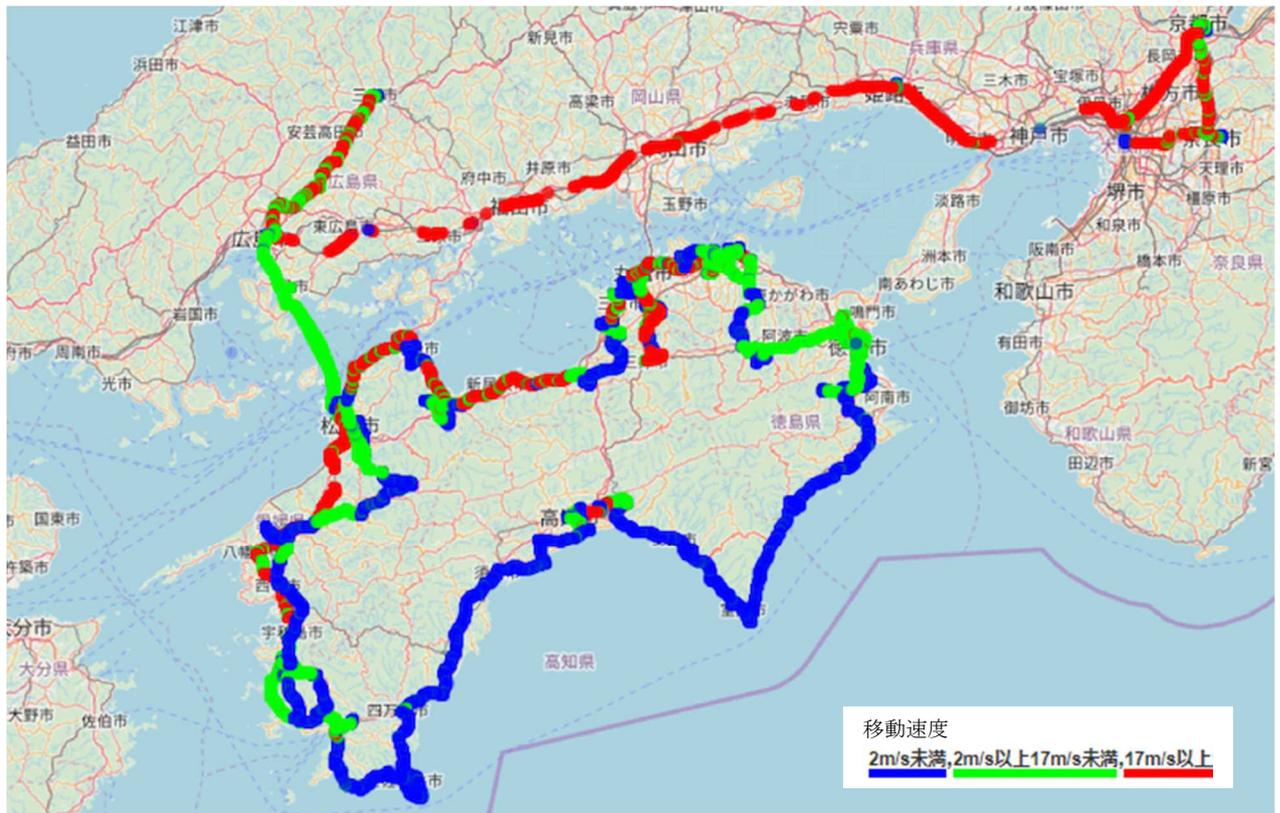
- 高知市周辺ではバスを多用して参拝順番もバラバラなため、ルートが網目状になっている。
- 一般的な遍路道に沿って前進することにはこだわっていないため、35番参拝後に仁淀川に沿って相当な距離を北上して歩いているが、ここは全く遍路道ではなく、電車の駅に向かうためだけに歩いている。



- 足摺岬に向かう前に、誤乗車したのかバスに乗ったまま、全く遍路道とは逆方向にぐるりと回って、同じ駅前のバスターミナルに戻ってきている。
- 足摺岬でバスを下車して38番で納経し、再び同じバスに乗って引き返しており、足摺岬の滞在時間は10分。



- 香川県内でも、歩いている場所は五色台周辺と、88番への女体山越え道程度。善通寺周辺ではなぜかバスで同じ場所をぐるぐると回っており、GPSの軌跡が非常に複雑になっている



■ 特徴

- ・ 遍路だけが旅の目的ではなく、多くの観光名所にも立ち寄っており、四国を楽しみ尽くしたいと考えている。
- ・ 滞在日数も、金銭的にも余裕があるため節約の観点からルートや宿泊場所を選ぶ必要がない。
- ・ 宿泊場所や観光地について積極的にアドバイスを受けようとする姿勢が見られ、アドバイスに従って旅程を決める傾向が強い。

■ 観光

- ・ 観光地では時間をかけてゆっくりと滞在して楽しんでいる。

該当サンプル

Id.	居住国	性別	年代	所要日数	備考
115	オランダ	男性	40代	53日間	
121	デンマーク	女性	20代	52日間	

分析例：オランダ 男性（40代） 所要日数：53日

■ 特徴

- ・ 四国遍路は、過去の2回とも歩きで回っているため、主要な遍路道は既に通っている。
- ・ 3回目の今回は、未踏のルートができるだけ通るため、一般的な遍路には利用頻度が低いルートを多く通っている。
- ・ 3回の遍路で毎回四国 88ヶ所と合わせて別格 20霊場の 108ヶ寺を訪問している。

■ 移動

- ・ 当初は遍路期間に制限がなかったため歩き主体での遍路を貫く予定だったが、11月後半ごろに仕事関係で帰国を早める必要が出たため、交通機関を多用してスピードアップするようになった。
- ・ 車両移動をしている区間は、大多数の場合タクシーを使っており、バスを利用した回数は少ない。

■ 宿泊・休息

- ・ 路期間中も IT 関係の仕事が続けるためパソコンを持参しており、頻繁にホテルに連泊して仕事に集中する日を設けていた。インターネットの環境がよく、食事時間などに縛られることがないビジネスホテルでの滞在をより好む。天候が悪い時や気分が乗らない時はあえて歩かずに連泊したり、午後早いうちにチェックインするなどして部屋で仕事をしていた。

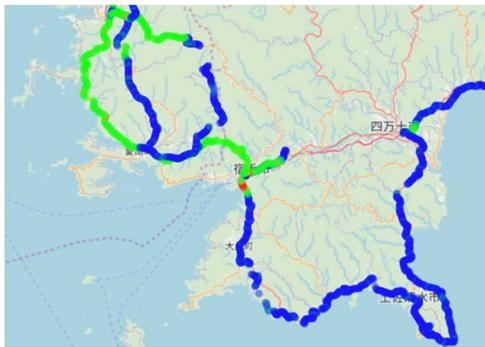
■ 観光

- ・ 日数や予算に制限がないため、提案した観光地はほぼ訪問している。
- ・ 宿毛に到達した後、数日間四国を出て広島、京都と大阪の観光を楽しみ、また四国に戻ってきた。

詳細説明



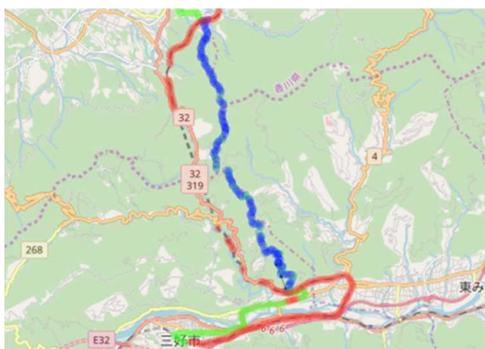
- 27番に向かう道沿いで、観光のために伊尾木洞に立ち寄り、遊歩道のコースを回って再び遍路道へ戻ってきている。



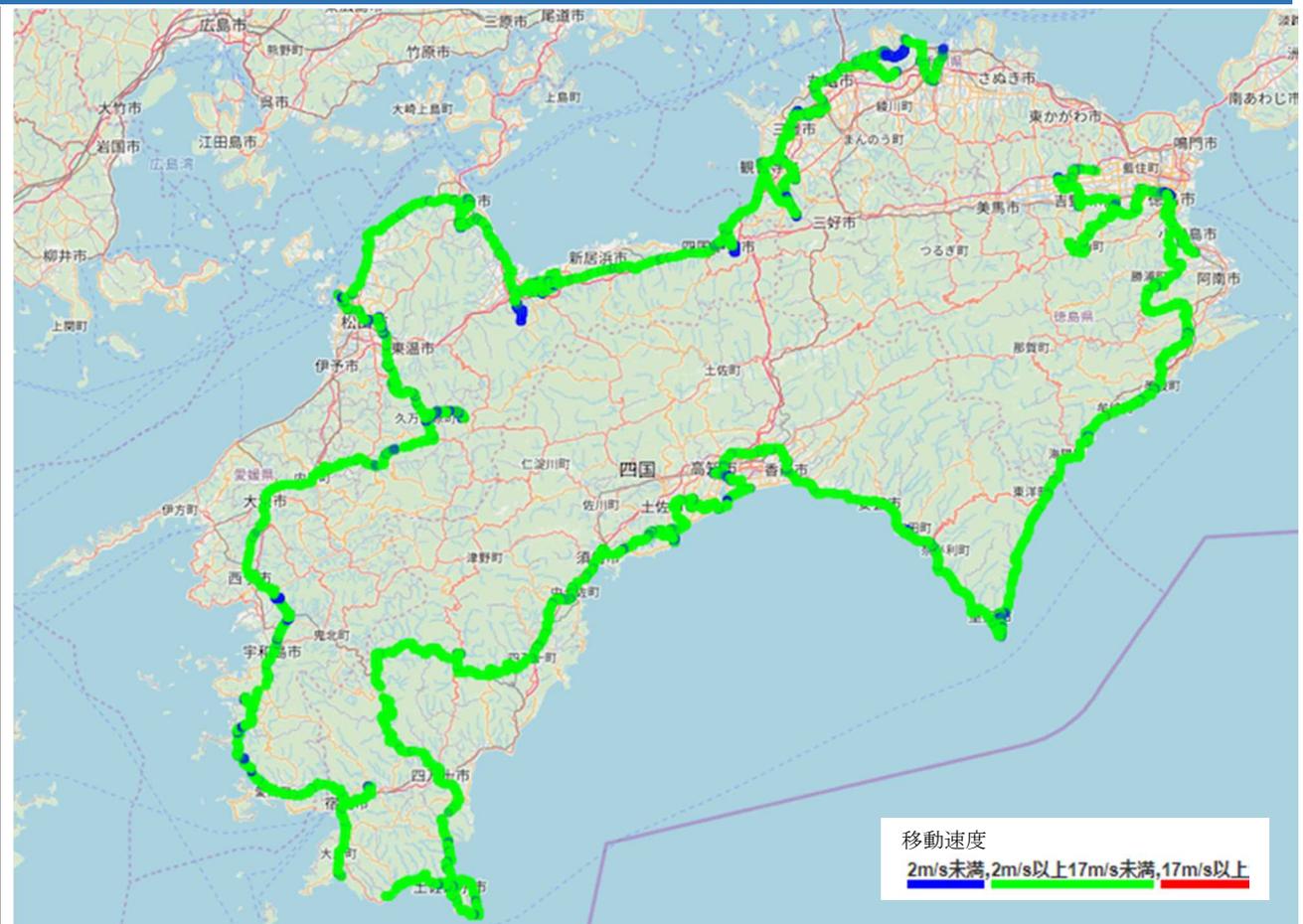
- 徒歩でありながら、38番札所以後、中村方面から竜串、大月回りの最長コースを歩いている。
- また、40～41番の区間はまだ歩いたことがなかった中道ルートと篠山ルートを歩くため、同じ区間を往復している。



- 大洲では、大洲城と臥龍山荘を観光のために訪れている。



- 別格 15番へは香川県側から旧箸蔵街道の山道を利用して参拝。この前日は琴平温泉郷の温泉ホテルに連泊し、金刀比羅宮や、まんのう公園のライトアップなどを観光している。



■ 特徴

- ・ 自転車を利用しての四国遍路。
- ・ GPS の軌跡が車遍路に近くなるが、山寺への到達は車道が回り道になるケースが多いため、山道に入る手前に自転車を置いて歩いて往復するパターンも多い。
- ・ 一日あたりの移動距離が非常に長く、宿泊場所なども必ずしも通常の遍路道沿いではない。
- ・ ルート選定にあたっては景色の良いドライブやツーリングに人気の道を選定する事が多い。

該当サンプル

Id.	居住国	性別	年代	所要日数	備考
129	オーストラリア	男性	60代	31日間	

分析例：オーストラリア 男性（60代） 所要日数：31日

■ 特徴

- ・ 自転車であるため、一日辺りの移動距離は非常に長い。
- ・ 山の上にある札所へは、麓の山道入口に自転車を置いて歩いて上り下りしている場合がほとんど。
- ・ 車道を使って寺まで直接行ける場合でも、あえて山道を歩いて往復している。

■ 移動

- ・ 四万十で大きく内陸部の山間部を回って移動している以外は、遍路道沿いのルートをとっており、ほぼ緑一色の乱れのないきれいなラインで四国を一周している。

■ 宿泊

- ・ 宿泊は他のサンプルに比べて有料のキャンプ場の利用回数が突出している。
- ・ 道端で野宿をしていた形跡はない。
- ・ 行程を計画する際に、次のキャンプ場はどこかを調べて繋いで行っているように見える。

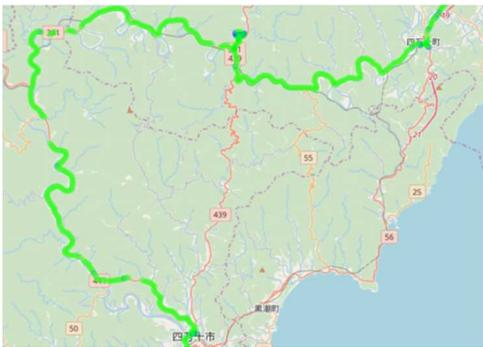
■ 観光

- ・ 自転車を停めて観光名所に足を伸ばしている様子はなく、海沿いや山間部などの絶景を自転車に乗って移動しながら楽しむ観光スタイル。

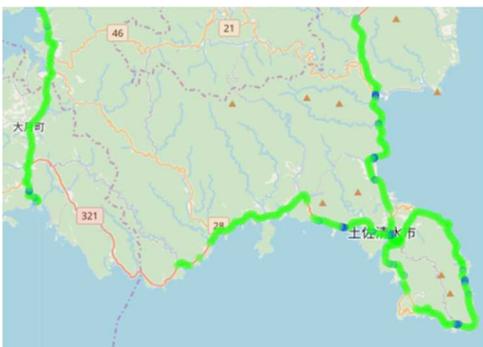
詳細説明



- 一日目は11番まで回った後、宿泊場所として神山町の軽井沢レジャーランドのキャンプ場を利用している。



- 四万十町からは大きく内陸部に道をそれて山間部をまわって四万十市で再び海岸沿いの遍路道に戻っている。



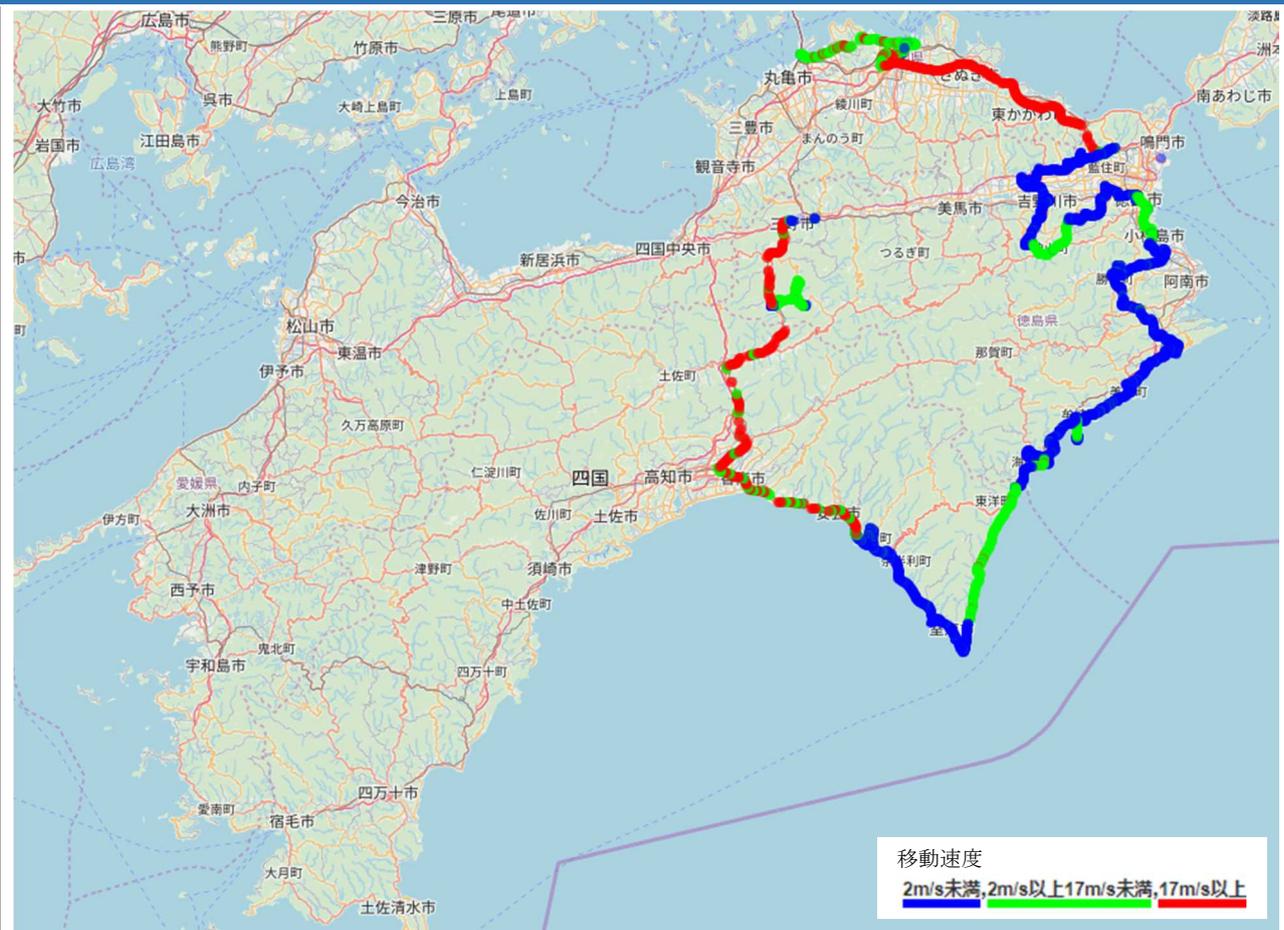
- 足摺岬以降は、海岸沿いに大月町回りのルートを行っている。



- 60番へは麓に自転車を停めて徒歩で山道を上り下りしている。61～64番の後、なぜか同区間の更に海側の遍路に関係がない地域をあちこち走り回っている。

[D] 区切り打ち型

所要日数：8～35日



特徴

- ・ 四国に滞在できる期間が、88ヶ所を全て回るには不足するケース。(長期休暇は取れないという理由が大多数)
- ・ 最近、外国人遍路は「通し打ち」よりも「区切り打ち」パターンが増えていると言われる。
- ・ 結願するまで必要に応じて複数回四国を訪れても良いと考えている。
- ・ 1ヶ月程度かけて日本各地の観光都市を訪れる「日本旅行」の一部に四国を組み入れて、短期間の「遍路体験」をしている「遍路が主目的ではない訪日旅行者」もこの型になる。
- ・ 歩きのみで進めるところまで進むケースと、交通機関を利用して進むケースがある。
- ・ いずれの場合も、次回、開始しやすいように交通アクセスの良い場所で遍路を中断している。
- ・ 従って、「今回は徳島、次回は高知」というようなシンプルな区分けはしていない。

該当サンプル

Id.	居住国	性別	年代	所要日数	備考
137-110	ドイツ	女性	30代	23日間	
122	デンマーク	女性	20代	29日間	
133	デンマーク	女性	30代	8日間	
135	アメリカ	女性	40代	15日間	
136	ラトビア	女性	30代	20日間	
116	アメリカ	女性	60代	35日間	

分析例：ラトビア 女性（30代） 所要日数：17日

■ 特徴

- ・ 四国遍路の滞在期間は2週間弱と短く、観光名所に非常に多く立ち寄っている。
- ・ 歴史や精神的な動機からの遍路ではなく、ハイキングや観光を楽しむことに重点を置いている。
- ・ 27番を過ぎた地点で遍路を中断し、電車を利用して祖谷を訪問。

■ 移動

- ・ 四国のみちなど、徹底的に山道にこだわり、遍路道を忠実に歩くことにはこだわっていない。長距離のアスファルト道は電車やバスを積極的に使用して、歩かない。
- ・ 宿泊場所やルート選定にあたってはあらかじめ綿密な計画を立てていないようで、「どこかいい宿は」「いい道は」と他人の口コミやアドバイスに従っている。

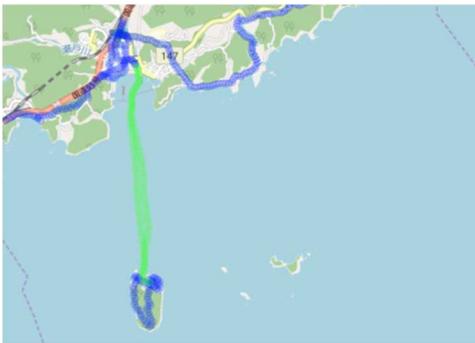
■ 宿泊

- ・ 宿泊は無料や低価格の施設を追求する、「冒険をしたい低予算のバックパッカー」の傾向がある。
- ・ 徳島県内では善根宿を多用するが、高知県内で善根宿が無くなると遍路ハウスを利用している

詳細説明



- ・ 20番札所手前。先行している外国人が番外霊場の「星の岩屋と仏陀石」について良い口コミを上げた数日後には、自分でも訪れ付近を散策している。



- ・ 23番札所から先は、千羽海岸沿いの四国のみちを歩き、牟岐町中心街の旅館に宿泊。
 - ・ 翌日は牟岐の旧市街地の町並みを散策して時間をつぶし連絡船で出羽島まで渡る。島内をぐると散策した後、再び連絡船で牟岐に戻る。
- GPS 調査サンプルの中では最も牟岐町観光をじっくりとしている。



- ・ 海陽町では四国のみちをたどり、大里松原や愛宕山周辺などをあえて歩いている。
- ・ また、再び先行者の口コミから城満寺や浪切不動に立ち寄っている。その後、口コミで見た馬路越えで宿泊先に向かおうとして、日没後に山に入ったために道に迷うという騒ぎを起こした。



- ・ 高知県の安芸から電車で一気に大歩危駅まで移動。
- ・ 大歩危溪谷周辺を徒歩で散策し、バスを利用してかずら橋などを見に行っている。半日祖谷観光をした後、宿泊すること無く電車で阿波池田駅方面に移動

(6) 行動特性による類型化

① 目的・移動手段による類型化

GPS 動態データの分析において、周遊目的と移動手段の双方向から外国人遍路の類型化を試みた。四国遍路を、「寺院、遍路道、歴史、お接待、自然、原風景、周辺観光等の要素に、巡礼文化というバックボーンを通した巨体な観光資源」だと考えると、2のベクトルからなる4象限で表すことには無理があるが、便宜的にそのような整理を行うと図表 3-5-8 のようになる。

札所から札所へと実直に歩き通すパターン③は四国の原風景に溶け込む遍路の原型であり最も大切にしなければならない旅行者ではあるが、外国人遍路のGPS動態を観察する限り、それは一部でしかない。それ以外に、②公共交通を併用して効率的に札所を回ろうとするパターン、①公共交通を利用して札所参り以外に観光を積極的に楽しもうとするパターン、④歩きを中心としたロングトレイル的な巡り方のパターンがあり、四国遍路を巡る外国人の多様性が窺われる。

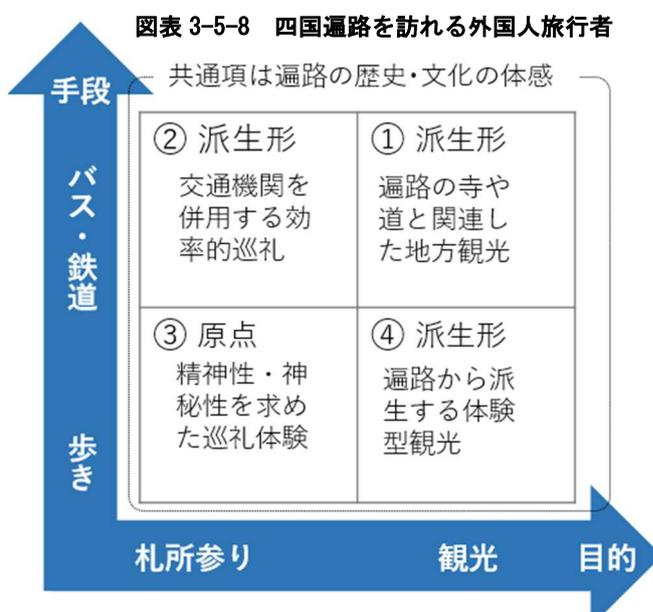
② 四国遍路をフックとした外国人旅行者の誘客

日本人が考えている以上に、四国遍路を訪れる外国人の目的や行動は多様であり、数多くの派生形まで含めると類型化は容易ではないが、確かなことは、そのような多様な嗜好の外国人が四国遍路を高く評価しており、その背景には、多様性を受け入れるだけの観光資源としての懐の深さがあるという考え方もある。

観光関係者から「四国遍路は四国共通の観光資源だが、海外からの誘客に注力しても数は知っている」という意見も聞かれるが、それは③原点としての外国人遍路をイメージしての言葉であり、派生形や更なる発展形まで考えると、誘客可能な数は大きく膨らむ。また、今回、面談した四国遍路の経験が3回目になる40代の外国人旅行者のケースでは、初回は歩くことに徹していたが、3回目にはタクシーを多用して積極的に遍路道から離れた広範囲の観光地巡りを楽しんでいる。一人の外国人の経験段階に合わせて異なった楽しみ方を提供できるのも四国遍路ということにもなる。

四国における地域観光の推進において、二次交通がネックになるケースも多い。四国遍路を訪れる外国人はある程度体力に自信のある人たちであり、GPS動態データを見る限り、魅力的な場所であれば歩いて秘境の観光地を訪れるケースも見られることから、外国人遍路に訴求できる地域の観光資源の範囲は広がる。

宿泊、歩き方、食事、荷物の問題など、外国人遍路のストレスを軽減する方策を進めることは当然、重要ではあるが、札所を巡って御朱印を集める昔ながらの遍路のイメージから脱



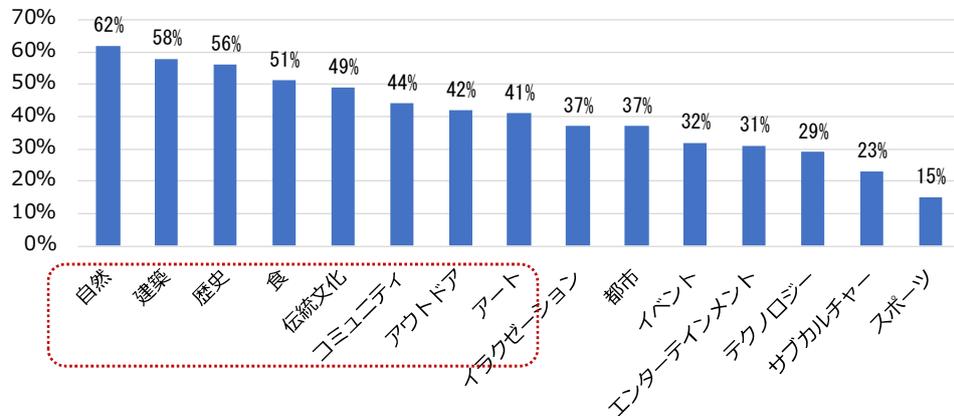
却し、四国遍路を訪れる外国人旅行者に積極的に四国観光の良さをアピールすることも同じぐらい重要だと考えられる。

予定日数よりも早く遍路を終えた場合、四国よりも東京や大阪、京都などの観光都市への立ち寄りを好むという傾向が見られており、いかに四国内の観光に誘致するかが課題となっている。もう少し大きくとらえると、四国遍路の課題については、受入環境の整備だけでなく、四国遍路をフックとした四国の観光地への誘客をどのように行うかが重要だと考えられる。四国遍路に関心を持って四国を訪れる外国人を周辺観光にどれだけ送客できるかが今後の課題である。

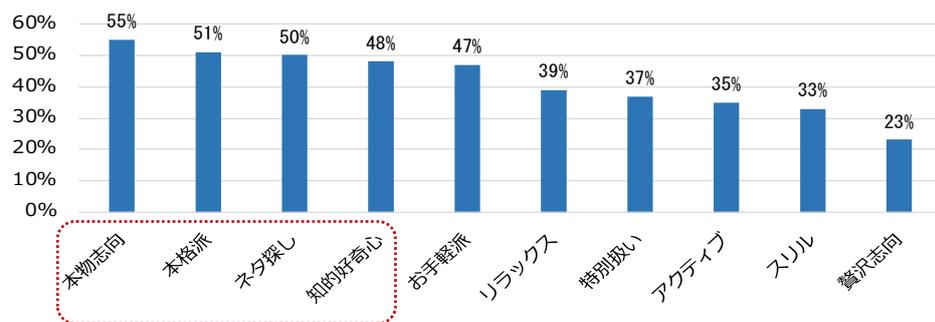
③ 多様な外国人遍路の嗜好への対応

外国人遍路の行動特性は多様であるが、受入態勢を考える場合、「体験型観光コンテンツ市場の概観⁶」に見られる「海外旅行で体験したいこと」「海外旅行に期待すること」に関する上位の項目がそのまま当てはまる。外国人遍路各人の行動は様々であるが、その背後にある期待は、「豊かな自然」「街並み、有名な建築」「その国の歴史や遺跡」「地域の食やお酒」等に類するコンテンツであり（図表 3-5-9）、彼らが求める価値は「現地でしか体験できないこと、本物の体験」「じっくり時間をかける」「家族や知人に話せるような面白い体験」と考えられる（図表 3-5-10）。いずれも四国遍路という観光資源が内在する要素であり、そのことを踏まえ、どの要素をどのタイプの外国人に提案していくべきか、一つ一つ外国人目線で具体的に対応を考えていく必要がある。

図表 3-5-9 海外旅行で体験したいこと



図表 3-5-10 海外旅行に期待すること



6 「体験型観光コンテンツ市場の概観」国土交通省観光庁観光資源課（平成 31 年 3 月）による

【4】観光資開発のビジョン

ここまでは、A. 外国人遍路の GPS 動態データを収集・分析することで、明らかになっていない外国人遍路の行動実態を明らかにするとともに、B. お遍路交流サイトやC. Web サポートによる困りごと等データ収集に加え、D. Web アンケートによる意見の収集・分析を行うことで、外国人遍路の受入環境整備のあり方、潜在的な観光ニーズ、Web サポートの有効性・負荷等の検証を試みた。ここからは、調査結果を簡単に整理するとともに、調査を進める中で常に念頭に置いていた「巨大な四国遍路というコンテンツをどのような形でアピールすべきか」、「外国人遍路の増加を前提に受入態勢をどのように構築すべきか」という重要と考えられる論点について検討を行う。

1. 調査結果の要旨

調査結果のポイントを抽出すると以下ようになる。

(1) 受入環境整備

- ・ 巡礼生活のベースとなる宿泊、食事に関する満足度自体は高いが、価格に対する満足度は相対的に低い。日本人のスタイルや価格水準で作られたものを外国人に提供しており、外国人の嗜好や巡礼スタイルをくみ取った見直しが必要である。
- ・ 外国人遍路は、歩くペースの変化や天候、体調によって巡礼日程が変化するため、前もって一括して宿泊や食事の予約が取れない。多くの外国人遍路は、翌日または翌々日の予約をとりながら巡礼を続けており、最も喫緊の課題は、彼らに簡便な宿泊予約の仕組みを提供することである
- ・ バスや鉄道を併用した巡礼スタイルが多く見られることから、巡礼のなかで、四国の魅力ある観光地をスムーズに体験してもらうためには、交通機関の時刻表等の情報をわかりやすく提供することが必要である。

(2) 潜在的な観光ニーズ

- ・ 四国遍路における日本文化や歴史体験の評価が高いのは当然であるが、観光・自然体験に対する評価がそれに肉薄する。仏教への関心については、事前の期待に比べて満足度が急激に上がっている。外国人遍路のサポートに関しては、彼らの関心事を踏まえた周辺観光の情報提供が必要である。
- ・ 四国遍路は全行程 1,200km、40～50 日を要する巨大な観光コンテンツであることから、漠然と、「歴史に裏付けられたスピリチュアルな巡礼路が四国もある」という漠然とした発信の仕方では理解が難しい。例えば、全体を通し打ちする場合の留意点や、区切り打ちのルートを示す等、具体的な体験方法まで説明することが必要である。

(3) Web サポートの有効性

- ・ 徳島県から高知県に入るまでの間は、特に初心者には多くの困りごと相談が発生しており、Web サポートは必須である。高知県以降は、困りごと相談が減る反面、ルート選択や観光の相談が増えており、観光案内が重要なサポート事項となる。
- ・ Web サポートの有用性については、初心者は、生活面の不安が軽減されたとの評価があり、ベテランの外国人遍路からは、地図とガイドブックでは実現できない効率的な巡礼旅が楽しめたとの評価が得られ、十分効果があると考えられる。

- ・外国人遍路はスマートフォンを主に道、宿泊施設、飲食施設の検索に利用しており、周遊中のレンタル料金、デポジットの上限としては、5,000～10,000円という結果が出ており、貸出だけでの採算性確保は難しい。

(4) Web サポートの負荷

- ・外国人遍路 17 人に対し、スタッフ 3 人がパソコン、スマートフォンからサポートを行い、3 ヶ月間に 140 件の質問・相談に対応した。
- ・サポート 1 件あたりの対応時間は平均 1 時間程度であり、3 ヶ月で累計 140 時間の負荷が生じたと考えられる。
- ・対応に要した時間は、質問の調査や関係者との調整時間を含んでおり、遍路コーディネーターの習熟度と保有する情報量に左右される。

2. 内外先進地域に倣った観光地開発

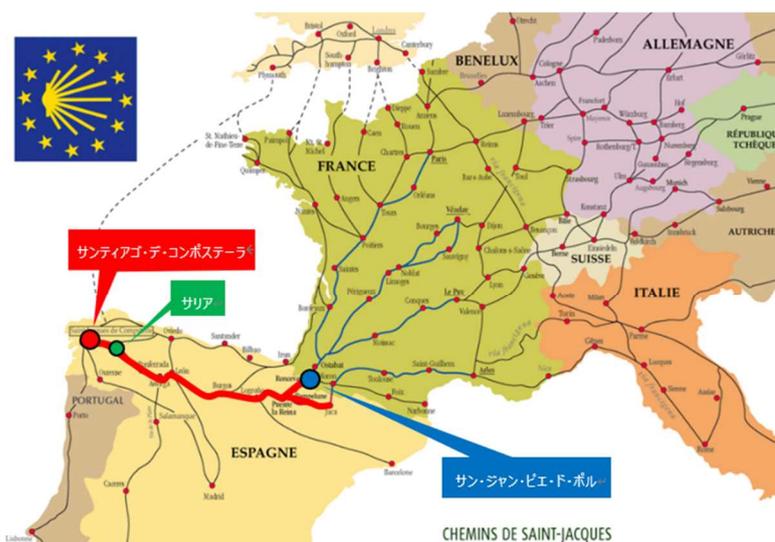
(1) 類似の先進地域の状況

① サンティアゴ巡礼路

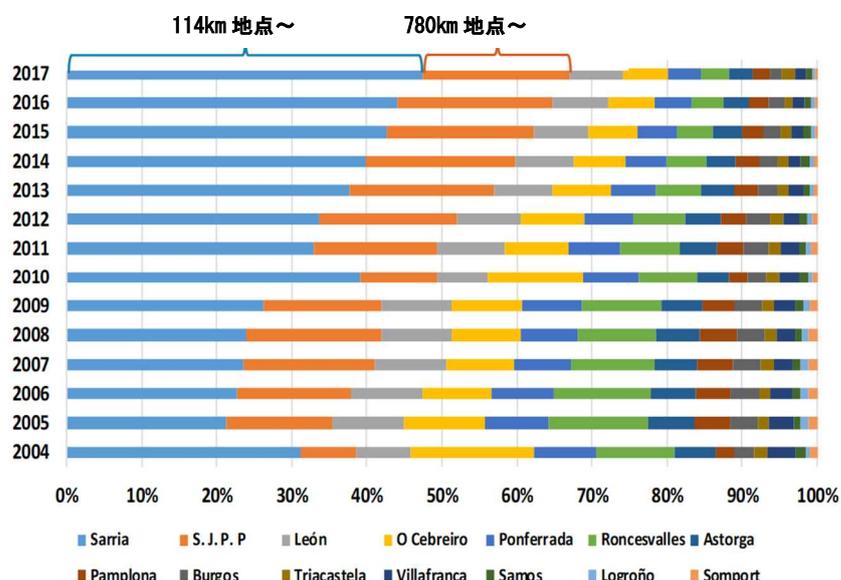
キリスト教徒の国々でも宗教離れが進んでおり、1993年に世界遺産へ登録されたスペイン・サンティアゴ巡礼路の巡礼者も、信仰というよりも、歴史ある巡礼路の「歩き旅」のために訪れる傾向が強くなっている。巡礼者は複数ある巡礼路から、サンティアゴ・デ・コンポステーラに位置する大聖堂を目指す。巡礼路のなかで、フランス各地からピレネー山脈を越えてスペイン北部を通る「フランス人の道」が最も重要な巡礼路とされている（図表 4-1）。

フランス人の道の起点となる「サン・ジャン・ピエ・ド・ポール」から大聖堂までの距離は約 780km で歩くと 30 日～45 日を要する。巡礼証明書の交付要件として「徒歩で 100 km 以上を歩

図表 4-1 サンティアゴ巡礼路の状況



図表 4-2 出発地点別巡礼者の構成（フランス人の道）



資料：四国アライアンスほか「新時代における遍路受入態勢のあり方調査」（2019年）

く」ことがあり、フランス人の道沿いの都市「サリア」から徒歩で巡礼すると、移動距離は約114 kmあり巡礼証明書が交付される。サリアからは4～5日で歩ける距離であり、長期休暇を取りにくい「会社員」や体力の衰えた「60歳以上」の巡礼者に人気があり、巡礼者数が急増した理由の一つともなっている。

一方、フランス人の道の起点「サン・ジャン・ピエ・ド・ポール」から歩く巡礼者も増加しており、巡礼路は人が歩いてこそ価値があり、全行程を歩く巡礼者はサンティアゴ巡礼路の維持・継承にとって重要な存在となっている（図表 4-2）。

② 熊雄古道

熊野古道は、熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）へ通じる参詣道の総称であり、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の通称ともなっている。

参詣道は中辺路、小辺路、伊勢路、大辺路、大峯奥駈道の5ルートからなり、一般には熊野古道と言えば中辺路の区間が観光の対象となることが多い。中辺路ルートは、和歌山県田辺市から山間部の熊野本宮大社・熊野那智大社を通過して熊野速玉大社に至るおよそ84 kmの行程となっている（図表 4-3）。

世界遺産登録後、2006年に熊野古道全域をカバーする官民協働の着地型旅行会社「(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー」が設立された。「ブームよりルーツ」「乱開発より保全・保存」「団体より個人」「インパクトを求めずローインパクト」とのコンセプトのもと、世界に開かれた上質な観光地を目指す方針で観光開発が行われた。

世界遺産が観光業にもたらす恩恵は3年までといわれることもあるが、田辺市の外国人宿泊者数は、世界遺産に登録された2004年の1,409人から2017年には36,821人へと大幅に増加している。

③ ロングトレイル

ロングトレイルとは歩き旅を楽しむための道（長距離遊歩道）のことを指し、欧米では3,000 kmを超えるコースもあり、国内外の多くの人々が訪れている。日本でも整備が進んでおり、長野県の信越トレイル80 km、滋賀県の高島トレイル80 km等には、多くの人々が訪れ、観光振興に貢献している。

ワールドトレイルズネットワーク会長 ガレオ・セインツ氏によると、「人類はトレイルで育

図表 4-3 熊野古道の巡礼路

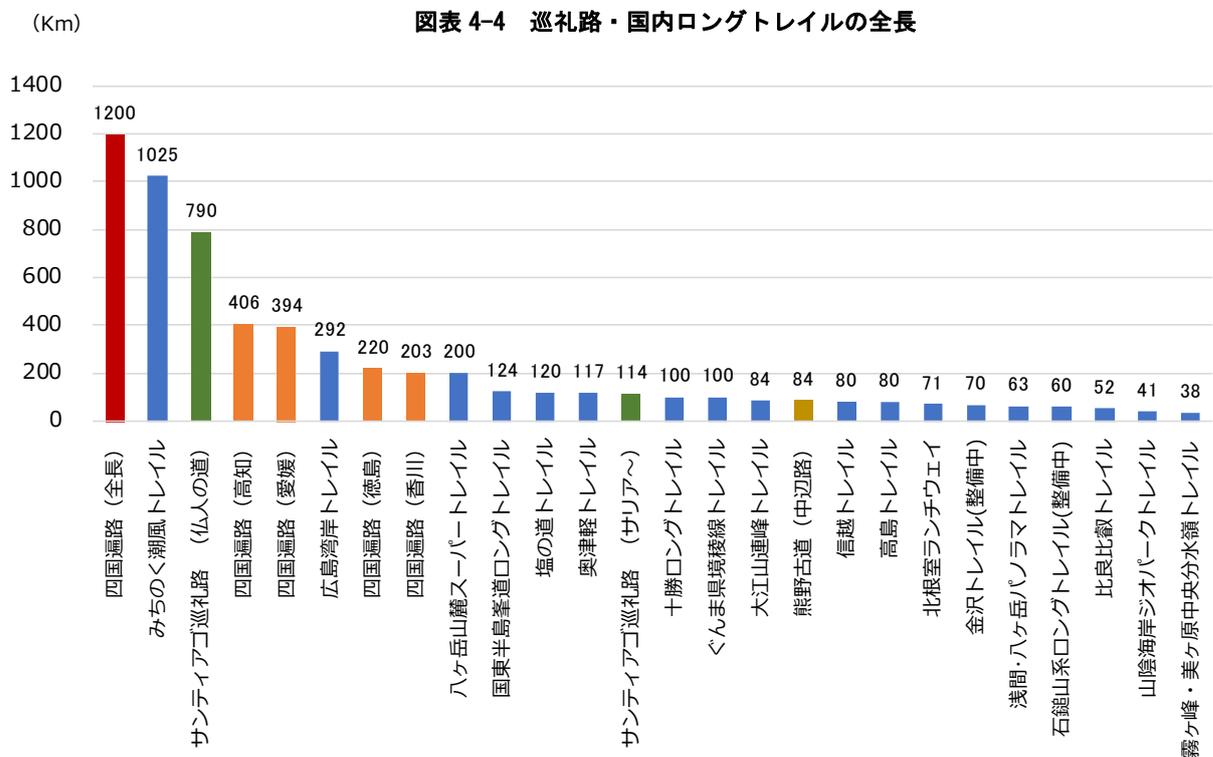


資料：四国アライアンスほか「新時代における遍路受入態勢のあり方調査」（2019年）

ったと言っても過言ではない。動物がつくった小道をたどって狩りをしたし、人類が伝播した旅の道筋は、ロングトレイルの起源を示していると言える。ロングトレイルで重要なのは、より良い人間になるということ。すなわち、T=Tenacity「忍耐」、R=Respect「尊敬」、A=Appreciation「感謝」、I=Insight「洞察力」、L=Love「愛」、S=Simplicity「簡素さ」の6つを教えてくれる。トレイルが人を形作り、人がトレイルを形作る。」という考え方がある⁷。ハイキング的な道歩という側面があるが、根源的な意味では精神形成の意味合いもあり、四国遍路との親和性がある道歩き文化だと見ることができる。

④ 四国遍路との規模等の比較

四国遍路と類似性のある「巡礼」あるいは「道歩き」を観光コンテンツとする地域について、四国遍路とルートの全長を比較した。高低差を考慮せず、踏破日数も考慮していないが、四国遍路の1,200Kmが巨大なコンテンツだということは一目瞭然であり、四国各県の遍路道も相応に長い(図表4-4)。



今回の調査で、外国人遍路の目標は「完歩」が多いが、GPS 動態調査で外国人遍路の周遊動態を観察したところ、アスファルト道路や生活道路を含めた長い距離を移動するため、外国人遍路に不要な苦痛を強いたり、公共交通の併用を余儀なくすることが多くなっている。四国遍路を完歩した外国人との面談から、完歩の達成感の大きさは理解できるが、舗装道路や生活道路を含む1,200kmもの距離を40〜50日かけて歩くコンテンツで旅行者の裾野を広げられるのかという疑問がある。逆に言えば、サンティアゴ巡礼路でサリアから100Km以上を歩けば「巡礼証明書」が授与されるように、もう少し距離の短いルートを纏まったコンテンツとして提供できれば、もう少し早いペースで外国人旅行者の数が増えるのではないかとということである。

⁷ 日本ロングトレイル協会「第5回ロングトレイルシンポジウム」(2018年2月24日)より

スタート地点の徳島県からゴールの香川県まで、寺院、巡礼路、自然、景観、お接待文化の違い等の周辺環境だけでなく、巡礼している外国人の精神や肉体の状態も変化する。GPS 動態調査では、物理的には二度と歩きたくない道路や、精神的には中だるみの時期があって、美しい自然道を楽しめていなかったことも観測されている。

苦痛を伴う道を含めて四国遍路全体を完歩することはすばらしいが、エリア毎に誘客戦略や課題は異なるはずであり、区切り打ちで四国遍路を楽しんだり、古道の道歩きと公共交通を乗り継ぐ巡礼旅を楽しむような提供の仕方も重要である。四国を4分割してルート毎に証明書を交付し、4枚で1枚の証明書に引き換えるような制度を設ける等、多様化の時代に合致した柔軟性のある仕組みを構築することが、四国遍路の裾野を広げるためには必要なことではないかと考えられる。

なお、今回、議論は割愛したが、サンティアゴ巡礼路の宿泊施設のシステムや、熊野古道における開発コンセプトの明確化、宿泊予約、荷物預り・搬送システム等も、四国遍路が参考とすべき課題であり、併せて四国全域を巻き込んだ議論が望まれる。

3. 将来を展望した受入態勢の構築

(1) 他の事業成果の活用

本事業と並行して実施している「令和元年度 訪日グローバルキャンペーンに対応した『四国遍路』滞在型コンテンツ開発事業」における以下の成果を取り入れることで、本事業が目指している環境整備の充実をはかる。

事業	活用方法
本格派向けコンテンツ造成事業 (徳島県で提供する、日帰り、1泊2日等のトレーニングプログラム)	<ul style="list-style-type: none"> 完歩を目指す外国人遍路向けに造成したトレーニングプログラムを遍路初心者に提供する。 トレーニングプログラムを運営するために養成する遍路コーディネーターは、同プログラム以外にも、対面・Webの両面から柔軟に外国人遍路の指導にあたらせる。
ライト層向けコンテンツ造成事業 (四国9地域で造成する、周辺観光と併せて遍路体験もしてみたい外国人を対象とした日帰り、1泊2日等のコンテンツ)	<ul style="list-style-type: none"> ライト層向け体験型コンテンツを、交通機関を併用する外国人遍路が巡礼の途中で立ち寄る観光コンテンツとして積極活用する。 四国各地で外国人遍路の情報サポートを行う情報拠点は、Webサポートを行う遍路コーディネーターと連携して、対面サポートの役割も担う。(送り迎え、物品手配の補助等) 高松を中心に、通訳案内士がグループを作って、外国人遍路のガイドの勉強会を始めており、彼女らを通訳ガイドだけでなく、Webから外国人遍路をサポートするコーディネーターに登用することも検討。
本事業	<ul style="list-style-type: none"> Webサポートを提供する遍路コーディネーターは、遍路道沿線に配置した情報拠点と連携して、対面からのサポートを提供する。 外国人遍路の嗜好や行動特性を遍路インフォメーションセンターの構築。

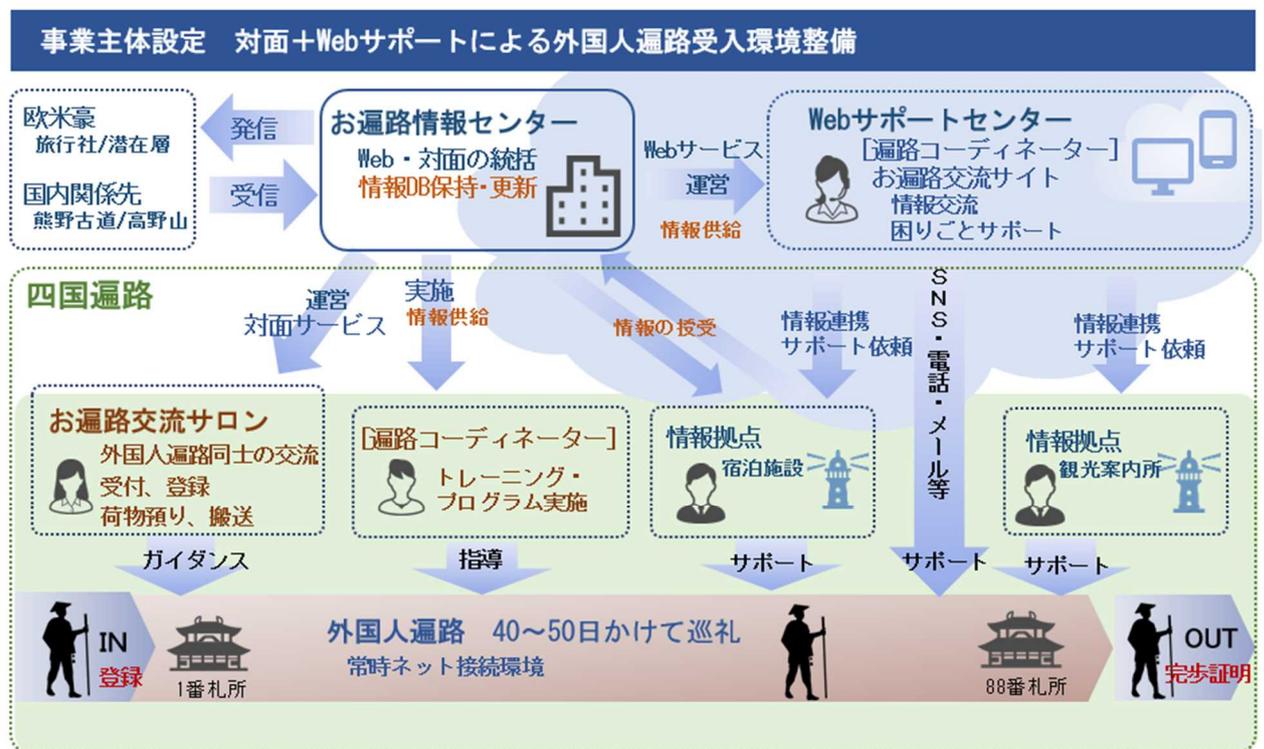
(2) 外国人遍路サポート態勢の将来像

多くの遍路関係者が、遍路関連情報を統括管理する「お遍路情報センター」のような事業主体を望んでおり、今回の事業で明らかになった外国人遍路のニーズの実現に向けて、外国人遍路サポート態勢のあるべき姿を示す。本事業で明らかになった課題だけでなく、従来から課題視されてきた事項をもクリアできるようなサポート態勢を念頭に置いてデザインを描いた（図表 4-5）。

[課題]

- ✓ 海外から四国遍路のことを質問したくても、個人管理の SNS サイトしかない。
- ✓ 高野山、熊野古道の関係者が、四国遍路のことで接触したくても窓口が見当たらない。
- ✓ 電話が繋がらないので、遍路コーディネーターが確認すると遍路宿が廃業していた。
- ✓ 遍路宿のオーナーが地域課題を相談しようとしても受け止める相手が居ない。

図表 4-5 外国人遍路受入態勢のあり方



■ Web サポートセンターと情報拠点との連携による効果的サポート態勢の構築

本事業で試行した Web サポートを Web サポートセンターの中で実現する。具体的には、「お遍路交流サイト」を開設し「遍路コーディネーター」を配置して、SNS・電話・メール等で外国人遍路をサポートする。対面のサポートが必需となった場合は、遍路の灯台としての役割を果たす「情報拠点」と情報連携して、外国人遍路をサポート。

■ 外国人遍路の指導、遍路トレーニングプログラムの活用

初心者の外国人遍路は、荷物の携行や歩くペースの誤算から、徳島県内でペースを崩すケース多く、巡礼開始前に無理のない巡礼計画を立てられるよう、遍路コーディネーターが巡礼計画作成を補助する。本年度の事業で造成している有償の「トレーニングプログラム」を活用することもできるし、コンテンツ運営のために育成している遍路コーディネーターを指導にあたらせて活躍の場を提供することも可能。

■ 外国人遍路の巡礼開始を登録

外国人遍路のサポートを行うためには、当該外国人の属性を把握することが必要であり、本人の同意を得て、巡礼開始前にお遍路交流サロン（現在は存在しないが、徳島には不可欠の機能）の窓口で登録手続きを行う。無償で情報のみを受け取ることも、有償でサポートを受けることもできる仕組みが必要。登録した外国人遍路が巡礼先の施設で優遇やサポートが受けられ、巡礼後に証明書が受け取れる仕組みも必要。道普請のためのドネーションを受け付ける制度を設けることが望まれる。

■ お遍路交流センターと情報拠点が連携した、情報収集・管理・発信

Webサポートセンターやトレーニングプログラムで活躍する遍路コーディネーターは、サポートや指導のために、遍路道の情報、遍路が使う宿泊・飲食・物販等の施設や、周辺の観光情報が不可欠であり、お遍路情報センターが収集・管理する情報を利用する。施設の開業・廃業、季節休業等、各エリアの情報は刻々と変化しており、お遍路情報センターは最新の情報をフォローアップすることが必要であるが、それらの情報を、四国4県を回って収集するわけにもいかない。情報収集は、各エリアに配置した情報拠点到に協力を要請することとする。従って、情報拠点は、外国人歩き遍路のサポートを行うだけでなく、エリアの情報を収集してお遍路情報センターに提供する役割をも担う。

■ 環境整備を統括するお遍路情報センターの設置

Webサポートセンター、お遍路交流サロン、トレーニングプログラムの運営を行うためには、それらの事業を統括する事業主体が必要であり、ここではお遍路情報センターを事業主体として仮置きする。この事業主体は、四国域内の関係者を統括するだけでなく、熊野古道、高野山など、国内関係先との情報交流窓口になるとともに、海外への情報発信、海外からの照会への対応まで行う。

■ 遍路コーディネーターの活躍の場の拡大

遍路コーディネーターは、本格派コンテンツ事業で造成した本格派向けトレーニングプログラムを運営する役割を担ういわば上級ガイドであるが、対面で外国人遍路を指導するだけでなく、必要に応じてWebから遍路をサポートすることも期待される。

■ ライト層向けコンテンツの案内

遍路コーディネーターが外国人遍路に提供する観光情報については、ライト層向けコンテンツ造成事業で造成した四国9エリアの観光コンテンツをも活用する。

4. 四国遍路をフックとする四国の観光戦略

日本人が考えている以上に、四国遍路を訪れる外国人の目的や行動は多様であり、四国遍路には多様性を受け入れるだけ懐の深さがあることについては既に述べた。本事業のなかで、ひたすら札所を歩いて巡る模範的外国人遍路も相当数見受けられたが、それは外国人遍路の一つの類型に過ぎない。鉄道やバスを過剰に乗り継ぐ者、歩きから入った筈なのにしまなみサイクリングを堪能した者、頻りにタクシーまで使って四国観光を満喫した者、最初から最後までサイクリングで周遊した者、例を挙げれば枚挙に暇がない。

食住以外の環境整備の方向性について言及するなら、四国遍路という壮大な観光資源をフックとして、活動的で好奇心旺盛な外国人旅行者を四国に呼び込み、四国全域に散らばる体験型コンテンツで受け止める仕組みづくりが急がれるということになる。

【 資 料 】

資料 1. 有識者等

資料 2. データ収集態勢

資料 3. アンケート調査概要

資料 4. GPS 動態データの詳細

資料 1. 有識者等

本事業の遂行には、下表の有識者、専門家の知見を活用した。

氏名・肩書	住所	プロフィール	役割・専門分野
グルネウォルド・マーク (株)englishbiz 代表取締役 地域インバウンド戦略 コンサルタント	香川県高松 市太田上町 247-8	カナダ出身。元金沢工業大学准教授。香川県内で「英語教育事業」や訪日外国人集客の「インバウンド戦略事業」等を展開。英語 HP「Come to Kagawa」を開設してお遍路情報などの観光情報を海外発信。	Web 設計、コンテンツ作成、SNS 運営管理
モートン・常慈 徳島大学 教養教学 院 准教授	徳島県徳島 市南常三島 町 1-1	カナダ出身。ブリティッシュコロンビア大学院卒。修士論文は「四国遍路におけるお接待の歴史」。外国人遍路へ向けて数多くの資料を英訳し、記事や論文を執筆。	学識経験者として大所高所から助言、アドバイス
佐藤 崇裕 (株)四国遍路代表取締役	香川県木田 郡三木町大 字池戸 191 番地	旅行業者として自らもガイドを務めつつ各地のガイドと連携。四国遍路、周辺観光を含めた情報に詳しい。	情報アドバイザーとして協力
宍戸 栄徳 NPO 法人遍路とおもて なしのネットワーク 事 務局長	香川県高松 市高松町 2306-3	香川大学経済学部、同大学院地域マネジメント研究科教授を歴任。数多くの欧米人歩き遍路に、共に歩きながら参拝の作法など遍路の基本をレクチャー。NPO 法人の事務局長として、スペイン巡礼路の調査、フランスにおけるプロモーション事業に関与。	スマホ貸出及びアンケート対象者ピックアップに協力
山本 由和 工学博士 徳島文理大学 理工 学部 教授	香川県さぬ き市志度 1314-1	徳島大学工学部精密機械工学専攻修士課程を修了、2015 年より現職。計算樹統計学専攻。人口知能や機械学習の手法を利用したデータ解析を行い、様々な可視化手法を開発。	GPS データ集約・整理・可視化
馬淵 太助 ペダル(株)代表取締役	香川県高松 市田町 2- 1MBTビル 3 階	倉敷芸術大学卒業後、ペダル(株)を創業。Web サイト制作事業、太陽光発電事業、バイシクルショップ事業を行っており、香川県下の多くの有力企業をクライアントに持つ。	GPS データ集約・整理
岩本 昌子 インバウンド・コーデ ィネーター&プランナー	徳島県勝浦 町大字中角 字玉の木 19-3	自衛隊幹部候補、米国 MBA 留学、日経新聞記者(ワシントン)、阿南市地域おこし協力隊を歴任。現在は徳島県を中心に外国人に対する歩き遍路ガイド、翻訳業などに従事し、霊場会関係者、上記有識者からも一目置かれる存在。	スマホ貸出及び GPS、SNS、アンケート分析

資料2. データ収集態勢

1. スマートフォン貸出サービス

(1) サービスの目的

下表のことを目的とした外国人モニターを確保するため、一定条件のもとで四国遍路を周遊することを承諾した外国人に対し、常時ネット接続ができてパケット使い放題のスマートフォンの貸出しを無償で行い、本事業への参加・協力を依頼した。

スマートフォンは、百十四経済研究所が保有する端末 35 台を活用し、2019 年 9 月から 2020 年 1 月までの間に、累計 37 人の外国人モニターを確保した。

目 的	内 容
GPS データの収集	外国人モニターの周遊動態を GPS システムにより収集し、百十四経済研究所のサーバーにデータベースとして蓄積する。
お遍路交流サイトへの参加	フェイスブックにより開設した英語のお遍路交流サイトにメンバー登録することで、当該外国人モニターの周遊をサポートしながら、意見や困りごとの収集を行う。
アンケート調査への回答	四国遍路に関する内容のアンケートやインタビューを行い意見や困りごと等のデータを収集する。

(2) スマートフォン貸出条件

外国人モニターとしてスマートフォンを貸出す対象者は、以下の条件で絞り込んだ。

項 目	条 件 等
モニターの属性	欧米豪の諸国から訪日した外国人旅行者を対象とする。 年齢、性別等は考慮しない。
周遊形態	原則として、主に歩いて四国 88 カ所を周遊する外国人を対象とする。滞在日数等の制約から、88 ヶ所全部を周遊できなくても、2 週間以上の周遊を予定している外国人は対象とする。
スマートフォンの貸出条件	所定の規約を通読し、承諾書に同意すること。 周遊期間中、GPS データの取得の許容、英語お遍路情報交流サイトへの登録、アンケート調査への回答等、必要なデータ収集に協力すること。

(3) スマートフォン貸出方法

スマートフォン貸出による外国人モニターの募集は、一般外国人旅行者および有識者の紹介による外国人旅行者に対して下表の方法で行い、本事業の趣旨に賛同が得られた外国人を対象にスマートフォン端末の貸し出しを行った。

属 性	貸出場所	人 数	募集方法
一般来訪者	1 番～6 番札所	25 人	宿坊、納経所、休憩施設等に立ち寄った外国人に声を掛けて募集。(有識者 岩本氏の協力)
	10 番札所	5 人	門前の遍路用品販売店に立ち寄った外国人に声を掛けて募集。(すもとり屋 浅野氏に依頼)
有識者等の紹介	宿泊施設等	7 人	四国在住の外国人や遍路関係者等、日本在住者が紹介した外国人またはその知人 (NPO 法人遍路とおもてなしのネットワーク 宍戸事務局長等との連携)
合 計		37 人	

(4) 端末、書面、募集担当者等

外国人モニターの募集およびスマートフォン端末の貸し出しについては、個人情報保護等のコンプライアンスに配慮しリーガルチェックを経た書類を使う等、下表の対応を行った。外国人への説明についても、適切性を確保するため、外国人遍路に対して知見を有する下表の担当者と百十四経済研究所が緊密な連携を取って行った。

項目	内容
貸出端末	SONY 製スマートフォン「Xperia XZ3」SIM Free 35 台
募集関係書類	実証調査案内のチラシ 実証調査参加要項 開始アンケート 実証調査参加規約書および同意書 終了アンケート
募集担当者	NPO 法人遍路とおもてなしのネットワーク 宍戸事務局長 遍路インバウンド・コンサルタント岩本氏 スモトリ屋浅野総本店 代表 浅野氏

(5) アンケート協力者の募集

スマートフォンを貸出した外国人モニターからの情報を補強するために、四国遍路に訪れた以下の外国人に協力を依頼してアンケート調査やインタビューを行った。アンケート協力者には、スマートフォン貸出しに応じてもらえなかった外国人も含まれる。

項目	内容
モニターの属性	欧米豪の諸国から訪日した外国人旅行者を対象とする。 年齢、性別等は考慮しない。
巡礼形態	原則として、主に歩いて四国 88 カ所を周遊する外国人を対象とする。滞在日本数等の制約から、88 ヶ所全部を周遊できなくても、2 週間以上の周遊を予定している外国人は対象とする。

2. お遍路交流サイトの構築

(1) サイトの概要

フェイスブック上に、英語の「お遍路交流サイト」を構築し、スマートフォンを貸出した外国人モニターにメンバーとして登録させることで、参加者の周遊をサポートしながら、意見や困りごとの収集を行った。

項目	内容
開設場所	Facebook 法人アカウント
開設者・名称	百十四経済研究所・Shikoku Pilgrimage Information Gathering Project
参加者	スマートフォンを貸出した外国人に限定したクローズドなサイト。
目的	外国人への情報支援をしながら、旅ナカの意見や困りごとを収集する。 将来の事業化等を見据えて、対応負荷等も把握する。

(2) サイト運営態勢

交流サイトでは、サポート情報の発信や外国人歩き遍路からの質問等への対応が必要となることから、以下のスタッフを配置した。本サイトには、スマートフォン貸出総数 37 人の内、14 人が登録した。スタッフは、個人や所属団体のパソコンや自身のスマートフォンからサイトにアクセスして対応を行った。

役職	担当者	役割
管理者	<ul style="list-style-type: none"> 統括管理者: 百十四経済研究所1名 管理者: 百十四経済研究所 2 名および 遍路インバウンド・コーディネーター & プランナー 岩本昌子氏 Web 管理者: (株)englishbiz 代表取締役 ゲルネホルト・マーク氏 	<ul style="list-style-type: none"> 投稿・回答状況のモニタリング、指導、 注意喚起等、情報交流全体を監視 巡礼、トレイルの専門家として助言・困 りごとへの対応(含、時間外対応) Web 戦略の立案、コンテンツ更新等 を実施
地区担当者	<ul style="list-style-type: none"> 四国アライアンス 3 社の担当者 四銀地域経済研究所、いよぎん地域経 済研究センター、徳島経済研究所 	<ul style="list-style-type: none"> 地域情報の提供や地域での異変、トラ ブル等が発生したときに現地対応
情報支援者	株式会社四国遍路代表 佐藤 崇裕氏	<ul style="list-style-type: none"> 管理者で対応しきれない照会等に関 する情報支援
有識者	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人遍路とおもてなしのネットワー ク事務局長 宍戸栄徳氏 	<ul style="list-style-type: none"> 有識者、経験者として、運営に関する 幅広い助言、指導

3. GPSデータ収集システムの運営

(1) システムの概要

徳島文理大学工学部山本教授との協働で百十四経済研究所のサーバー上に構築しているGPSデータ収集システムを利用して、外国人遍路のスマートフォンが取得したGPSデータを収集。今回の事業は、百十四経済研究所が保有するシステムとスマートフォンを利用して行った。

項目	内容
スマートフォンの対応	スマートフォン利用者が 50m 移動する毎に GPS 情報をサーバーに向けて送信
サーバーの対応	スマートフォンから送られてくる GPS 情報をサーバーに蓄積し、移動経路を描画

(2) 管理態勢

GPS 収集システムの運営・管理を以下のとおり行った。なお、システム上にGPS収集の対象となっている外国人の個人情報は存在しない。

項目	内容
システム上の管理	徳島文理大学工学部山本教授
外国人モニターの動態のモニタリング	百十四経済研究所の役職員等

資料3. アンケート調査概要

外国人遍路に対するアンケート調査を以下の要領で実施した。アンケート項目は、添付資料（和英）のとおり。

方法	件数	実施期間	実施場所等
Webアンケート	45	2019年11月28日～ 2020年2月28日	主として、フェイスブック Ohenro San（お遍路さん交流サイト・英語）から、協力者を募集し、Webアンケートとして回答を得たもの。
対面アンケート	19	2019年10月30日～ 2020年1月7日	スマートフォンの貸出しを行った外国人遍路を中心に、高松近郊における対面アンケート調査に協力してくれた外国人遍路を対象として、百十四経済研究所職員が英語で実施したもの。
合計	64		

外国人歩き遍路を対象としたアンケート調査

今回のプロジェクトに参加し、完歩または長距離の巡礼路を歩かれた外国人の皆さまにご意見をお伺いします。今後の環境整備に役立てたいと考えており、ご協力宜しくお願い申し上げます。

※ スタート時点でアンケートをお願いしました方々についても、個人情報保護のため当該アンケートとはリンクさせておらず、重複した質問になりますが、ご容赦ください。

回答日：____年__月__日

問1. ご自身のことについて、可能な範囲でお答え下さい。

- (a) 居住地 _____ (国名または地域名)
 (b) 性別 ①男性 ②女性 ③ _____
 (c) 年齢 ①10代、②20代、③30代、④40代、⑤50代、⑥60代、⑦70代以上
 (d) 職業 _____
 (e) 四国遍路以外に巡礼路を歩いた経験はありますか。
 ① スペインの聖地巡礼 ②熊野古道 ③その他(_____) ④なし

問2. 四国遍路を知ったきっかけは何ですか。(該当するもの全てを選択下さい)

- ①テレビ ②インターネット検索 ③SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)
 ④ブログ ⑤旅ガイドブック ⑥書籍 ⑦家族、友人、知人からの紹介
 ⑧その他(_____)
 その詳細 _____

問3. 今回の四国遍路巡礼体験について、おうかがいします。

- (a) 何名で巡礼されましたか？ _____人
 (b) 何度目の四国遍路の巡礼ですか？
 ①初回 ②2回目 ③3回目 ④4回目以上
 (c) 何度目の来日ですか？
 ①初回 ②2回目 ③3回目 ④4回目以上
 (d) 完歩ですか、区間巡礼ですか。
 ①完歩 ②区間巡礼 (No. _____ ~ No. _____)

問4. 今回の巡礼計画と結果についてお答えください。

- (a) 四国での滞在日数はどのくらいでしたか。 _____日 (当初計画 _____日)
 (b) 日本での滞在日数はどのくらいでしたか。 _____日 (当初計画 _____日)
 (c) 遍路の予算(総額)はどのくらいでしたか。 _____円 (当初計画 _____円)
 (d) 想定外の出費がありましたか？それは何の出費でしたか？
 想定外の出費 _____

(e) 巡礼には徒歩以外の交通手段を利用しましたか？利用の理由および当初計画からの変更の有無をお答えください。

交通手段	変更	理由
<input type="checkbox"/> 列車	<input type="checkbox"/> 予定通り <input type="checkbox"/> 変更あり	<input type="checkbox"/> 時間不足 <input type="checkbox"/> 周辺観光 <input type="checkbox"/> 巡礼路が単調 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> 予定通り <input type="checkbox"/> 変更あり	<input type="checkbox"/> 時間不足 <input type="checkbox"/> 周辺観光 <input type="checkbox"/> 巡礼路が単調 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 車	<input type="checkbox"/> 予定通り <input type="checkbox"/> 変更あり	<input type="checkbox"/> 時間不足 <input type="checkbox"/> 周辺観光 <input type="checkbox"/> 巡礼路が単調 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 自転車	<input type="checkbox"/> 予定通り <input type="checkbox"/> 変更あり	<input type="checkbox"/> 時間不足 <input type="checkbox"/> 周辺観光 <input type="checkbox"/> 巡礼路が単調 <input type="checkbox"/> その他

問5. 四国遍路を巡礼して、期待していたことを実現できましたか？

(a) 満足度

満足度はどうでしたか？

1	2	3	4	5
大いに不満	不満	期待通り	満足	大いに満足

(b) 期待した目的毎の期待と満足度についてお伺いします。(1~5でお答えください)

	期待した分野	巡礼後の満足度
	期待小←普通→期待大	不満←普通→満足
① 自己発見・精神修養	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
② 観光・自然体験	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
③ 日本文化・歴史の関心	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
④ 人々(住民・巡礼者)との交流	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
⑤ 仏教への関心	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
⑥ 祈願・信仰	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
⑦ その他(_____)	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5

(c)その他、体験上、四国遍路についてコメントがあれば記入してください。

(d)特に印象に残ったことがあれば記述ください。

問6. 日常生活について

(a) 宿泊で利用した施設の%、満足度とその理由(質、料金)についてお聞かせください。

宿泊施設	%	不満←普通→満足	理由
ホテル・旅館		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
民宿・ゲストハウス		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
宿坊		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
善根宿、通夜堂		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5
野宿		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5
その他()		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5

(b) 食事で利用した場所の%、満足度とその理由(質、料金)についてお聞かせください。

飲食施設	%	不満←普通→満足	理由
ホテル・旅館の食堂		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
民宿・ゲストハウスの食堂		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
宿坊の食堂		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
レストラン・食堂		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
スーパーでのイートイン		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
コンビニ、スーパーで購入		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5
その他()		1-2-3-4-5	質 1-2-3-4-5 料金 1-2-3-4-5

(c) 困りごとが発生した分野と困った度合いについてお聞かせください。

困った分野	困った← → 困らない	特記
言葉が通じない	1-2-3-4-5	
遍路道がわからない、迷った	1-2-3-4-5	標識等、道の整備
宿泊予約、キャンセル	1-2-3-4-5	言葉が通じず予約が取れない等
食事が合わない	1-2-3-4-5	ビーガン、ベジタリアンメニューがないこと等
健康管理	1-2-3-4-5	
病気・怪我	1-2-3-4-5	
支払い(キャッシュレス)	1-2-3-4-5	不便さ、手持ちの現金が足りない等

(d)特に困ったことがあれば記述ください。

問7. Web 接続環境について

(a) 常時 Web 接続するスマホをどのような目的で利用しましたか

項目
<input type="checkbox"/> フェイスブック、メッセによる照会
<input type="checkbox"/> SNS の情報発信
<input type="checkbox"/> 道の検索
<input type="checkbox"/> 宿泊、飲食等の施設検索
<input type="checkbox"/> 気象情報
<input type="checkbox"/> 友人、家族等との連絡
<input type="checkbox"/> その他

(b) 電波の状態はどうでしたか?

項目	受信電波が弱い ← → 強い
電波の状態	1-2-3-4-5

(c) 機器(簡便に利用できる)貸出にいくらぐらい支払えますか

項目	金額
デポジット(回収後に返却)	0円 3,000 以内 5,000 以内 10,000 以内 20,000 以内 それ以上
利用料	0円 3,000 以内 5,000 以内 10,000 以内 それ以上

Questionnaire Survey for Walking Pilgrims from Overseas (on the Web)

We would like to ask the participants of this Demonstration Experiment and who have walked the Shikoku Pilgrimage a long distance on foot. The purpose of this survey is to improve the pilgrimage environment for future pilgrims. Thank you for your cooperation.

* Although we asked a similar questionnaire when you started this Pilgrimage, this is not linked to the questionnaire for the Protection of Personal Information.

Date: _____

Question – Please answer any or all of the following. Please circle the appropriate answer.

1a. – What country are you from? _____

1b. – Gender: ①Male ②Female ③_____

1c. – Age: ①teens ②20s ③30s ④40s ⑤50s ⑥60s ⑦over 70

1d. – Occupation: _____

1e. – Have you walked a pilgrimage route other than Shikoku?

①Santiago de Compostela ②Kumano Kodo ③Other _____ ④No

2. – How did you come to know about the Shikoku Pilgrimage? (multiple answers allowed)

①TV ②Internet search ③SNS (Twitter, Instagram, Facebook etc.) ④Blog ⑤Travel guidebook

⑥Book ⑦Family, friends, or acquaintances. ⑧Other (_____)

Tell us more details of your answer,

3a. – How many in your group? _____

3b. – How many times have you gone on the Shikoku pilgrimage?

①1st ②2nd ③3rd ④more than four times

3c. – How many times have you come to Japan?

①1st ②2nd ③3rd ④more than four times

3d. – Did you visit all 88 temples on this pilgrimage? ①Yes ②In portions (No. _____ ~No. _____)

4. Tell us about your pilgrimage plan and the results.

4a. –How long did you stay in Shikoku? (_____ Days) (originally planned days : _____ days)

4b. –How long did you stay in Japan? (_____ Days) (originally planned days: _____ days)

4c. –How much was the total amount you budgeted for the Pilgrimage?

(_____ Yen) (original budget _____ yen)

4d. –Did you have any unexpected expenses? If so, what were they for?

4e. –Did you use any transportation other than walking for the Pilgrimage? Please indicate whether it was “as planned” or “changed your plan”, and also indicate the reasons for using the transportation. Check all that apply.

Train	<input type="checkbox"/> As planned <input type="checkbox"/> Changed	<input type="checkbox"/> Insufficient time <input type="checkbox"/> Sightseeing around <input type="checkbox"/> Pilgrimage route monotonous <input type="checkbox"/> Other
Bus	<input type="checkbox"/> As planned <input type="checkbox"/> Changed	<input type="checkbox"/> Insufficient time <input type="checkbox"/> Sightseeing around <input type="checkbox"/> Pilgrimage route monotonous <input type="checkbox"/> Other
Car	<input type="checkbox"/> As planned <input type="checkbox"/> Changed	<input type="checkbox"/> Insufficient time <input type="checkbox"/> Sightseeing around <input type="checkbox"/> Pilgrimage route monotonous <input type="checkbox"/> Other
Bicycle	<input type="checkbox"/> As planned <input type="checkbox"/> Changed	<input type="checkbox"/> Insufficient time <input type="checkbox"/> Sightseeing around <input type="checkbox"/> Pilgrimage route monotonous <input type="checkbox"/> Other

5. Did you achieve what you expected to achieve through the Shikoku pilgrimage?

5a. – How satisfied are you with your Shikoku Pilgrimage experience?

1	2	3	4	5
very unsatisfied	unsatisfied	just as expected	satisfied	very satisfied

5b. –Tell us in details:

Your expectation in the following categories before you started this Shikoku Pilgrimage,
and how did you rate your experience now that you finished the Shikoku Pilgrimage.

Items	Expectation	Satisfaction
①Self-discovery and Spiritual practice	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
②Visit scenic spots & Nature experience	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
③Interest in traditional Japanese culture and history	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
④Interaction with locals	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
⑤Interest in Buddhism	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
⑥Spiritual Connection	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
⑦Other	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5

5c – Do you have any other comment(s) about your experience on the Shikoku Pilgrimage.?

--

5d. –Please describe the most impressive experience you have had on the Pilgrimage.

--

6a. – Daily Life

Give us the breakdown, in percentage, of each accommodation type you used during the Shikoku Pilgrimage, the degree of satisfaction, and the reason (its quality and the price).

1	2	3	4	5
very unsatisfied	unsatisfied	just as expected	satisfied	very satisfied

Accommodation	%	Satisfaction	Reason
Hotel, Japanese ryokan		1-2-3-4-5	Quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Minshuku, guest house		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Temple stay		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5

Zenkonyado, Tsuyado		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Sleeping Outside		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Other()		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5

6b. – Give us the breakdown, in percentage, of each place you used for meals during the Shikoku Pilgrimage, the degree of satisfaction, and the reason (its quality and the price).

Facilities	%	Satisfaction	Reason
Facilities at a Hotel and Japanese ryokan.		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Facilities at a Minshuku, or a Guest House		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Facilities at a temple		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Restaurant or a Cafeteria		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Eat-in at a Supermarket		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Food at a Convenience Store or a Supermarket		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5
Other()		1-2-3-4-5	quality 1-2-3-4-5 price 1-2-3-4-5

6c. –Tell us about a difficult or awkward situation you have experienced.

Items	difficulty	Special Notes
Communicating with the local people	1-2-3-4-5	
Finding your way / getting lost	1-2-3-4-5	a traffic sign, condition of the road
Making reservations or cancellations	1-2-3-4-5	Couldn't make a reservation because of the language barrier
Japanese cuisine	1-2-3-4-5	There was no vegan or vegetarian menu
General health during your pilgrimage	1-2-3-4-5	
Accidents and injuries	1-2-3-4-5	
Availability of cashless payment options	1-2-3-4-5	Inconvenience, short of cash, etc.

6d. -Describe the most difficult problems you have experienced in this Pilgrimage.

--

7a. - For which purposes did you use a cell-phone that was always connected to the Internet?

Items
<input type="checkbox"/> Ask us questions through our page and messenger service
<input type="checkbox"/> Dissemination of Information through SNS (Twitter, Instagram, Facebook etc.)
<input type="checkbox"/> Route Search
<input type="checkbox"/> Search for accommodation, eating and drinking facilities
<input type="checkbox"/> Weather information
<input type="checkbox"/> Contact with friends, family, etc.
<input type="checkbox"/> Other

7b - Mobile Internets Signal strength.

	Bad ↔ Good
How you rate the mobile internets signal strength	1-2-3-4-5

7c. - How much would you pay for renting equipment if it was easy to carry and use?

Items	Amount of money
Deposit (will be returned to you later)	0yen less than 3,000yen less than 5,000yen less than 10,000yen less than 20,000yen above 20,000yen
Usage Charge	0yen less than 3,000yen less than 5,000yen less than 10,000yen above 10,000yen



HYAKUJYUSHI ECONOMIC RESEARCH
 TEL 81-87-836-2492
 In charge: Matsumoto (Ms.)

